

令和2年度

菊川市男女共同参画・多文化共生に関する市民アンケート

報 告 書

令和3年2月

菊川市

I 調査の概要

1. 調査時期

令和2年12月23日～令和3年1月22日

2. 調査対象区域

菊川市全域

3. 調査対象

菊川市に居住する16歳以上の市民1000人(住民基本台帳より無作為抽出)

4. 調査方法

郵送配布、郵送回収。書面自記入方式。

5. 回収状況

- (1) 配布数 1000通
- (2) 回収数 368通
- (3) 回収率 36.8%

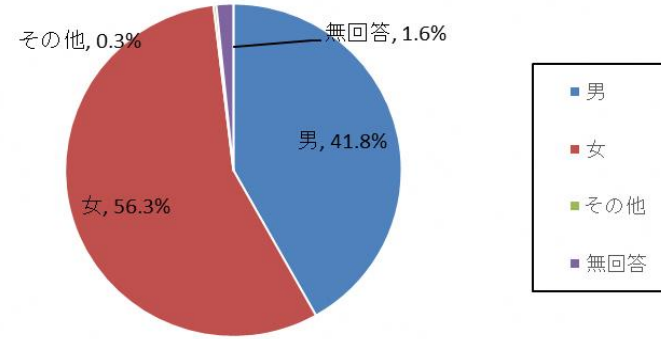
Ⅱ 調査結果

属性

①性別

選択項目	人数	構成比
男	154	41.8%
女	207	56.3%
その他	1	0.3%
無回答	6	1.6%
計	368	100.0%

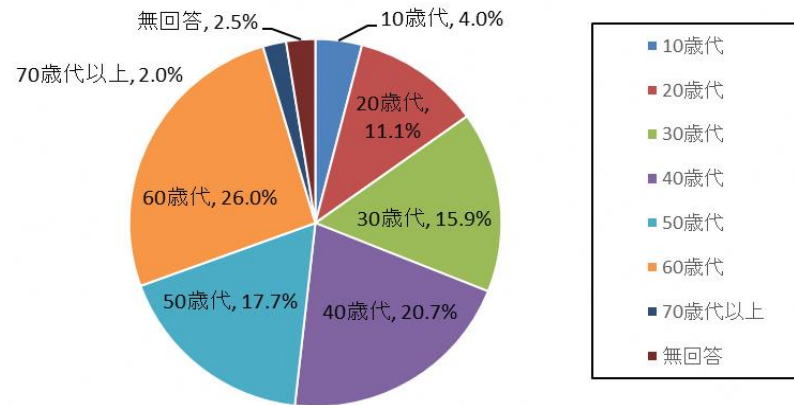
①性別



②年齢

選択項目	人数	構成比
10歳代	16	4.0%
20歳代	44	11.1%
30歳代	63	15.9%
40歳代	82	20.7%
50歳代	70	17.7%
60歳代	103	26.0%
70歳代以上	8	2.0%
無回答	10	2.5%
計	396	100.0%

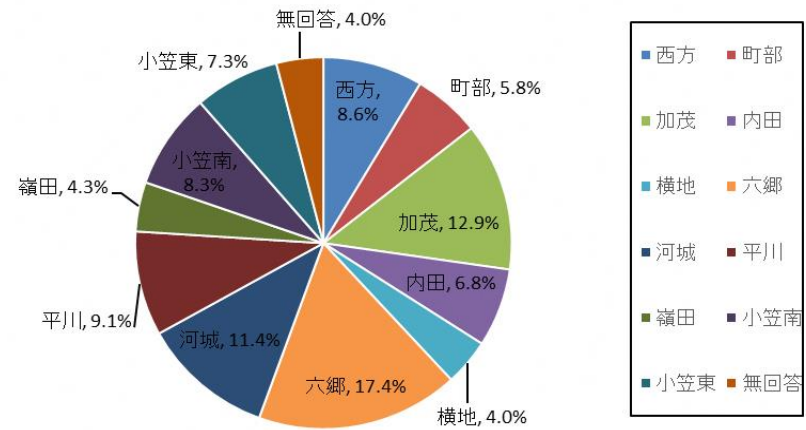
②年齢



③地区(行政区)

選択項目	人数	構成比
西方	34	8.6%
町部	23	5.8%
加茂	51	12.9%
内田	27	6.8%
横地	16	4.0%
六郷	69	17.4%
河城	45	11.4%
平川	36	9.1%
嶺田	17	4.3%
小笠南	33	8.3%
小笠東	29	7.3%
無回答	16	4.0%
計	396	100.0%

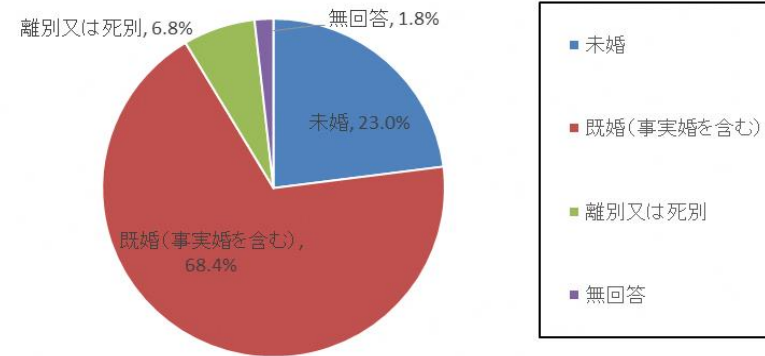
③地区(行政区)



④ 結婚の有無

選択項目	人数	構成比
未婚	91	23.0%
既婚(事実婚を含む)	271	68.4%
離別又は死別	27	6.8%
無回答	7	1.8%
合計	396	100.0%

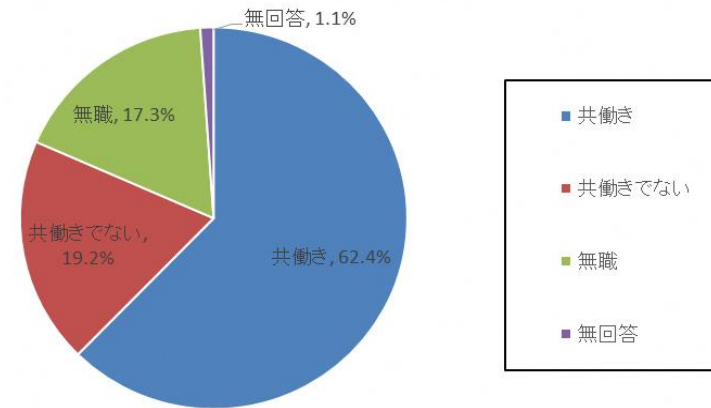
④ 結婚の有無



⑤ ④で既婚の方の就業形態(パート、アルバイト等を含む)

選択項目	人数	構成比
共働き	169	62.4%
共働きでない	52	19.2%
無職	47	17.3%
無回答	3	1.1%
計	271	100.0%

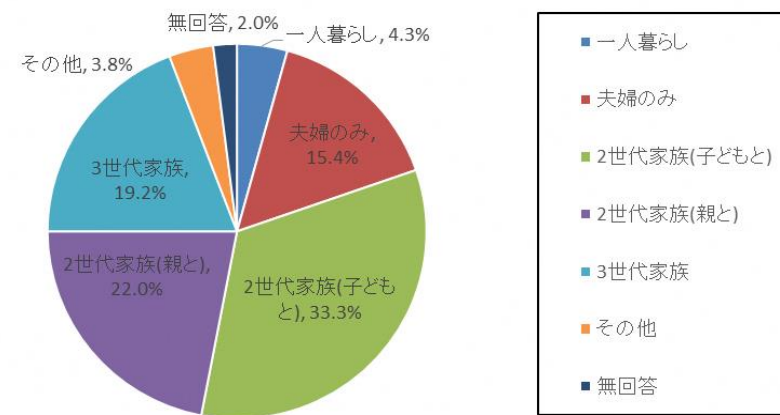
⑤ ④で既婚の方の就業形態(パート、アルバイト等を含む)



⑥ 家族の構成

選択項目	人数	構成比
一人暮らし	17	4.3%
夫婦のみ	61	15.4%
2世代家族(子どもと)	132	33.3%
2世代家族(親と)	87	22.0%
3世代家族	76	19.2%
その他	15	3.8%
無回答	8	2.0%
計	396	100.0%

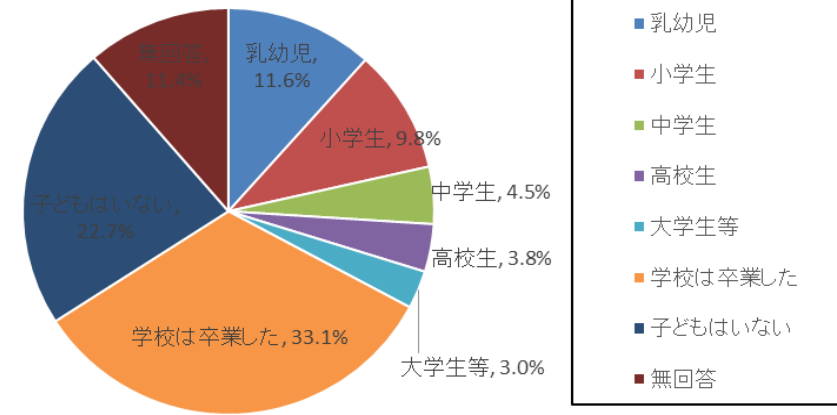
⑥ 家族の構成



⑦ 子供の有無と一番下の子供の階層

選択項目	人数	構成比
乳幼児	46	11.6%
小学生	39	9.8%
中学生	18	4.5%
高校生	15	3.8%
大学生等	12	3.0%
学校は卒業した	131	33.1%
子どもはいない	90	22.7%
無回答	45	11.4%
計	396	100.0%

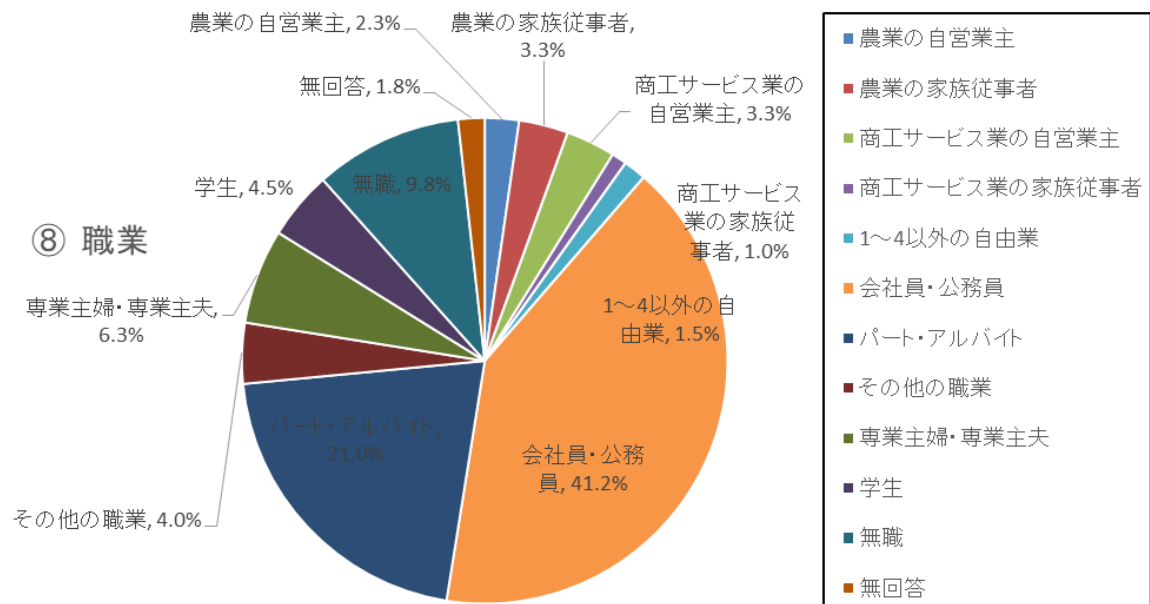
⑦ 子供の有無と一番下の子供の階層



⑧ 職業

選択項目	人数	構成比
農業の自営業主	9	2.3%
農業の家族従事者	13	3.3%
商工サービス業の自営業主	13	3.3%
商工サービス業の家族従事者	4	1.0%
1~4以外の自由業	6	1.5%
会社員・公務員	163	41.2%
パート・アルバイト	83	21.0%
その他の職業	16	4.0%
専業主婦・専業主夫	25	6.3%
学生	18	4.5%
無職	39	9.8%
無回答	7	1.8%
計	396	100.0%

⑧ 職業

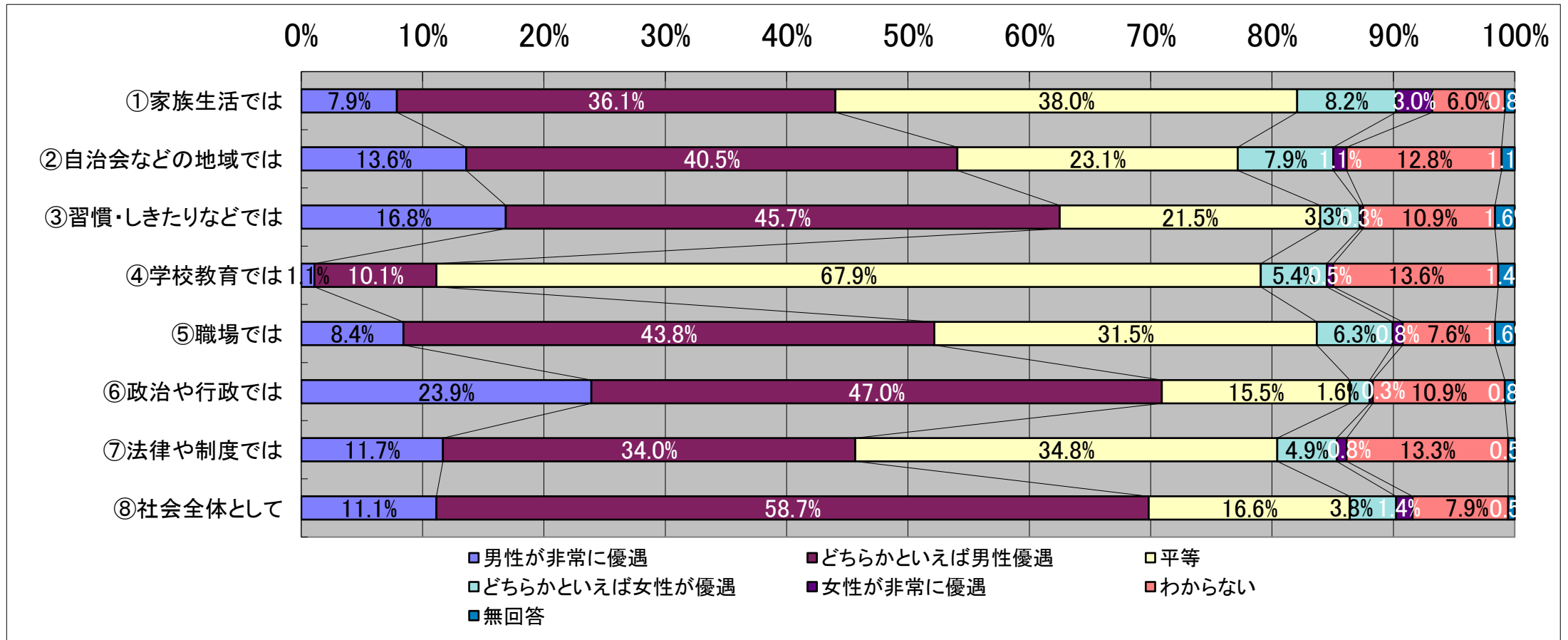


1. 男女共同参画に関する意識について

(1) 男女の地位の平等感

現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。それぞれ1つを選んでください。

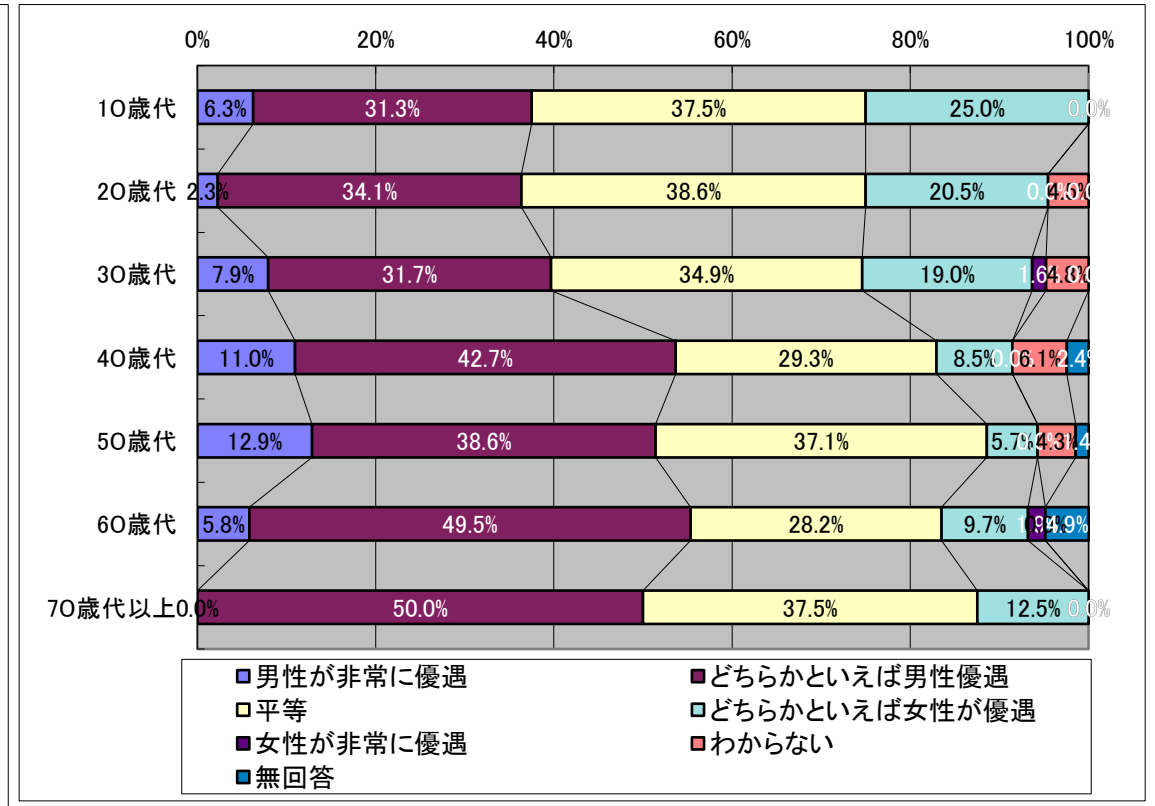
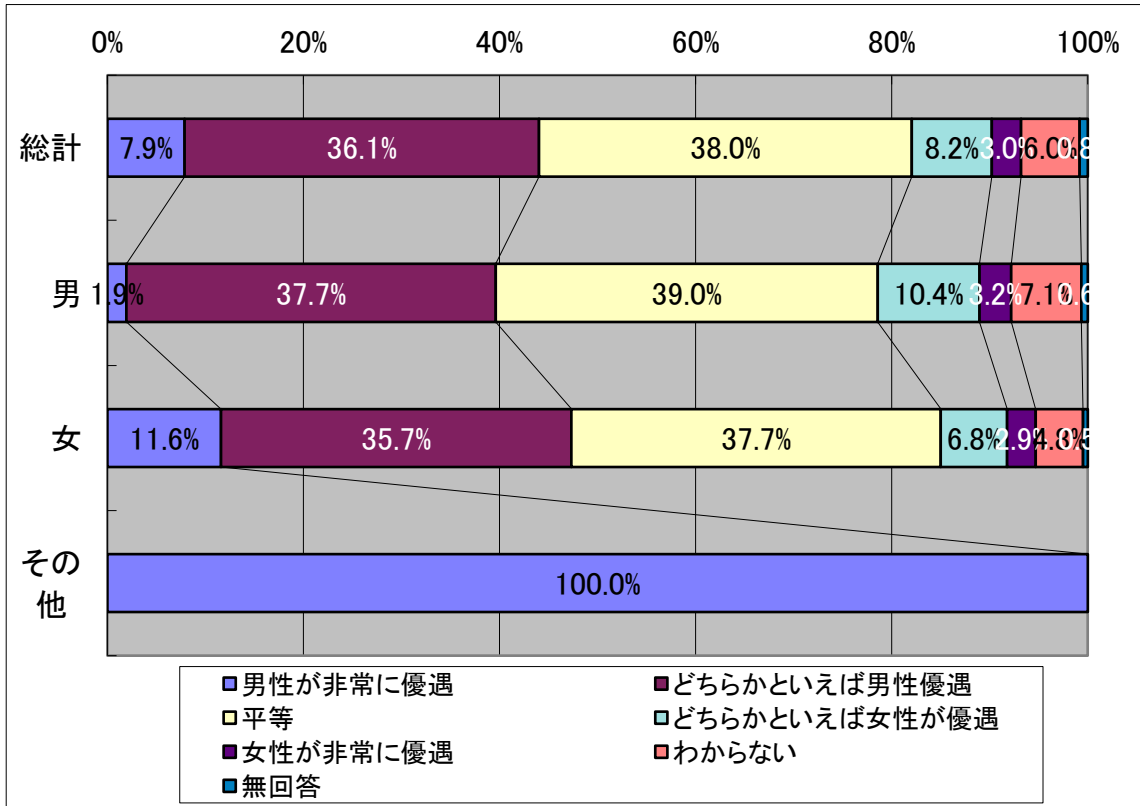
- 様々な分野について男女が平等であるかをたずねたところ、④以外のすべての分野で「男性が優遇」(男性が非常に優遇、どちらかといえば男性優遇)との回答が多く、「女性優遇」(女性が非常に優遇、どちらかといえば女性優遇)との回答を大きく上回る結果となった。
- ④「学校教育では」は、67.9%が「平等」と回答しており、最も平等を感じられる分野であるといえる。



①家族生活では

- 家庭生活について男女別に見ると、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、特に40歳代～60歳代で「男性優遇」と感じる傾向が高い。

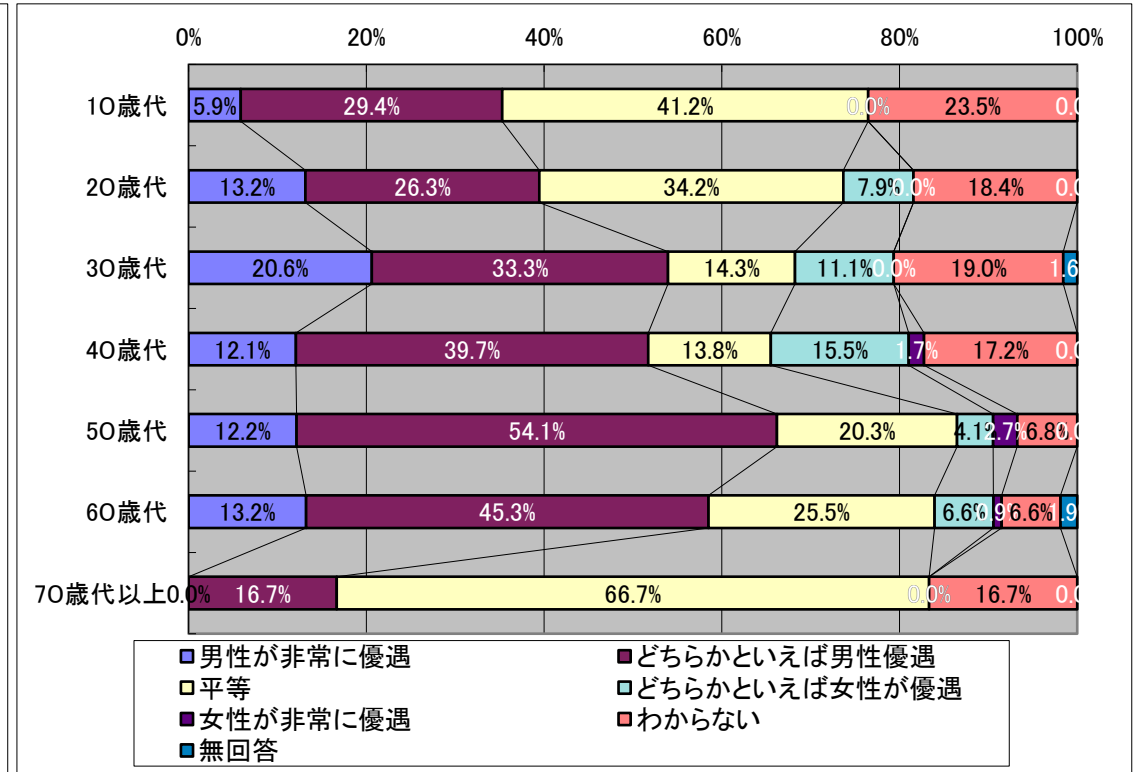
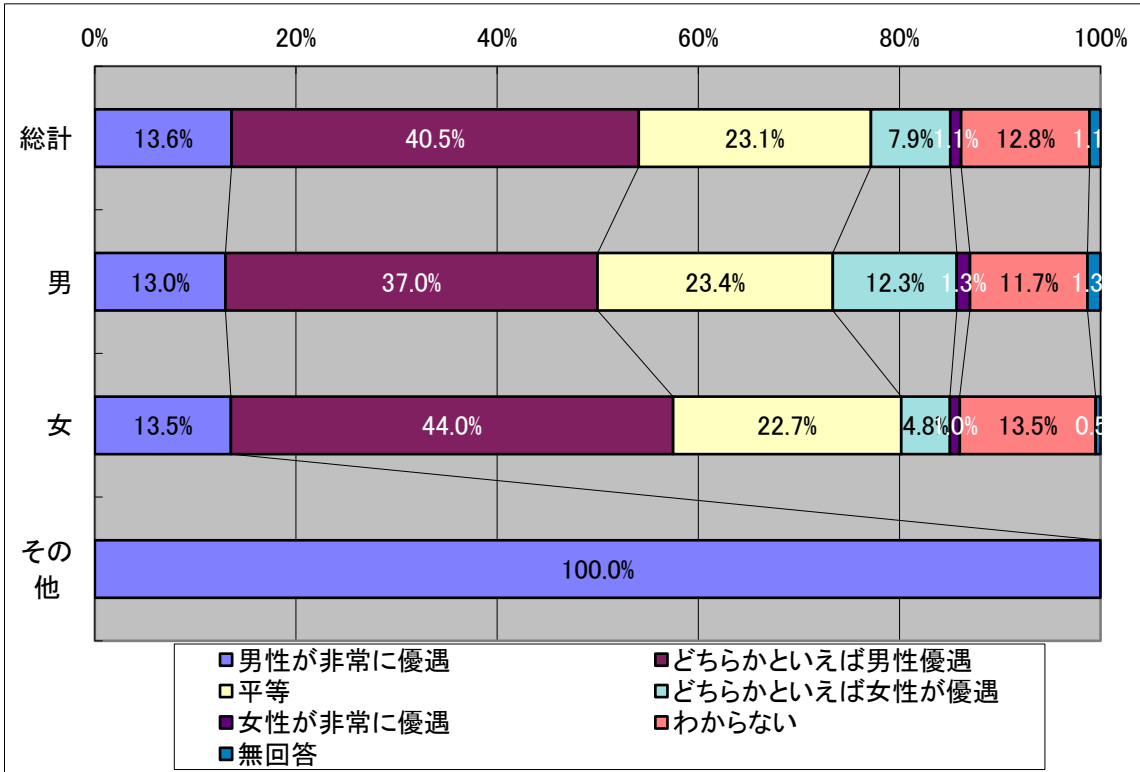
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	29	7.9%	3	1.9%	24	11.6%	1	100.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	133	36.1%	58	37.7%	74	35.7%	0	0.0%	1	16.7%
平等	140	38.0%	60	39.0%	78	37.7%	0	0.0%	2	33.3%
どちらかといえば女性が優遇	30	8.2%	16	10.4%	14	6.8%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	11	3.0%	5	3.2%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	22	6.0%	11	7.1%	10	4.8%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	3	0.8%	1	0.6%	1	0.5%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	365		153		206		1		5	



②自治会などの地域では

- 自治会などの地域について男女別に見ると、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、30歳代以上の年代では「男性優遇」が過半数を超えているが、10歳代、20歳代は過半数を割っている。

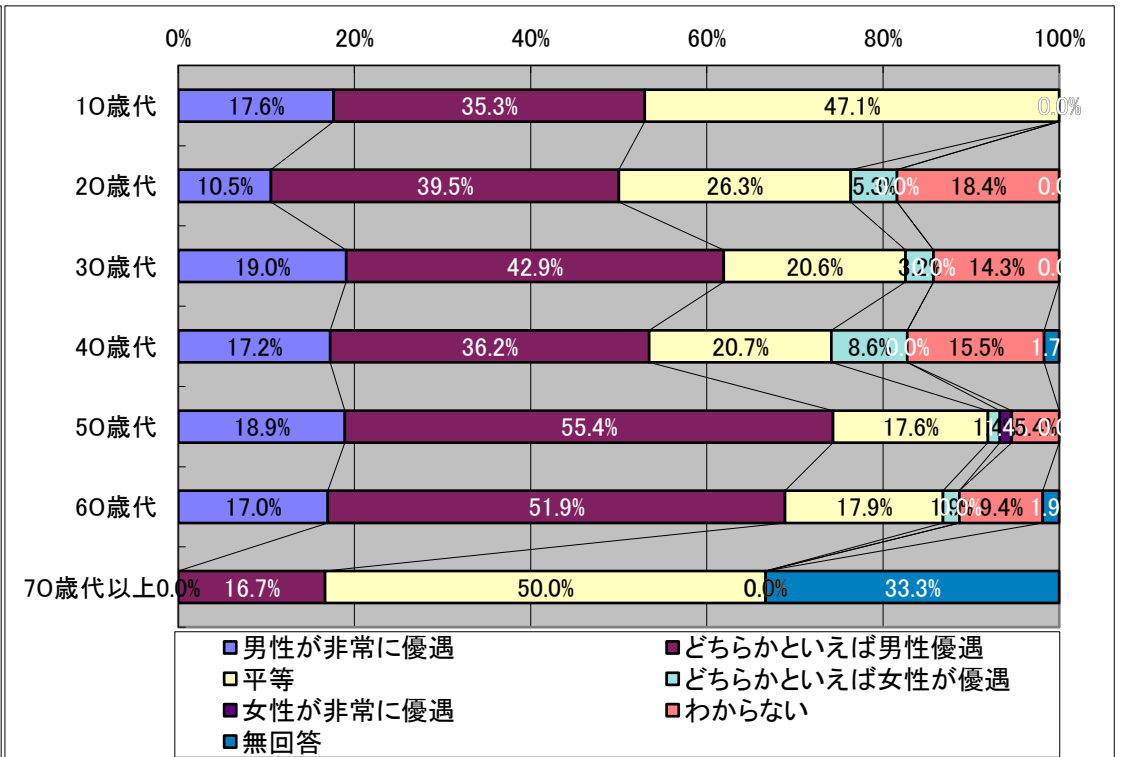
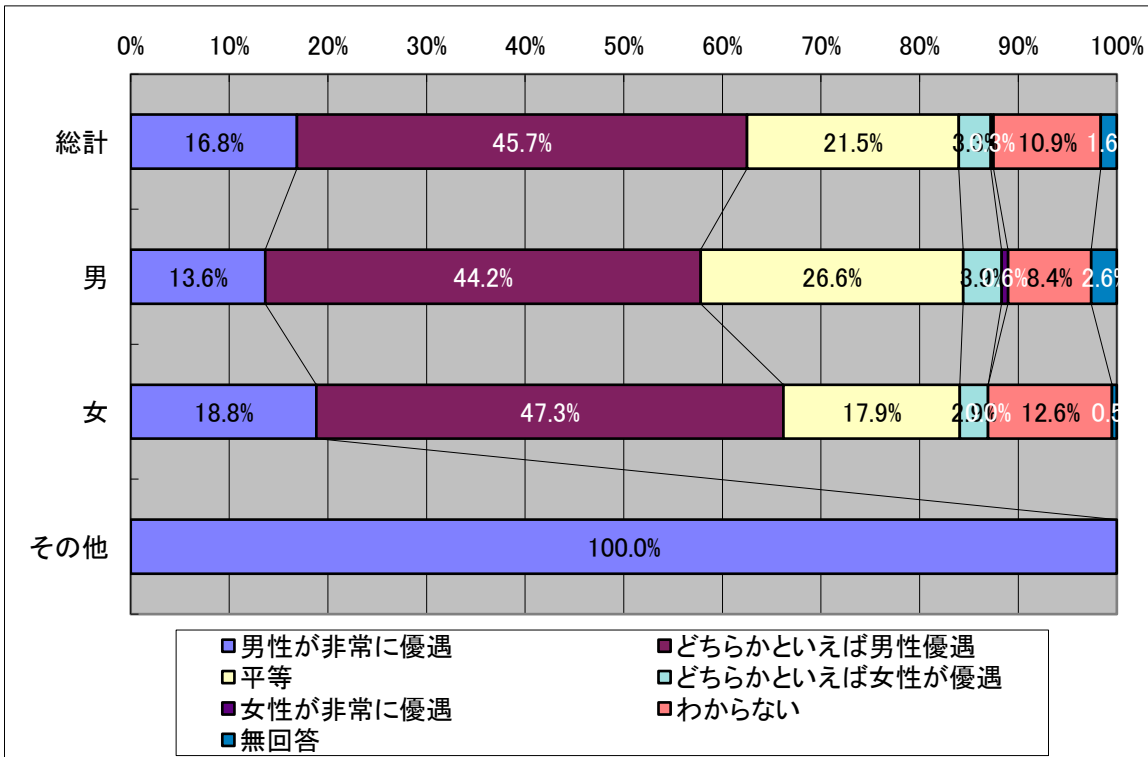
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	50	13.6%	20	13.0%	28	13.5%	1	100.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	149	40.5%	57	37.0%	91	44.0%	0	0.0%	1	16.7%
平等	85	23.1%	36	23.4%	47	22.7%	0	0.0%	2	33.3%
どちらかといえば女性が優遇	29	7.9%	19	12.3%	10	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	4	1.1%	2	1.3%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	47	12.8%	18	11.7%	28	13.5%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	4	1.1%	2	1.3%	1	0.5%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	364		152		206		1		5	



③習慣・しきたりなどでは

- 習慣・しきたりなどについて男女別に見ると、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、30歳～60歳代で「男性優遇」が過半数を超えており、特に50歳代、60歳代については70%以上が「男性優遇」と感じている。

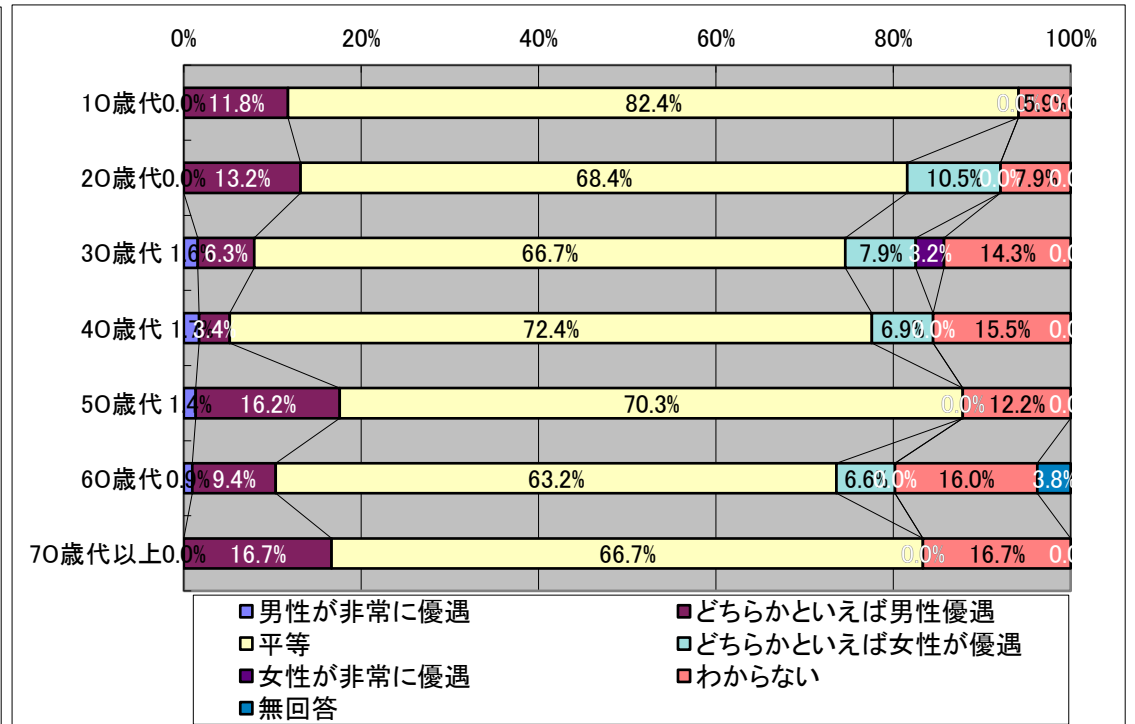
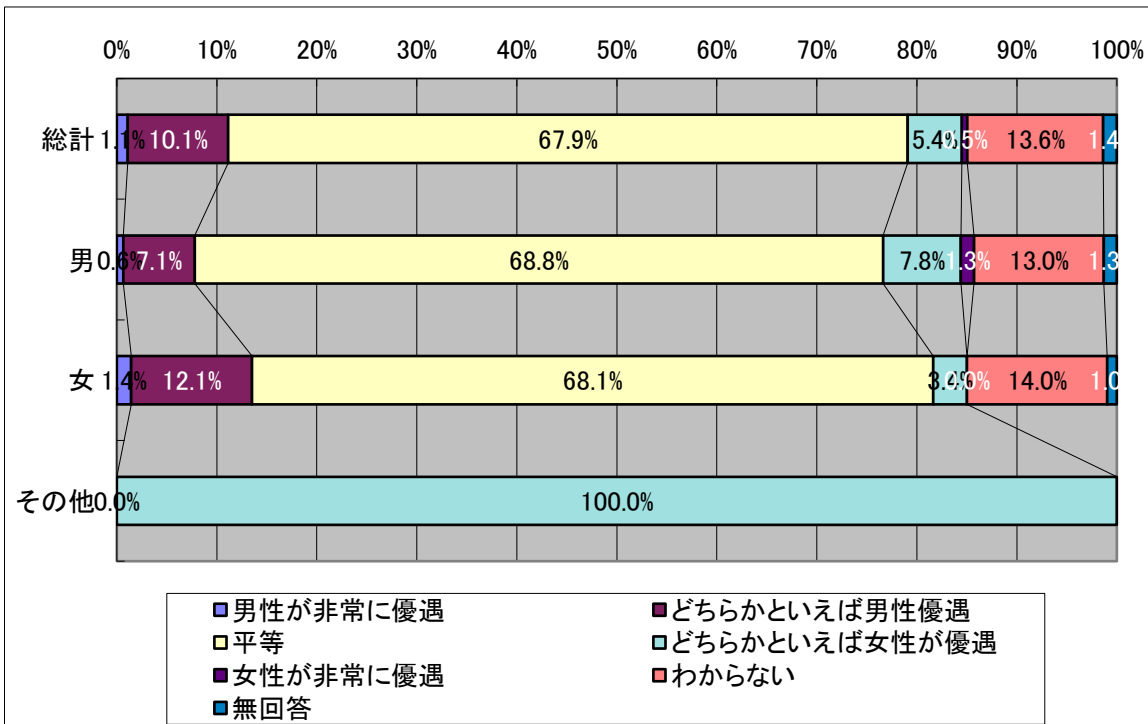
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	62	16.8%	21	13.6%	39	18.8%	1	100.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	168	45.7%	68	44.2%	98	47.3%	0	0.0%	2	33.3%
平等	79	21.5%	41	26.6%	37	17.9%	0	0.0%	1	16.7%
どちらかといえば女性が優遇	12	3.3%	6	3.9%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	40	10.9%	13	8.4%	26	12.6%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	6	1.6%	4	2.6%	1	0.5%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	362		150		206		1		5	



④学校教育では

- 学校教育については、「平等」が67.9%で過半数を超えている。
- 年齢別に見ると、10歳代、40歳代、50歳代で「平等」が70%を超えており、特に10歳代では82.4%と最も高くなっている。

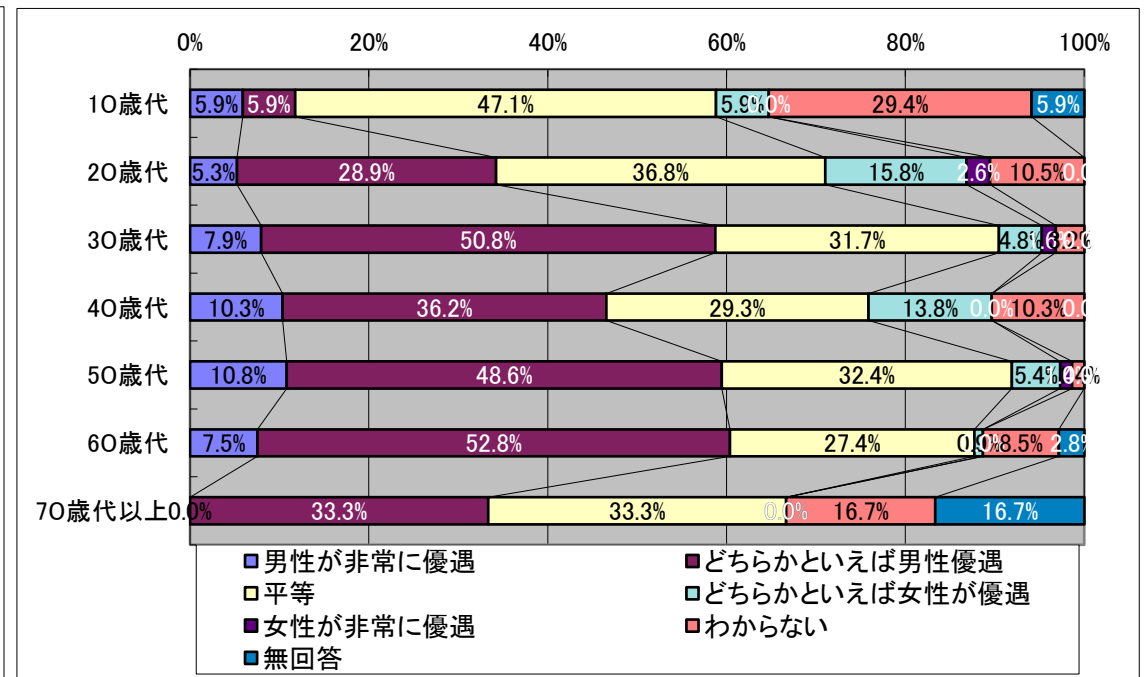
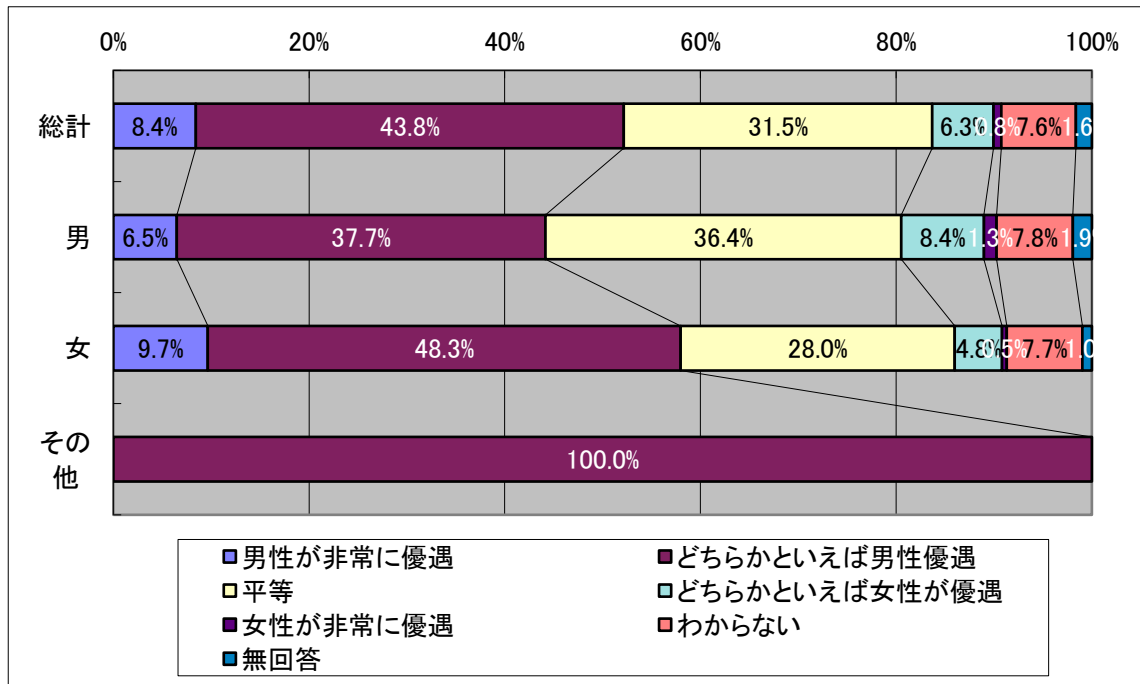
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	4	1.1%	1	0.6%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえば男性優遇	37	10.1%	11	7.1%	25	12.1%	0	0.0%	1	16.7%
平等	250	67.9%	106	68.8%	141	68.1%	0	0.0%	3	50.0%
どちらかといえば女性が優遇	20	5.4%	12	7.8%	7	3.4%	1	100.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	2	0.5%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	50	13.6%	20	13.0%	29	14.0%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	5	1.4%	2	1.3%	2	1.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	363		152		205		1		5	



⑤職場では

- 職場について男女別に見ると、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、30歳～70歳代で「男性優遇」が過半数を超えている。

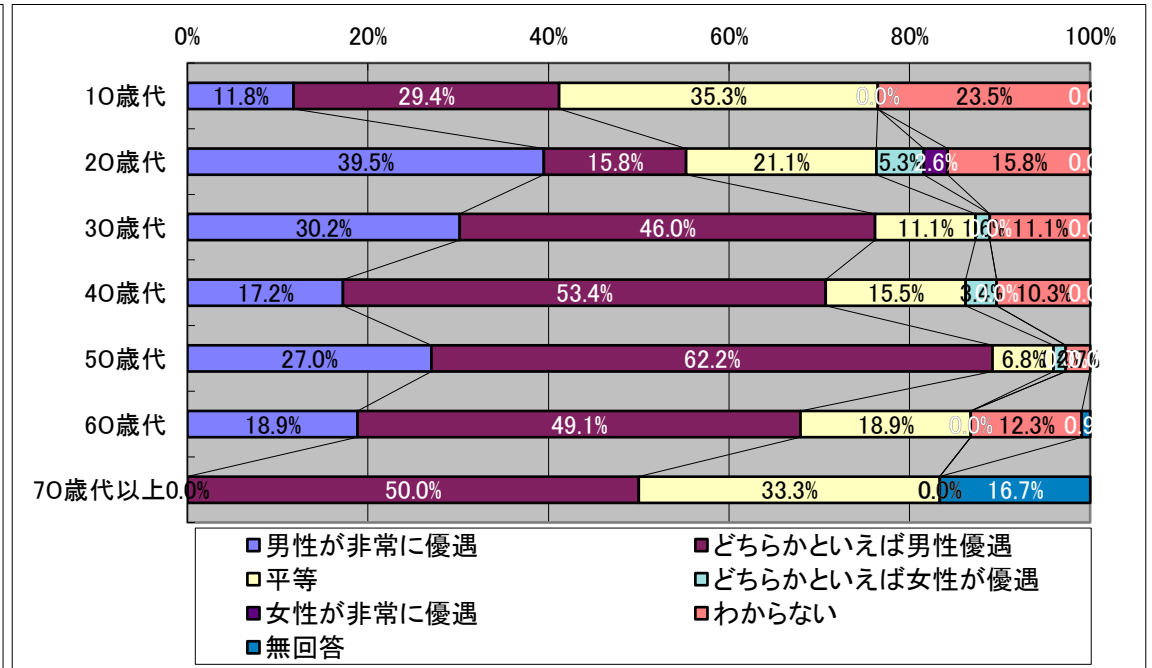
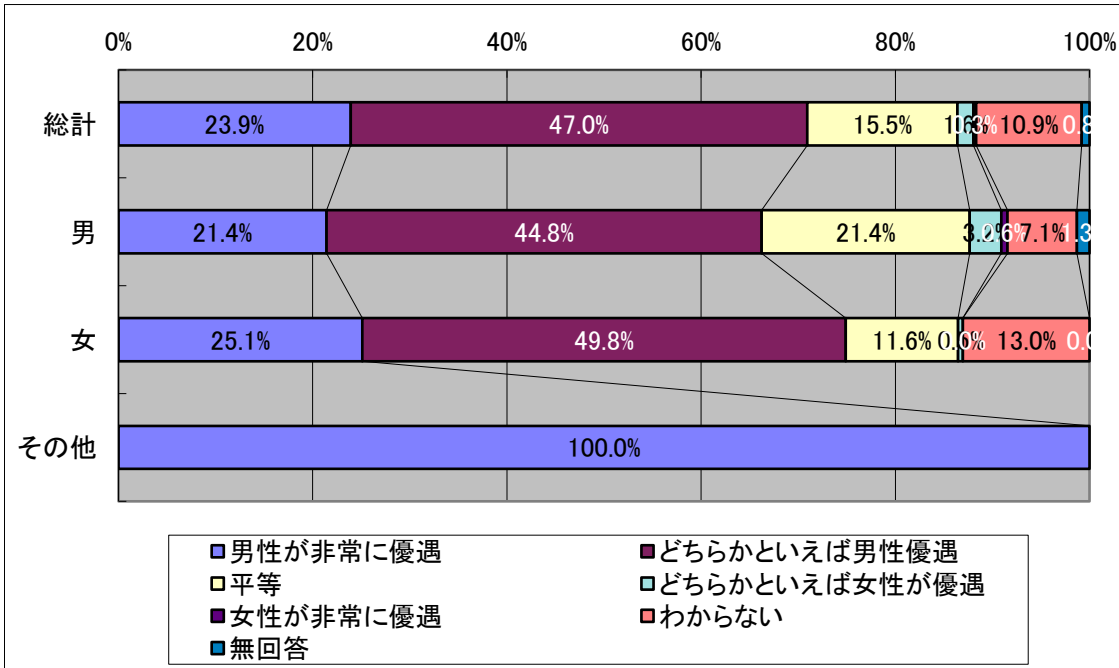
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	31	8.4%	10	6.5%	20	9.7%	0	0.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	161	43.8%	58	37.7%	100	48.3%	1	100.0%	2	33.3%
平等	116	31.5%	56	36.4%	58	28.0%	0	0.0%	2	33.3%
どちらかといえば女性が優遇	23	6.3%	13	8.4%	10	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	3	0.8%	2	1.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	28	7.6%	12	7.8%	16	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	1.6%	3	1.9%	2	1.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	362		151		205		1		5	



⑥政治や行政では

- 政治や行政について男女別に見ると、女性が74.9%、男性が66.2%となっており、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、10歳代を除き各年代とともに「男性優遇」が過半数を超えており、50歳代については約90%以上が「男性優遇」と感じている。

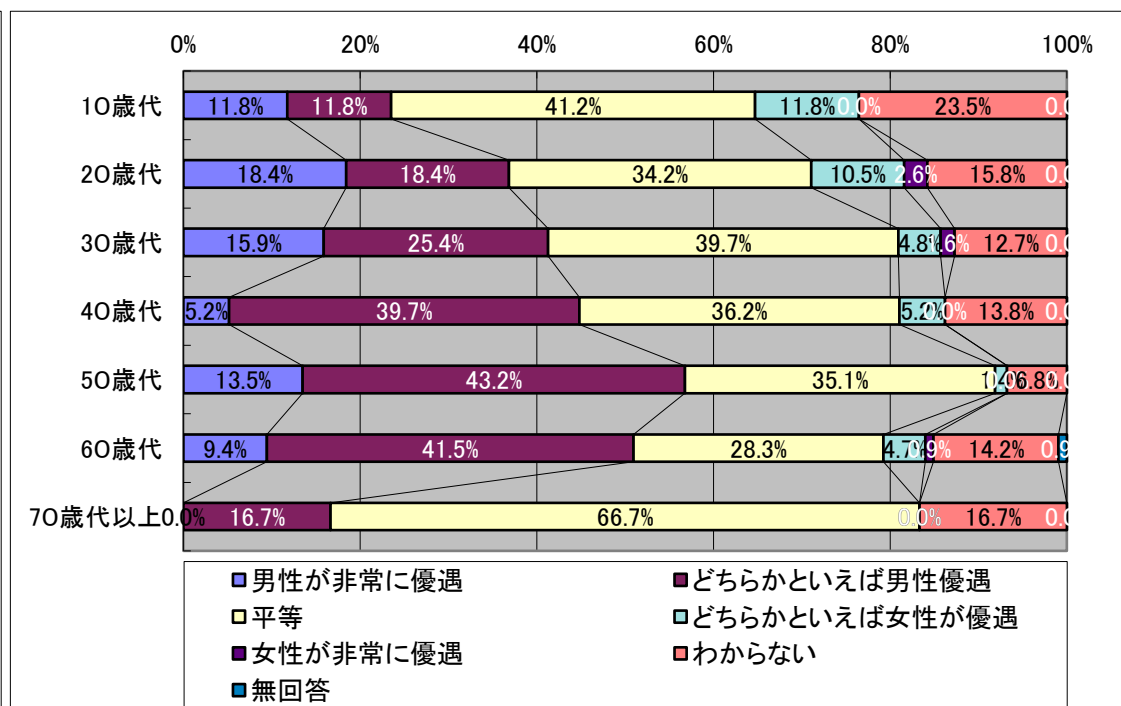
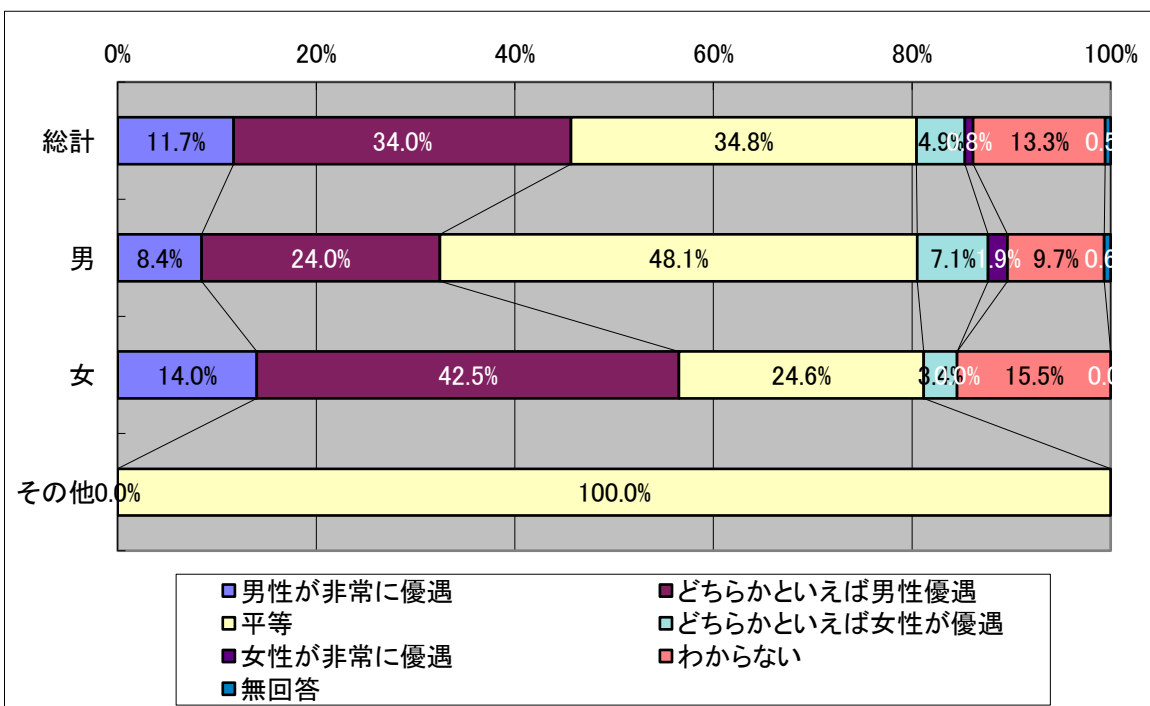
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	88	23.9%	33	21.4%	52	25.1%	1	100.0%	2	33.3%
どちらかといえば男性優遇	173	47.0%	69	44.8%	103	49.8%	0	0.0%	1	16.7%
平等	57	15.5%	33	21.4%	24	11.6%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえば女性が優遇	6	1.6%	5	3.2%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	40	10.9%	11	7.1%	27	13.0%	0	0.0%	2	33.3%
無回答	3	0.8%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	365		152		207		1		5	



⑦法律や制度では

- 法律や制度について男女別に見ると、男性で「平等」が48.1%となっているのに対して、女性は「男性優遇」が56.5%となっている。
- 年齢別に見ると、50歳代、60歳代で「男性優遇」が過半数を超えている。

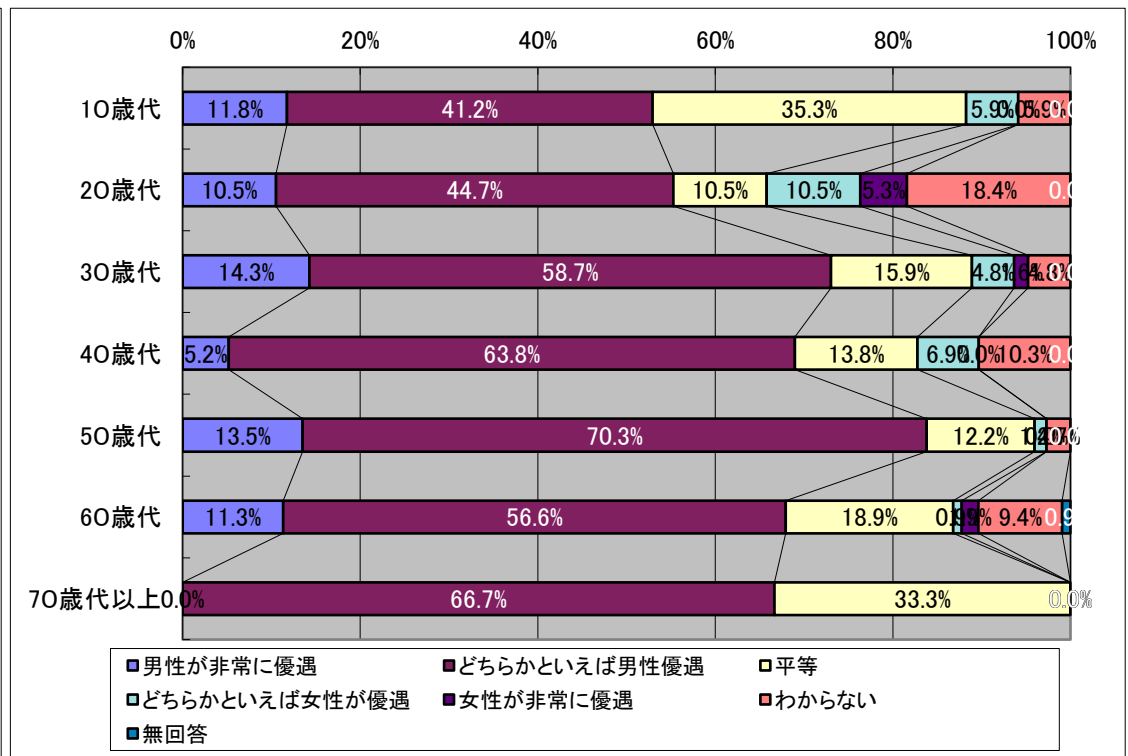
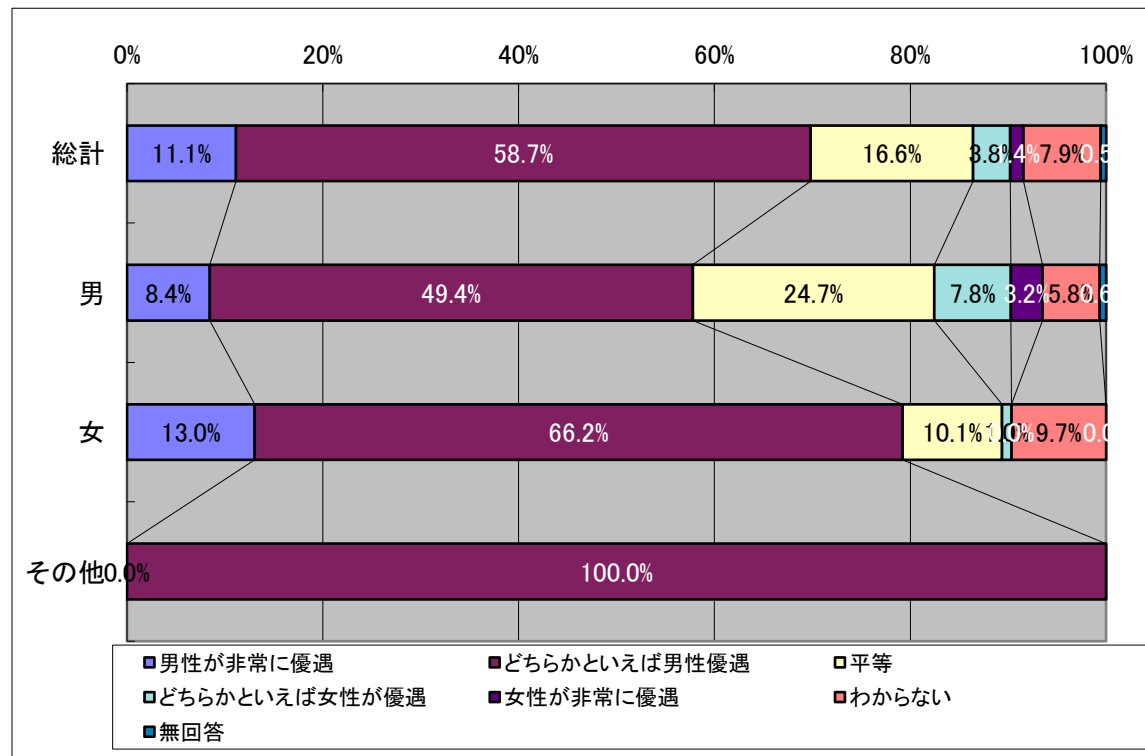
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	43	11.7%	13	8.4%	29	14.0%	0	0.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	125	34.0%	37	24.0%	88	42.5%	0	0.0%	0	0.0%
平等	128	34.8%	74	48.1%	51	24.6%	1	100.0%	2	33.3%
どちらかといえば女性が優遇	18	4.9%	11	7.1%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	3	0.8%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	49	13.3%	15	9.7%	32	15.5%	0	0.0%	2	33.3%
無回答	2	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	366		153		207		1		5	



⑧社会全体として

- 社会全体について男女別に見ると、女性は男性以上に「男性優遇」と感じている。
- 年齢別に見ると、各年代とともに「男性優遇」が過半数を超えており、特に50歳代では約80%以上「男性優遇」と感じている。

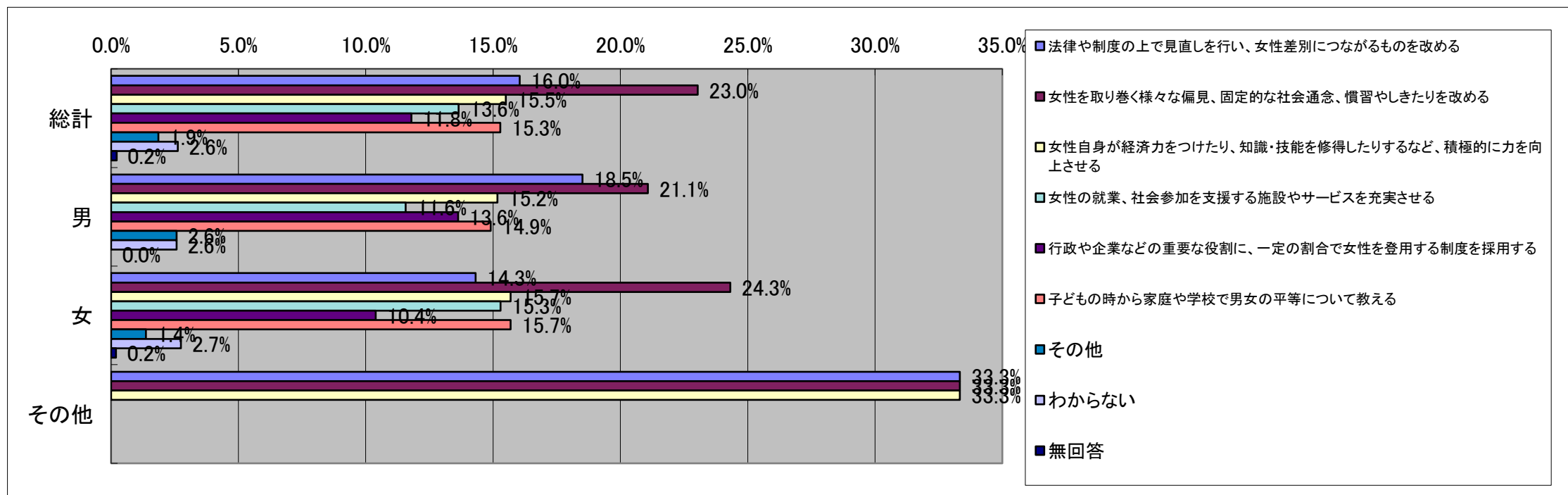
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性が非常に優遇	41	11.1%	13	8.4%	27	13.0%	0	0.0%	1	16.7%
どちらかといえば男性優遇	216	58.7%	76	49.4%	137	66.2%	1	100.0%	2	33.3%
平等	61	16.6%	38	24.7%	21	10.1%	0	0.0%	2	33.3%
どちらかといえば女性が優遇	14	3.8%	12	7.8%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
女性が非常に優遇	5	1.4%	5	3.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	29	7.9%	9	5.8%	20	9.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	366		153		207		1		5	



(2) 今後、男女が不平等を感じないようにするために、重要なことは何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

○「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める」が21.1%と最も高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改める	147	16.0%	72	18.5%	73	14.3%	1	33.3%	1	7.1%
女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める	211	23.0%	82	21.1%	124	24.3%	1	33.3%	4	28.6%
女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる	142	15.5%	59	15.2%	80	15.7%	1	33.3%	2	14.3%
女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる	125	13.6%	45	11.6%	78	15.3%	0	0.0%	2	14.3%
行政や企業などの重要な役割に、一定の割合で女性を登用する制度を採用する	108	11.8%	53	13.6%	53	10.4%	0	0.0%	2	14.3%
子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える	140	15.3%	58	14.9%	80	15.7%	0	0.0%	2	14.3%
その他	17	1.9%	10	2.6%	7	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	24	2.6%	10	2.6%	14	2.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	2	0.2%	0	0.0%	1	0.2%	0	0.0%	1	7.1%
合計	916	100.0%	389	100.0%	510	100.0%	3	100.0%	14	100.0%
回答者数(合計-無回答)	914		389		509		3		13	



2. 家庭生活全般について

(1) 家庭での役割分担に対する考え方

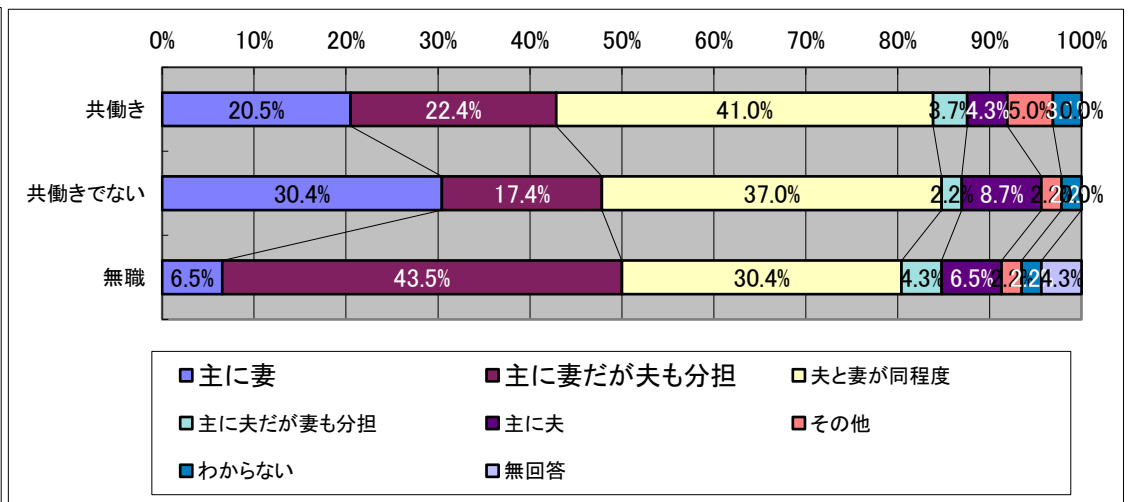
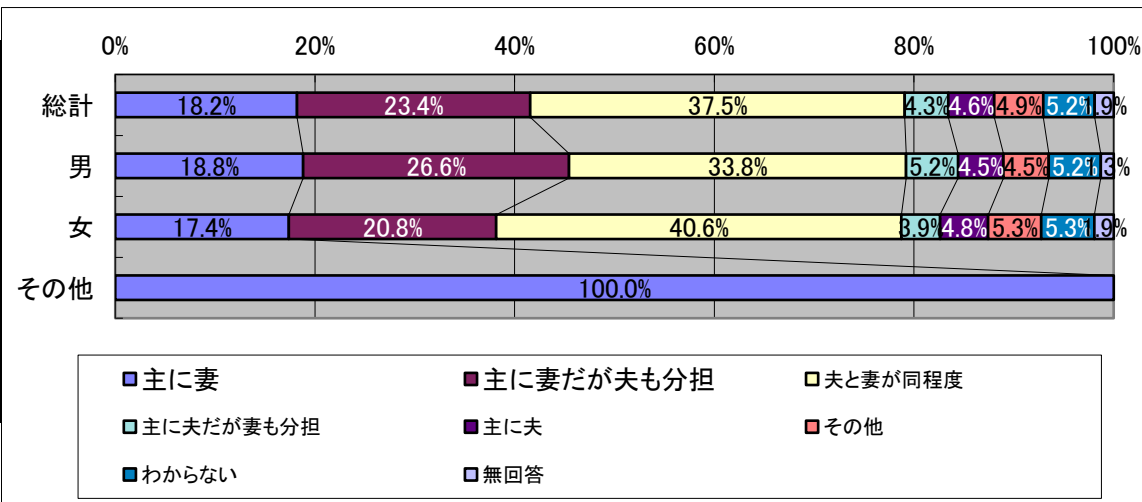
あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。

また、結婚している方で日常の家事の分担をどのようにされていますか。それぞれ1つを選んでください。

① 日常の家計管理

○日常の家計管理について、理想現実ともに「夫と妻が同程度」が最も高い。

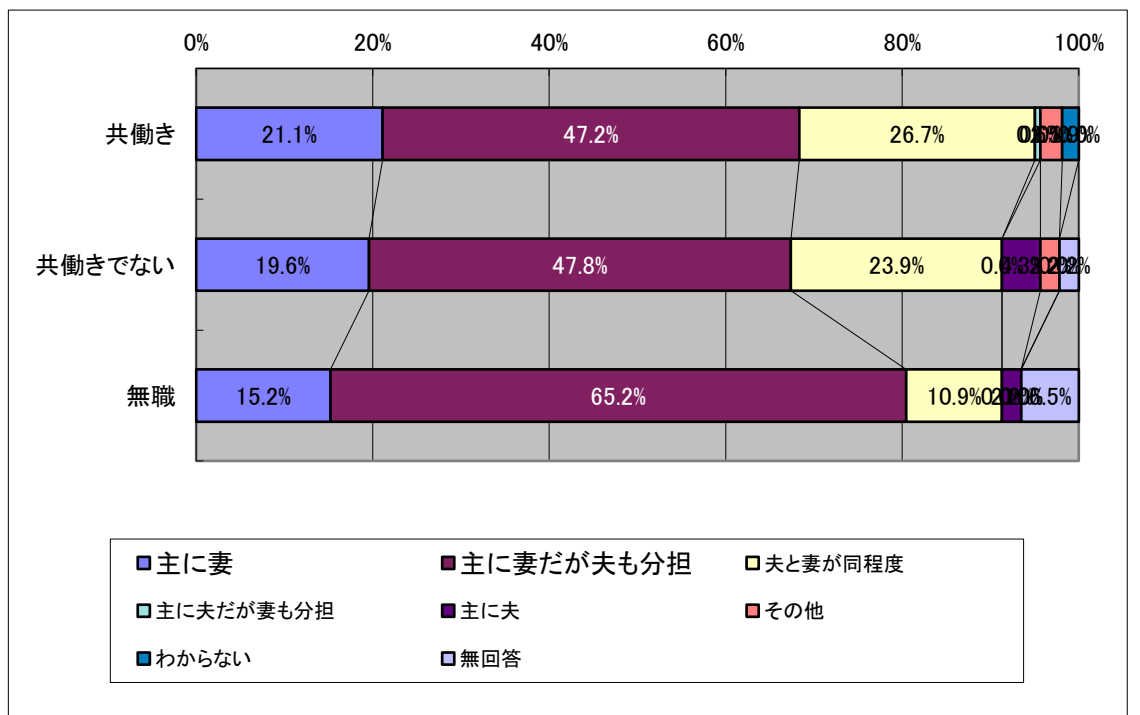
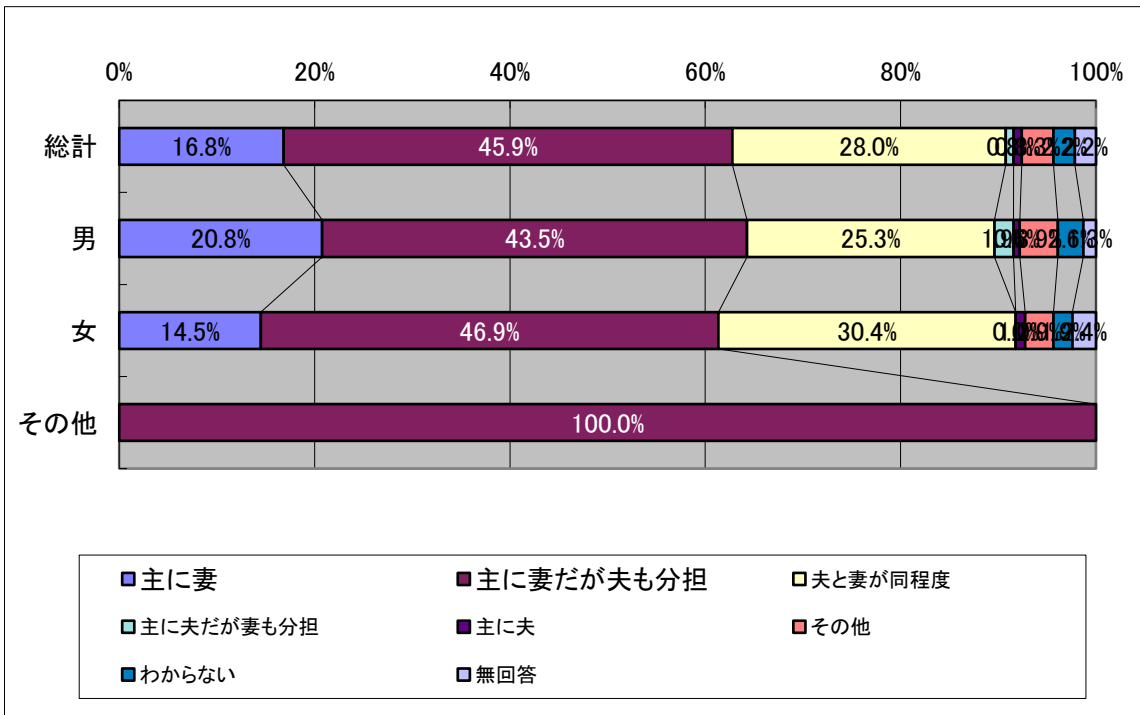
選択項目	【理想】								【現実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	67	18.2%	29	18.8%	36	17.4%	1	100.0%	1	16.7%	33	20.5%	14	30.4%	3	6.5%
主に妻だが夫も分担	86	23.4%	41	26.6%	43	20.8%	0	0.0%	2	33.3%	36	22.4%	8	17.4%	20	43.5%
夫と妻が同程度	138	37.5%	52	33.8%	84	40.6%	0	0.0%	2	33.3%	66	41.0%	17	37.0%	14	30.4%
主に夫だが妻も分担	16	4.3%	8	5.2%	8	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.7%	1	2.2%	2	4.3%
主に夫	17	4.6%	7	4.5%	10	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.3%	4	8.7%	3	6.5%
その他	18	4.9%	7	4.5%	11	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	8	5.0%	1	2.2%	1	2.2%
わからない	19	5.2%	8	5.2%	11	5.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	1	2.2%	1	2.2%
無回答	7	1.9%	2	1.3%	4	1.9%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	361		152		203		1		5		161		46		44	



②食事づくり

○食事づくりについて、理想現実ともに「主に妻だが夫も分担」が最も高い。

選択項目	【理 想】								【現 実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	62	16.8%	32	20.8%	30	14.5%	0	0.0%	0	0.0%	34	21.1%	9	19.6%	7	15.2%
主に妻だが夫も分担	169	45.9%	67	43.5%	97	46.9%	1	100.0%	4	66.7%	76	47.2%	22	47.8%	30	65.2%
夫と妻が同程度	103	28.0%	39	25.3%	63	30.4%	0	0.0%	1	16.7%	43	26.7%	11	23.9%	5	10.9%
主に夫だが妻も分担	3	0.8%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%
主に夫	3	0.8%	1	0.6%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%	1	2.2%
その他	12	3.3%	6	3.9%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	8	2.2%	4	2.6%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	2.2%	2	1.3%	5	2.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	2.2%	3	6.5%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	360		152		202		1		5		161		45		43	

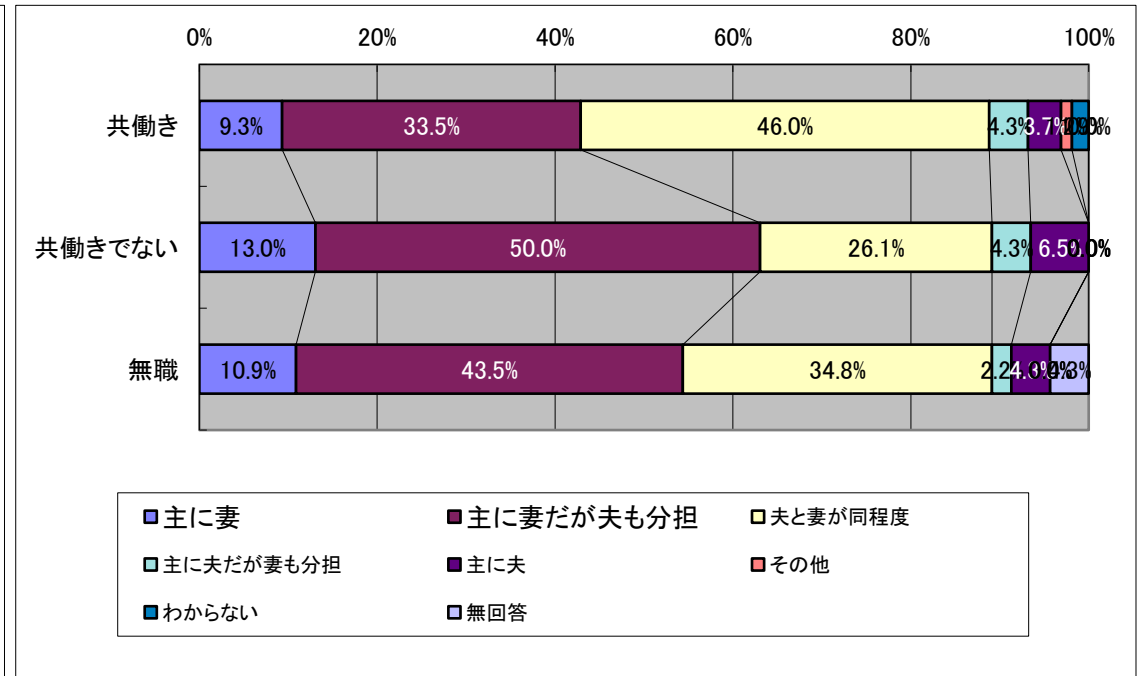
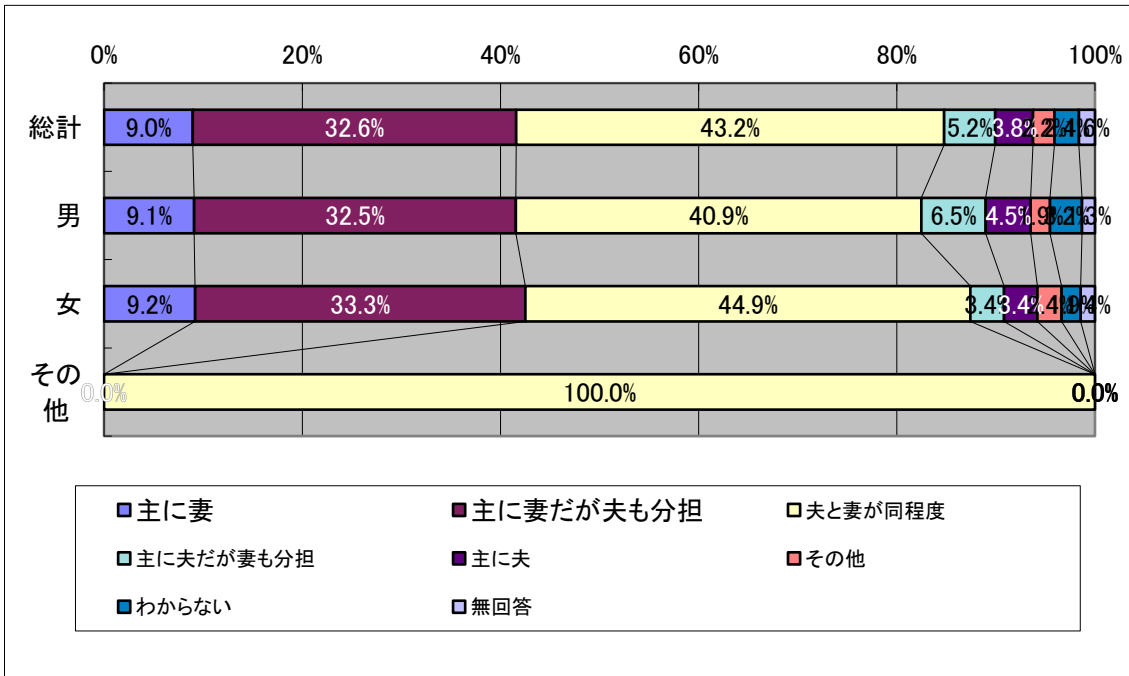


③食事後のかたづけ

○食事後のかたづけについて、理想では「夫と妻が同程度」が最も高い。

○現実には、共働きでは「夫と妻が同程度」が最も高く、共働きでない、無職では「主に妻だが夫も分担」が最も高い。

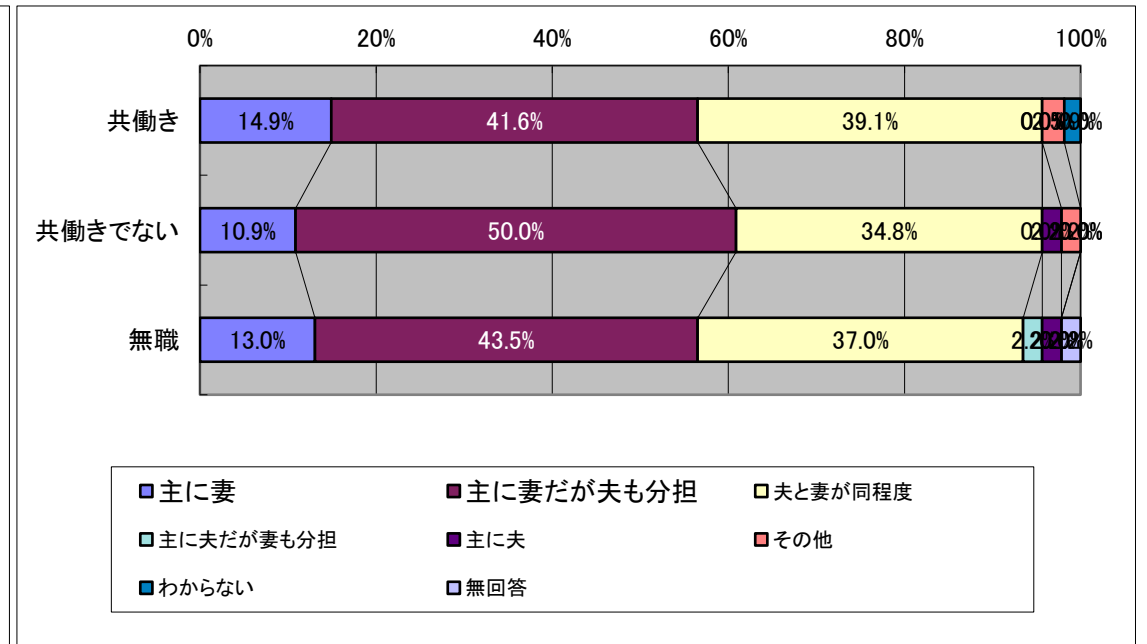
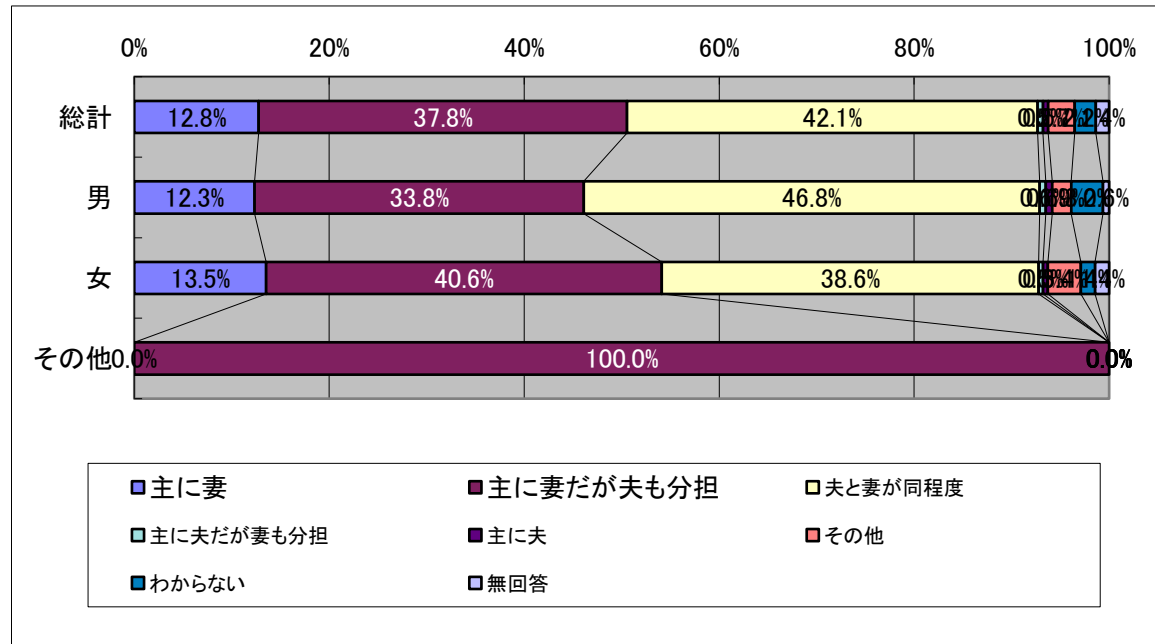
選択項目	【理想】										【現実】					
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	33	9.0%	14	9.1%	19	9.2%	0	0.0%	0	0.0%	15	9.3%	6	13.0%	5	10.9%
主に妻だが夫も分担	120	32.6%	50	32.5%	69	33.3%	0	0.0%	1	16.7%	54	33.5%	23	50.0%	20	43.5%
夫と妻が同程度	159	43.2%	63	40.9%	93	44.9%	1	100.0%	2	33.3%	74	46.0%	12	26.1%	16	34.8%
主に夫だが妻も分担	19	5.2%	10	6.5%	7	3.4%	0	0.0%	2	33.3%	7	4.3%	2	4.3%	1	2.2%
主に夫	14	3.8%	7	4.5%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.7%	3	6.5%	2	4.3%
その他	8	2.2%	3	1.9%	5	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	9	2.4%	5	3.2%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	1.6%	2	1.3%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	362		152		204		1		5		161		46		44	



④食料品・日用品の買い物

○食料品・日用品の買い物について、男女別にみると理想では、男性は「夫と妻が同程度」で46.8%だが、女性は「主に妻だが夫も分担」が40.6%で最も高い。
 ○現実には、「共働き」41.6%、「共働きではない」50.0%、「無職」43.5%と「主に妻だが夫も分担」が最も高い。

選択項目	【理想】									【現実】						
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	47	12.8%	19	12.3%	28	13.5%	0	0.0%	0	0.0%	24	14.9%	5	10.9%	6	13.0%
主に妻だが夫も分担	139	37.8%	52	33.8%	84	40.6%	1	100.0%	2	33.3%	67	41.6%	23	50.0%	20	43.5%
夫と妻が同程度	155	42.1%	72	46.8%	80	38.6%	0	0.0%	3	50.0%	63	39.1%	16	34.8%	17	37.0%
主に夫だが妻も分担	2	0.5%	1	0.6%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%
主に夫	2	0.5%	1	0.6%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%	1	2.2%
その他	10	2.7%	3	1.9%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	8	2.2%	5	3.2%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	5	1.4%	1	0.6%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	363		153		204		1		5		161		46		45	

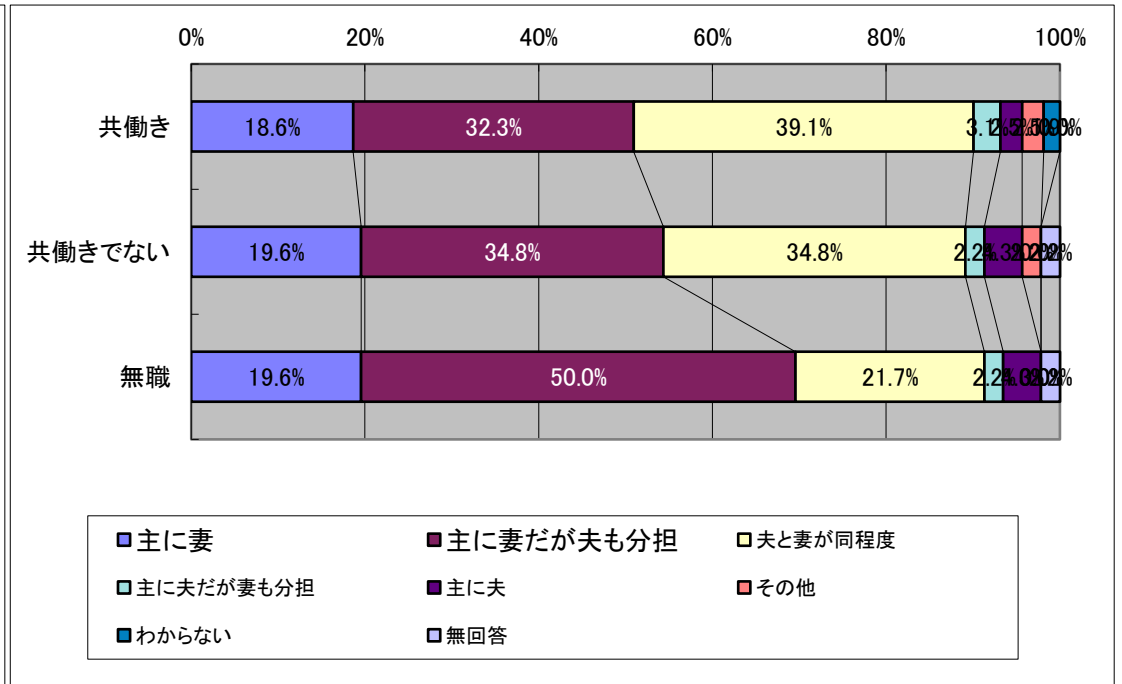
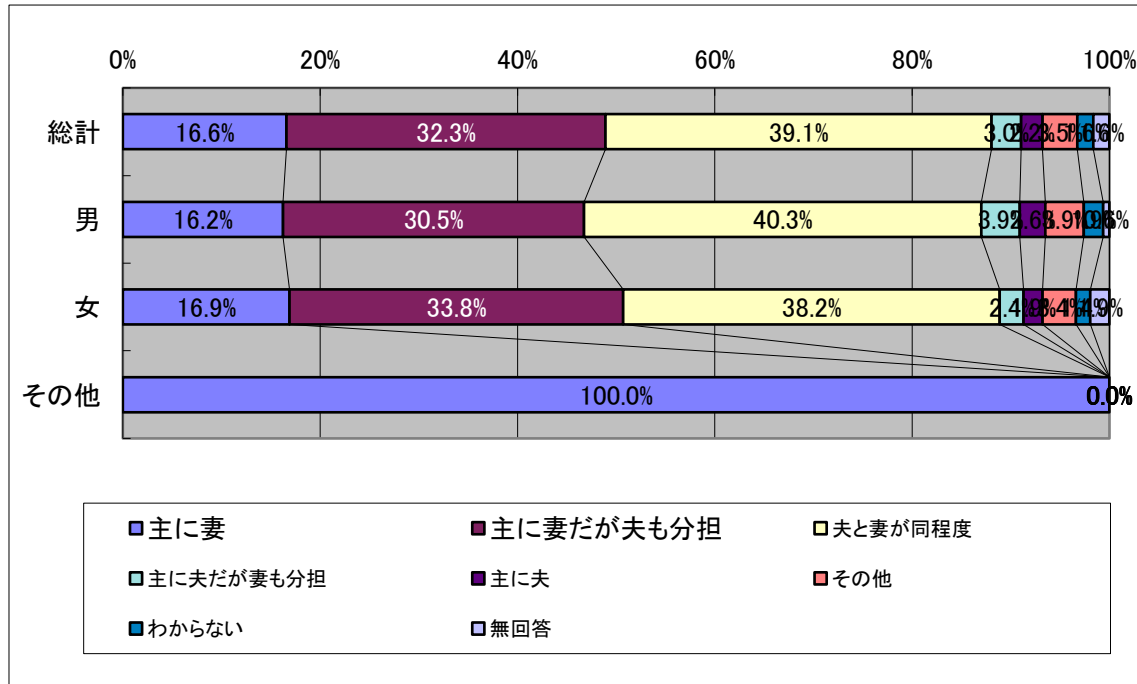


⑤洗濯

○洗濯について、男女別にみると、理想は男性40.3%、女性とも38.2%でともに「夫と妻が同程度」が最も高い。

○現実には、「共働き」では39.1%が「夫と妻が同程度」が最も高く、「共働きではない」では「主に妻だが夫も分担」「夫と妻が同程度」が34.8%、「無職」では「主に妻だが夫も分担」が50.0%と最も高い。

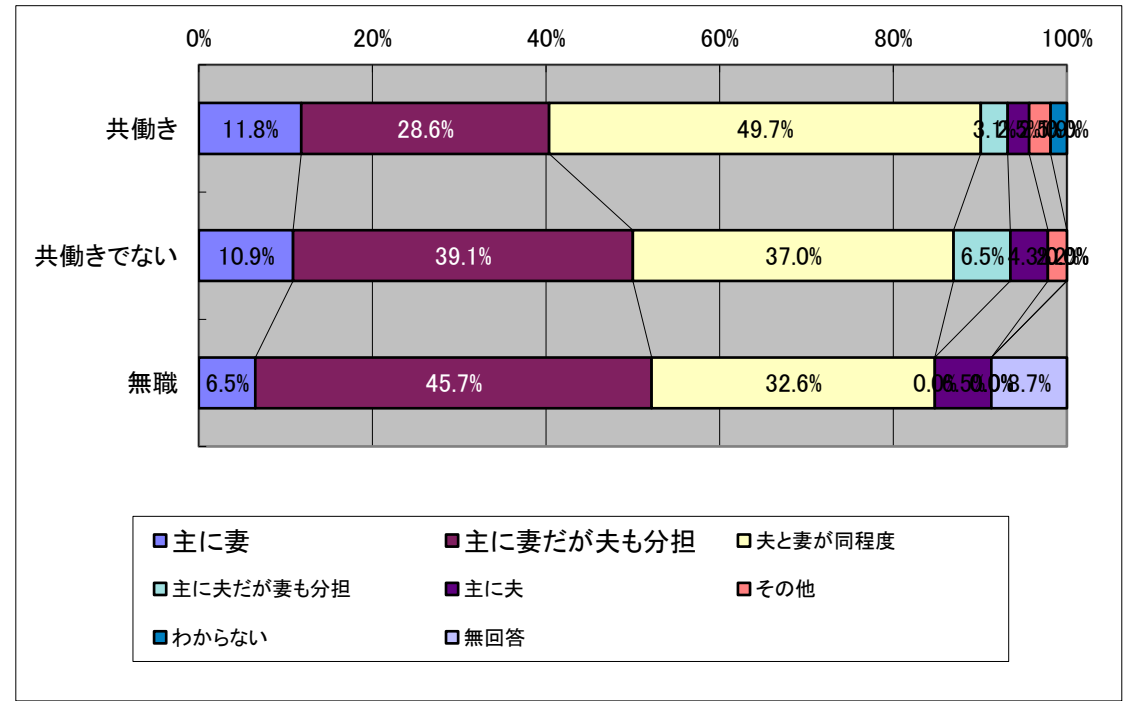
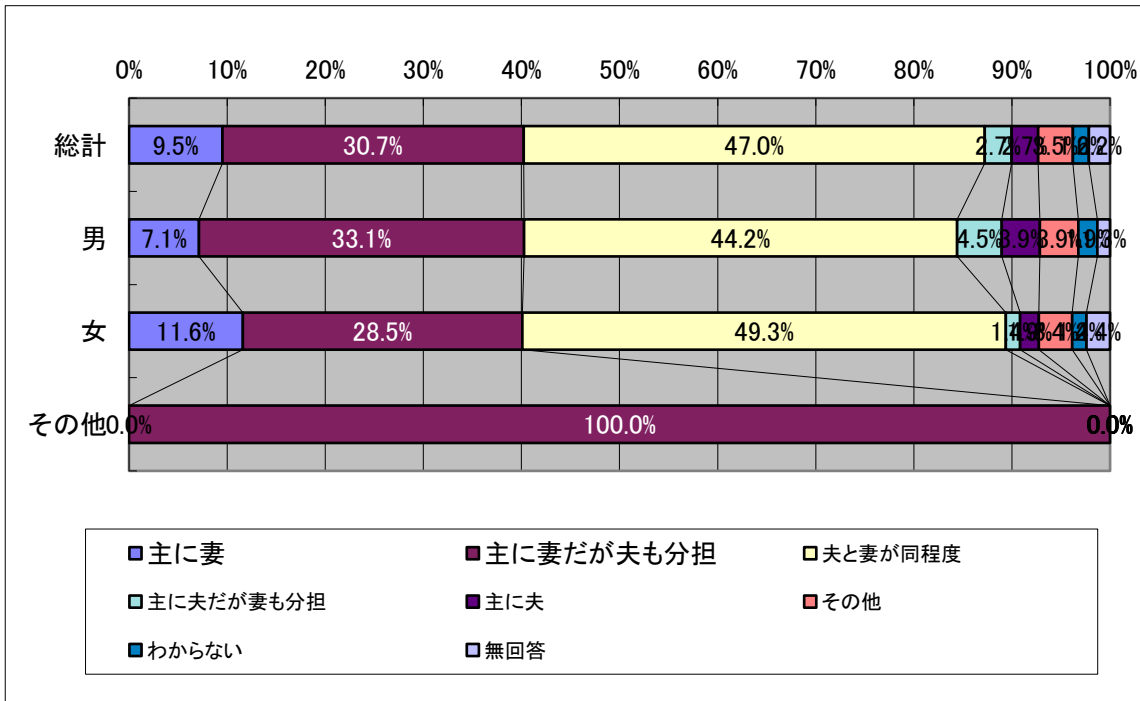
選択項目	【理想】								【現実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	61	16.6%	25	16.2%	35	16.9%	1	100.0%	0	0.0%	30	18.6%	9	19.6%	9	19.6%
主に妻だが夫も分担	119	32.3%	47	30.5%	70	33.8%	0	0.0%	2	33.3%	52	32.3%	16	34.8%	23	50.0%
夫と妻が同程度	144	39.1%	62	40.3%	79	38.2%	0	0.0%	3	50.0%	63	39.1%	16	34.8%	10	21.7%
主に夫だが妻も分担	11	3.0%	6	3.9%	5	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	1	2.2%	1	2.2%
主に夫	8	2.2%	4	2.6%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	2	4.3%	2	4.3%
その他	13	3.5%	6	3.9%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	6	1.6%	3	1.9%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	6	1.6%	1	0.6%	4	1.9%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	2.2%	1	2.2%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	362		153		203		1		5		161		45		45	



⑥掃除

○掃除について、男女別にみると理想は、男性44.2%、女性49.3%とも「夫と妻が同程度」が、最も高いが、「主に妻だが夫も分担」も統計では30%を超えている。
 ○現実には、「共働き」49.7%は理想と同様「夫と妻が同程度」が、最も高い。「共働きではない」39.1%、「無職」45.7%では「主に妻」が最も高い。

選択項目	【理想】								【現実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	35	9.5%	11	7.1%	24	11.6%	0	0.0%	1	12.5%	19	11.8%	5	10.9%	3	6.5%
主に妻だが夫も分担	113	30.7%	51	33.1%	59	28.5%	1	100.0%	2	25.0%	46	28.6%	18	39.1%	21	45.7%
夫と妻が同程度	173	47.0%	68	44.2%	102	49.3%	0	0.0%	2	25.0%	80	49.7%	17	37.0%	15	32.6%
主に夫だが妻も分担	10	2.7%	7	4.5%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	3	6.5%	0	0.0%
主に夫	10	2.7%	6	3.9%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	2	4.3%	3	6.5%
その他	13	3.5%	6	3.9%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	6	1.6%	3	1.9%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	2.2%	2	1.3%	5	2.4%	0	0.0%	3	37.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	8.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	8	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	360		152		202		1		5		161		46		42	

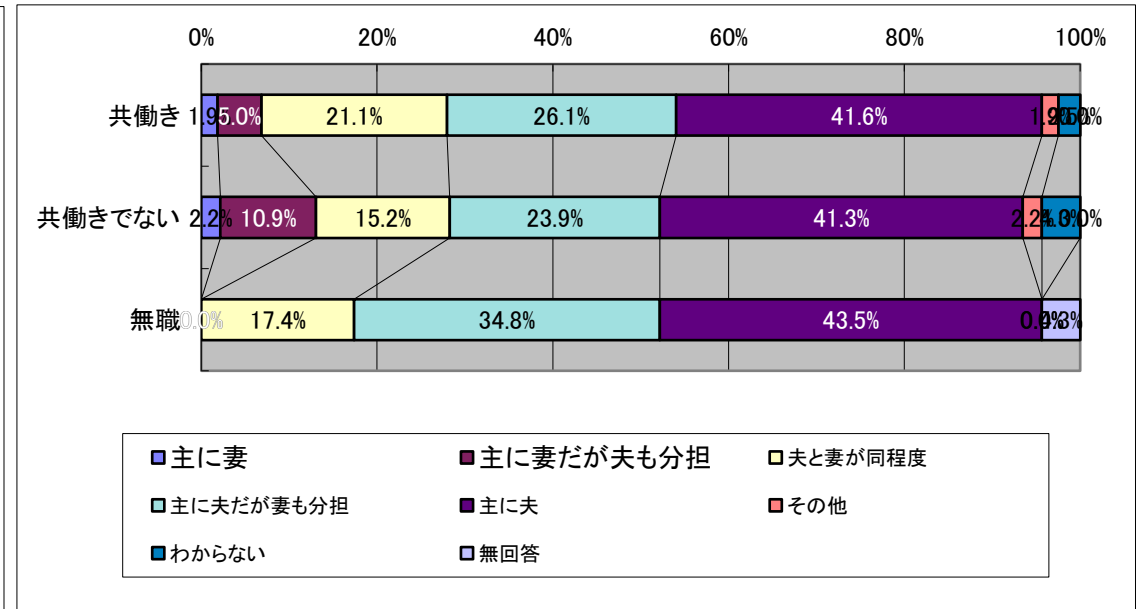
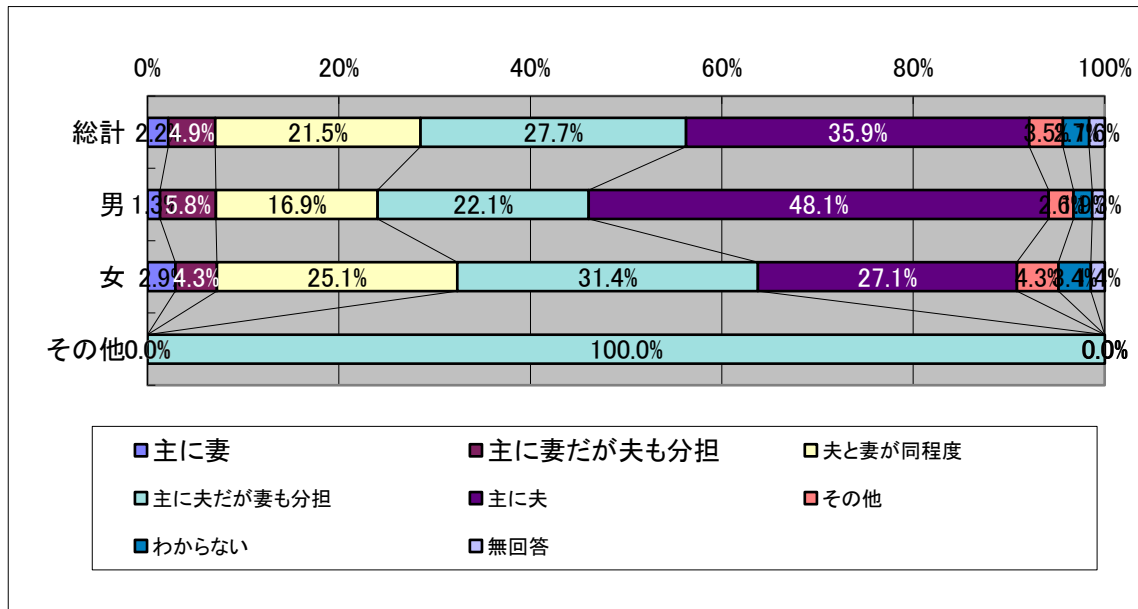


⑦家の修繕

○家の修繕について、男女別にみると理想は、男性48.1%で「主に夫」が、女性では38.1%「主に夫だが妻も分担」が最も高い。

○現実では、「共働き」41.6%、「共働きではない」41.3%、「無職」43.5%といずれも「主に夫」が最も高い。

選択項目	【理想】										【現実】					
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	8	2.2%	2	1.3%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	1	2.2%	0	0.0%
主に妻だが夫も分担	18	4.9%	9	5.8%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	8	5.0%	5	10.9%	0	0.0%
夫と妻が同程度	79	21.5%	26	16.9%	52	25.1%	0	0.0%	1	16.7%	34	21.1%	7	15.2%	8	17.4%
主に夫だが妻も分担	102	27.7%	34	22.1%	65	31.4%	1	100.0%	2	33.3%	42	26.1%	11	23.9%	16	34.8%
主に夫	132	35.9%	74	48.1%	56	27.1%	0	0.0%	2	33.3%	67	41.6%	19	41.3%	20	43.5%
その他	13	3.5%	4	2.6%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	10	2.7%	3	1.9%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	2	4.3%	0	0.0%
無回答	6	1.6%	2	1.3%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計－無回答)	362		152		204		1		5		161		46		44	

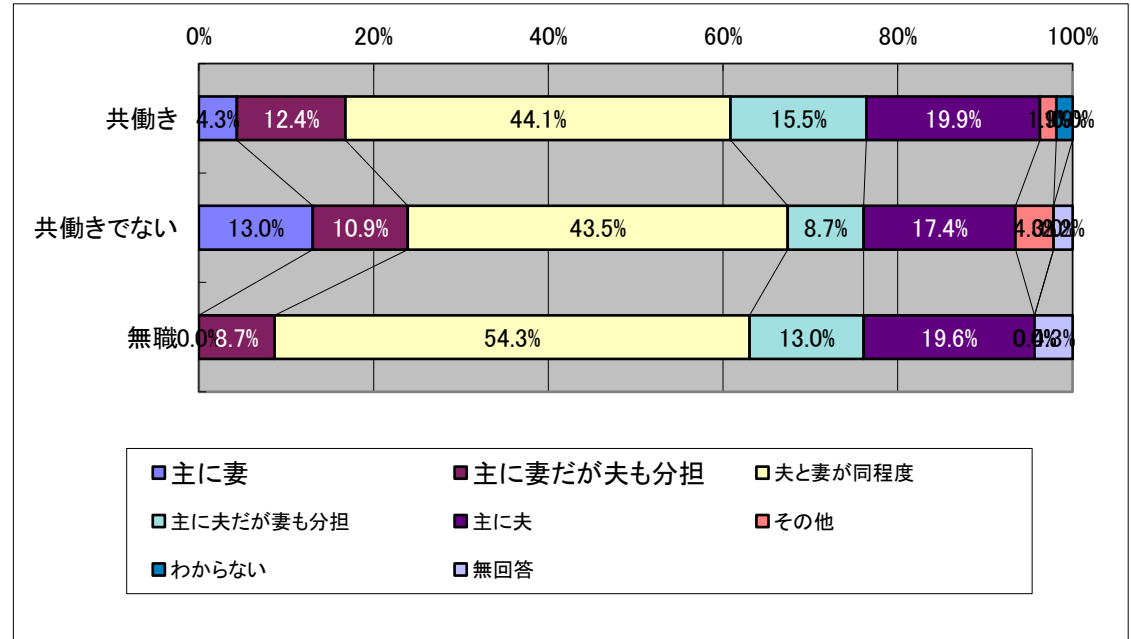
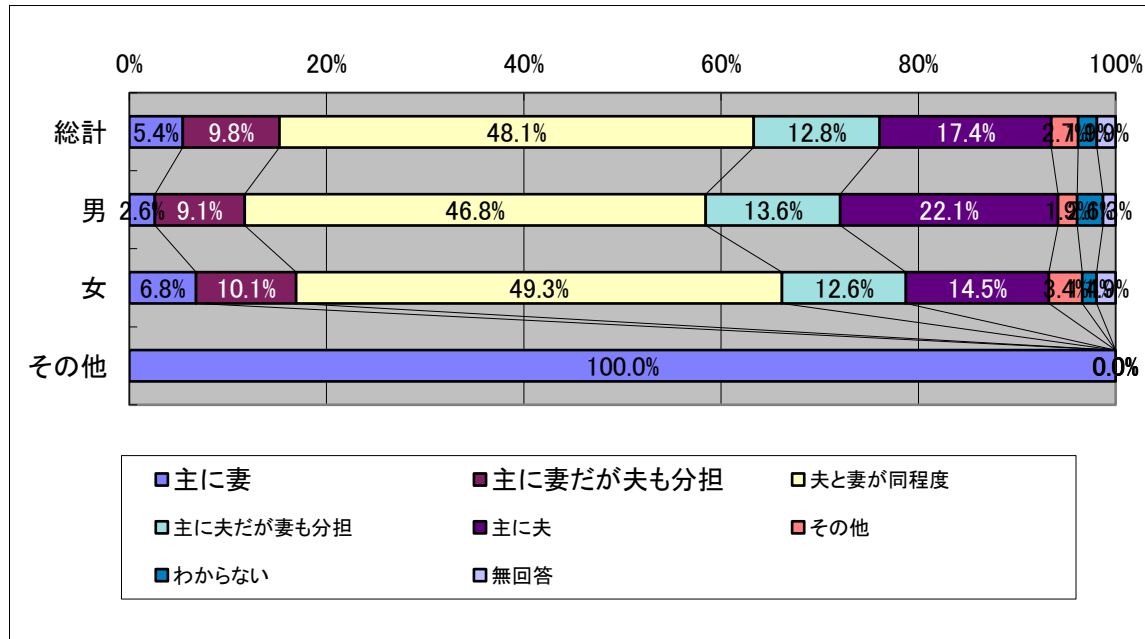


⑧ゴミだし

○ゴミだしについて、男女別にみると理想は、男性46.8%、女性とも49.3%「夫と妻が同程度」が、最も高い。

○現実には、「共働き」44.1%、「共働きではない」43.5%、「無職」54.3%といずれも「夫と妻が同程度」が最も高く、理想と同様の結果となっている。

選択項目	【理想】										【現実】					
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	20	5.4%	4	2.6%	14	6.8%	1	100.0%	1	16.7%	7	4.3%	6	13.0%	0	0.0%
主に妻だが夫も分担	36	9.8%	14	9.1%	21	10.1%	0	0.0%	1	16.7%	20	12.4%	5	10.9%	4	8.7%
夫と妻が同程度	177	48.1%	72	46.8%	102	49.3%	0	0.0%	3	50.0%	71	44.1%	20	43.5%	25	54.3%
主に夫だが妻も分担	47	12.8%	21	13.6%	26	12.6%	0	0.0%	0	0.0%	25	15.5%	4	8.7%	6	13.0%
主に夫	64	17.4%	34	22.1%	30	14.5%	0	0.0%	0	0.0%	32	19.9%	8	17.4%	9	19.6%
その他	10	2.7%	3	1.9%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	2	4.3%	0	0.0%
わからない	7	1.9%	4	2.6%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	1.9%	2	1.3%	4	1.9%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	1	2.2%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計－無回答)	361		152		203		1		5		161		45		44	

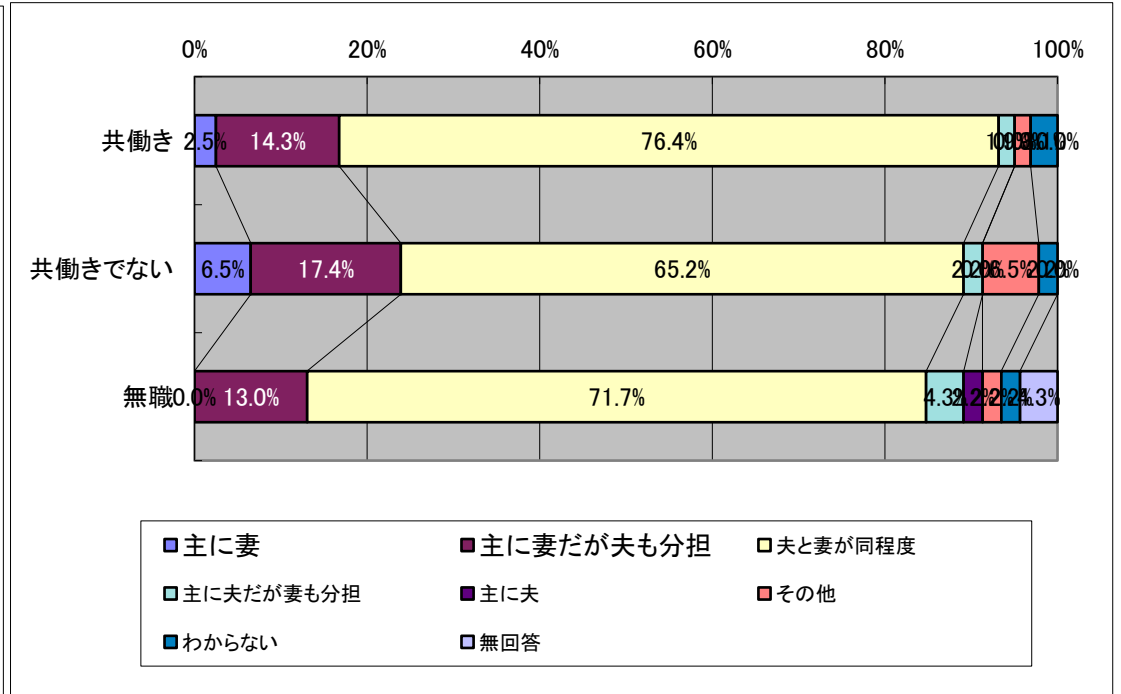
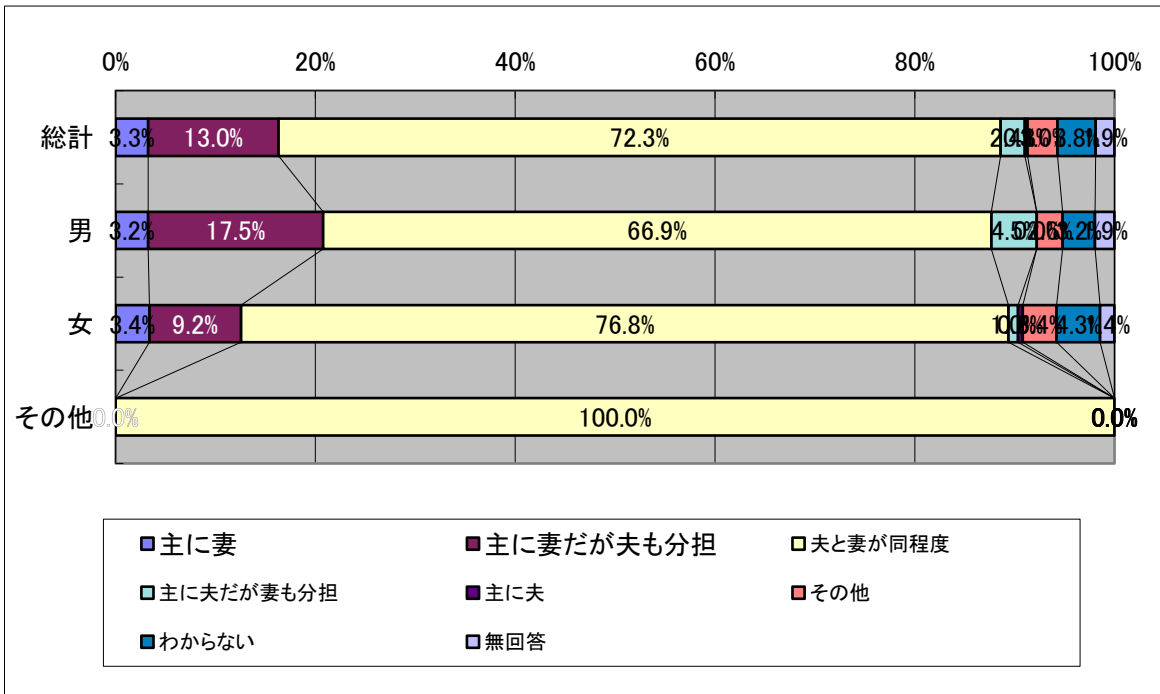


⑨子どものしつけや家庭教育

○子どものしつけについて、男女別にみると理想は、男性66.9%、女性76.8%と、ともに「夫と妻が同程度」が、最も高い。

○現実には、「共働き」76.4%、「共働きではない」65.2%、「無職」71.7%、といずれも「夫と妻が同程度」が最も高く、理想と同様の結果となっている。

選択項目	【理想】								【現実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	12	3.3%	5	3.2%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.5%	3	6.5%	0	0.0%
主に妻だが夫も分担	48	13.0%	27	17.5%	19	9.2%	0	0.0%	2	33.3%	23	14.3%	8	17.4%	6	13.0%
夫と妻が同程度	266	72.3%	103	66.9%	159	76.8%	1	100.0%	3	50.0%	123	76.4%	30	65.2%	33	71.7%
主に夫だが妻も分担	9	2.4%	7	4.5%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	1	2.2%	2	4.3%
主に夫	1	0.3%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.2%
その他	11	3.0%	4	2.6%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	3	6.5%	1	2.2%
わからない	14	3.8%	5	3.2%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	1	2.2%	1	2.2%
無回答	7	1.9%	3	1.9%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	361		151		204		1		5		161		46		44	

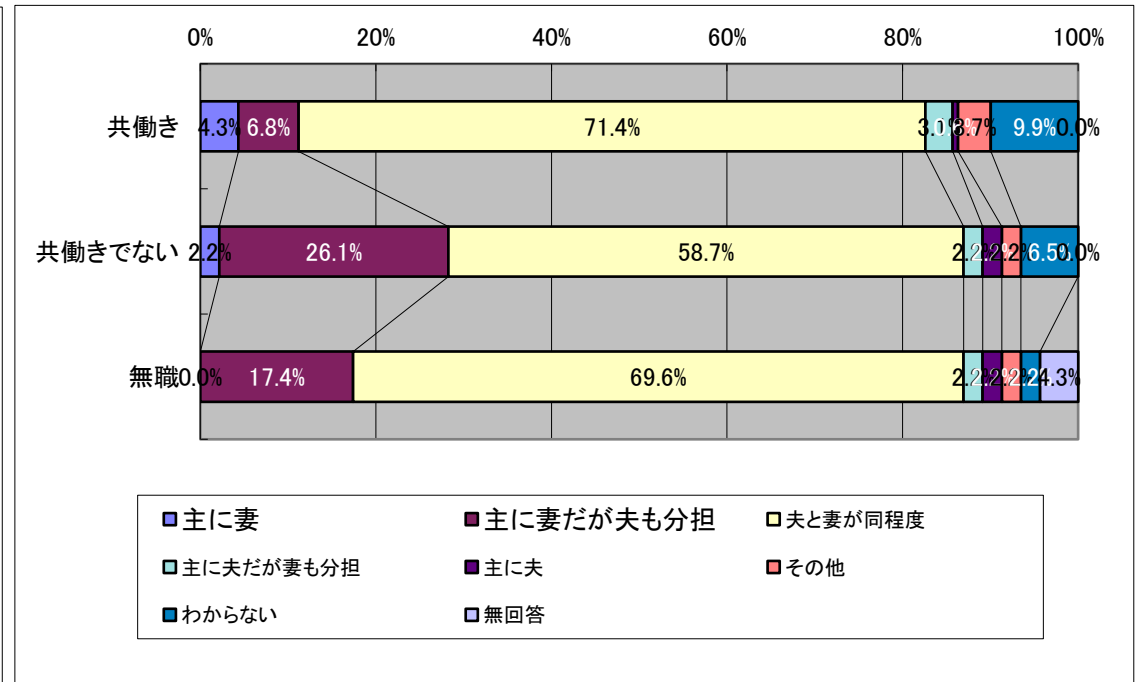
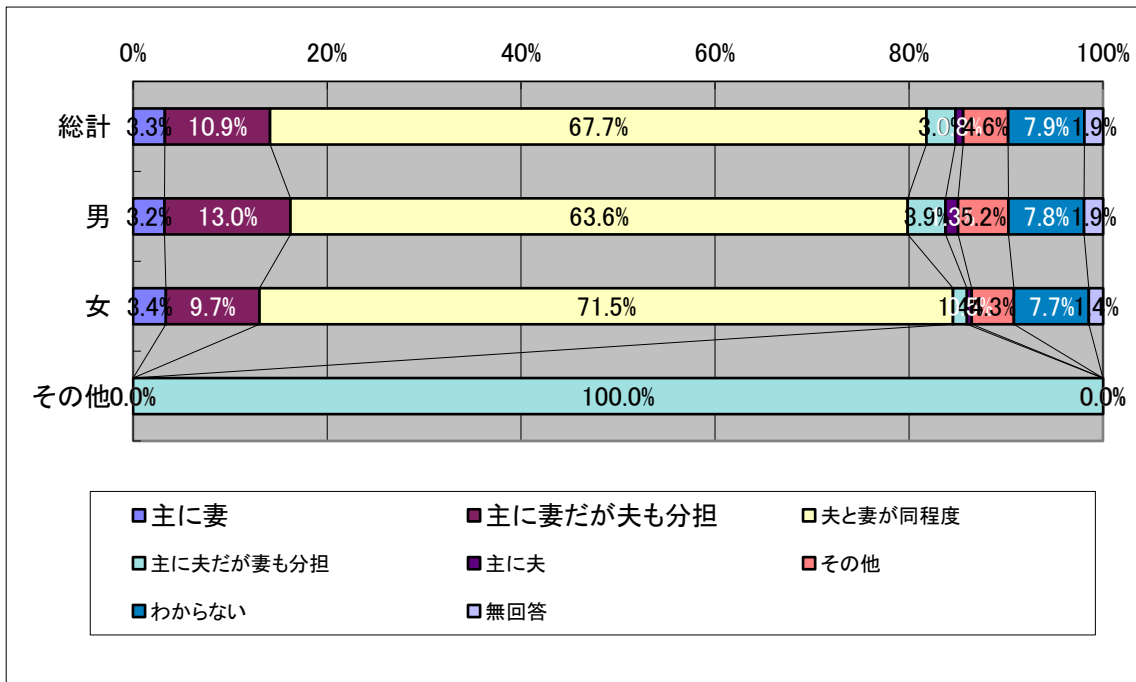


⑩家族の介護

○家族の介護について、男女別にみると理想は、男性63.6%、女性71.5%と、ともに「夫と妻が同程度」が、最も高い。

○現実には、「共働き」71.4%、「共働きではない」58.7%、「無職」69.6%、といずれも「夫と妻が同程度」が高く、理想と同様の結果となっている。

選択項目	【理想】								【現実】							
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	12	3.3%	5	3.2%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	7	4.3%	1	2.2%	0	0.0%
主に妻だが夫も分担	40	10.9%	20	13.0%	20	9.7%	0	0.0%	0	0.0%	11	6.8%	12	26.1%	8	17.4%
夫と妻が同程度	249	67.7%	98	63.6%	148	71.5%	0	0.0%	3	50.0%	115	71.4%	27	58.7%	32	69.6%
主に夫だが妻も分担	11	3.0%	6	3.9%	3	1.4%	1	100.0%	1	16.7%	5	3.1%	1	2.2%	1	2.2%
主に夫	3	0.8%	2	1.3%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	2.2%	1	2.2%
その他	17	4.6%	8	5.2%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	3.7%	1	2.2%	1	2.2%
わからない	29	7.9%	12	7.8%	16	7.7%	0	0.0%	1	16.7%	16	9.9%	3	6.5%	1	2.2%
無回答	7	1.9%	3	1.9%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	361		151		204		1		5		161		46		44	

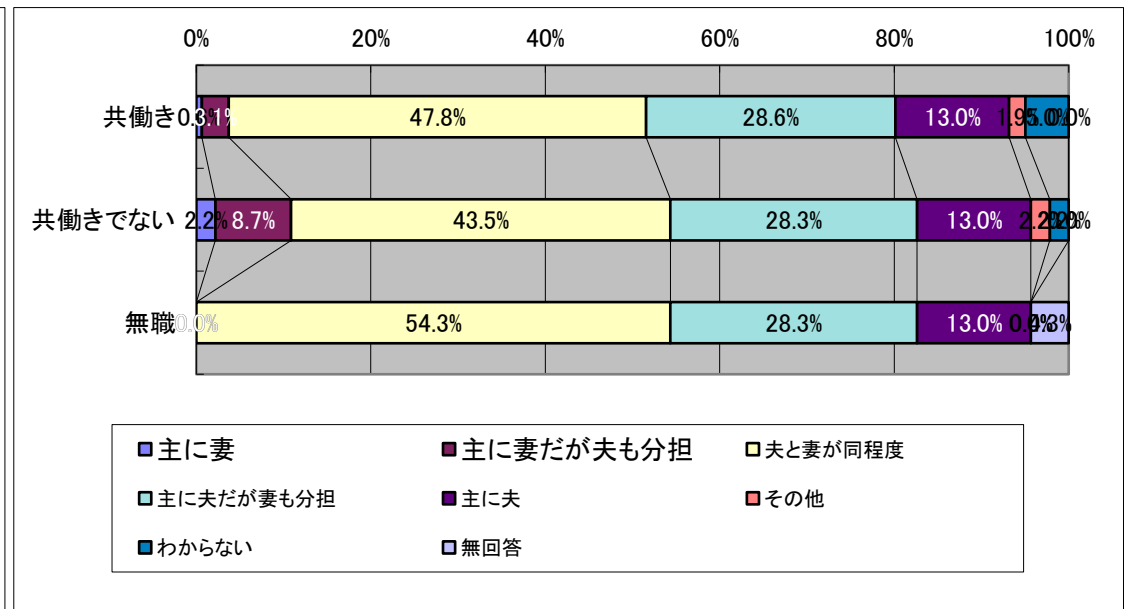
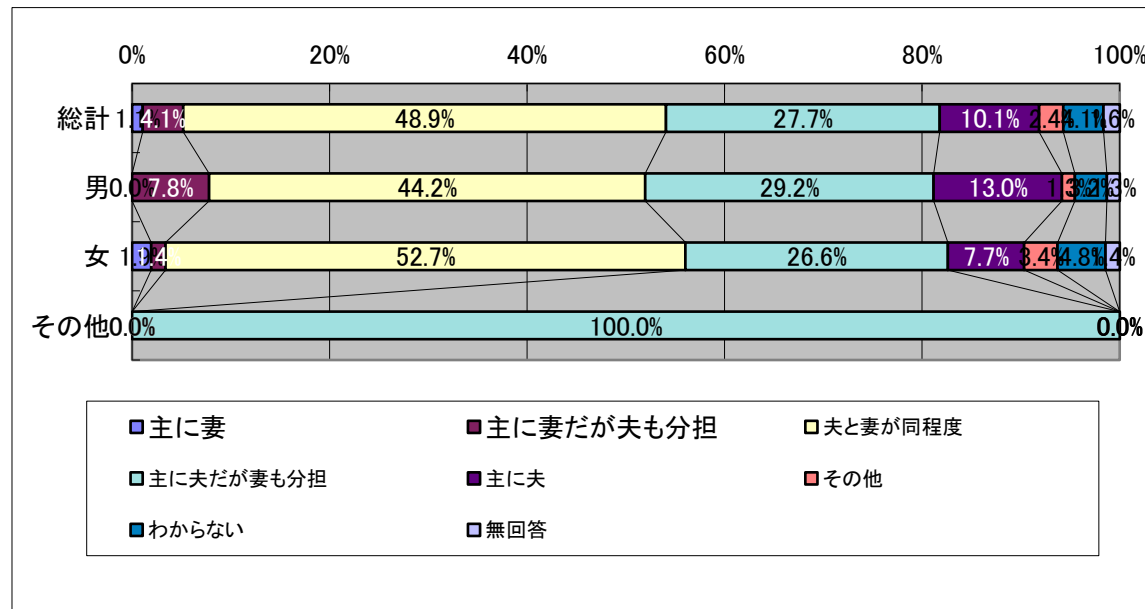


⑪地域行事への参加

○地域行事への参加について、男女別にみると理想は、男性44.2%、女性52.7%と、ともに「夫と妻が同程度」が、最も高い。

○現実には、「共働き」47.8%、「共働きではない」43.5%、「無職」54.3%、とともに「夫と妻が同程度」が高く、理想と同様の結果となっている。

選択項目	【理 想】										【現 実】					
	総計		男		女		その他		無回答		共働き		共働きでない		無職	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
主に妻	4	1.1%	0	0.0%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.6%	1	2.2%	0	0.0%
主に妻だが夫も分担	15	4.1%	12	7.8%	3	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.1%	4	8.7%	0	0.0%
夫と妻が同程度	180	48.9%	68	44.2%	109	52.7%	0	0.0%	3	50.0%	77	47.8%	20	43.5%	25	54.3%
主に夫だが妻も分担	102	27.7%	45	29.2%	55	26.6%	1	100.0%	1	16.7%	46	28.6%	13	28.3%	13	28.3%
主に夫	37	10.1%	20	13.0%	16	7.7%	0	0.0%	1	16.7%	21	13.0%	6	13.0%	6	13.0%
その他	9	2.4%	2	1.3%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.9%	1	2.2%	0	0.0%
わからない	15	4.1%	5	3.2%	10	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	8	5.0%	1	2.2%	0	0.0%
無回答	6	1.6%	2	1.3%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%	161	100.0%	46	100.0%	46	100.0%
回答者数(合計-無回答)	362		152		204		1		5		161		46		44	

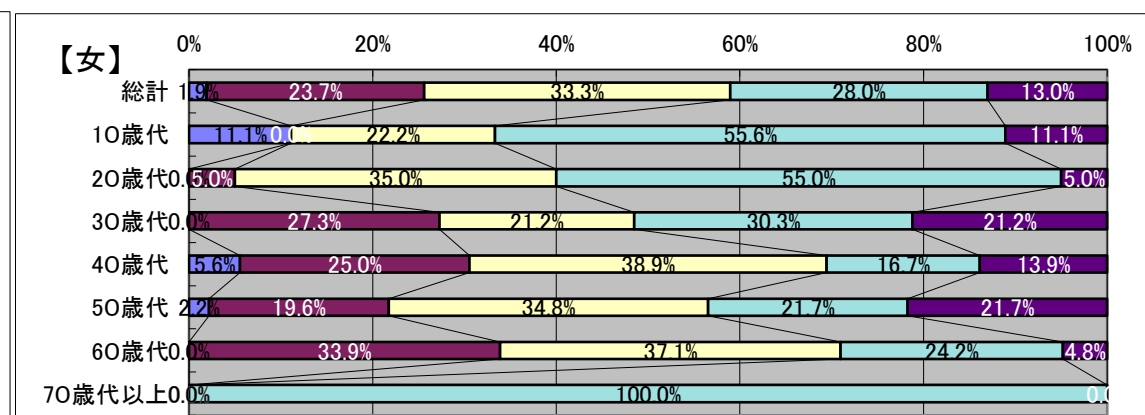
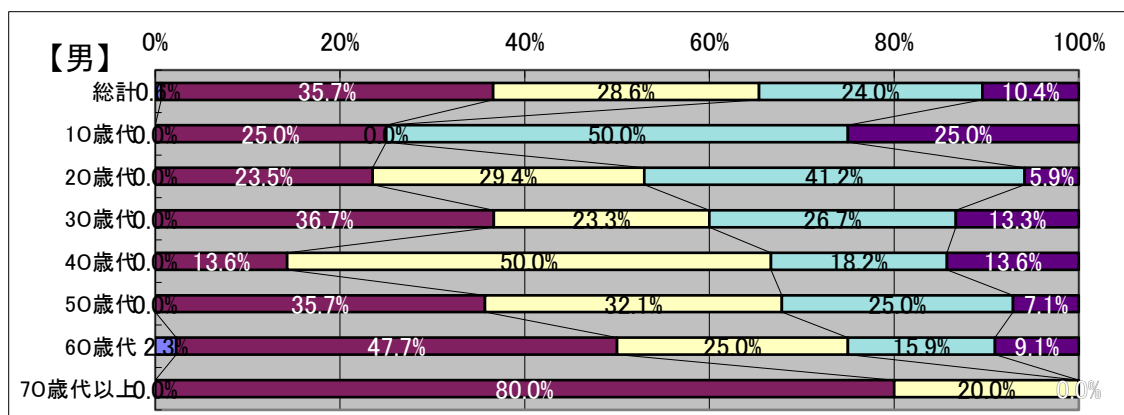
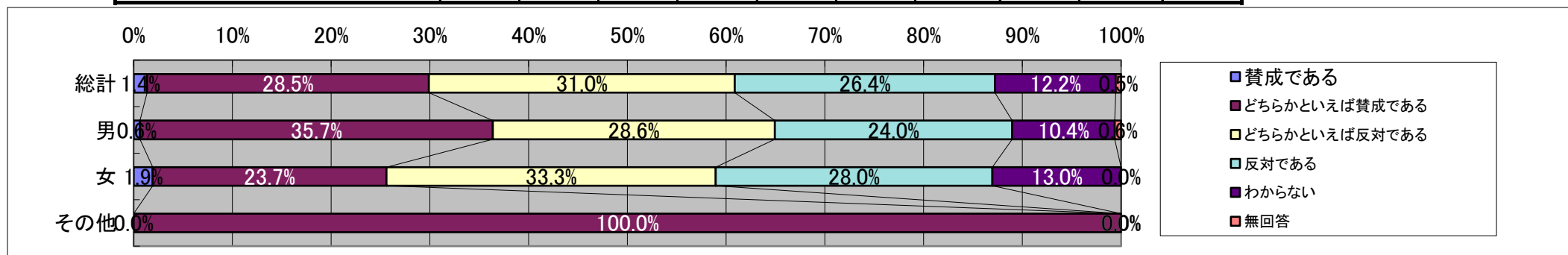


(2)「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。次の中から1つ選んでください。

○男女別にみると男性52.6%、女性は61.3%といずれも「反対である」(どちらかといえば反対である含む)の方が高い結果となっている。

○男女別世代でみると、女性はすべての年代で「反対」(「どちらかといえば反対である」含む)が過半数を超えている。男性は、10歳代～50歳代で「反対」(どちらかといえば反対である)が過半数を超えている。

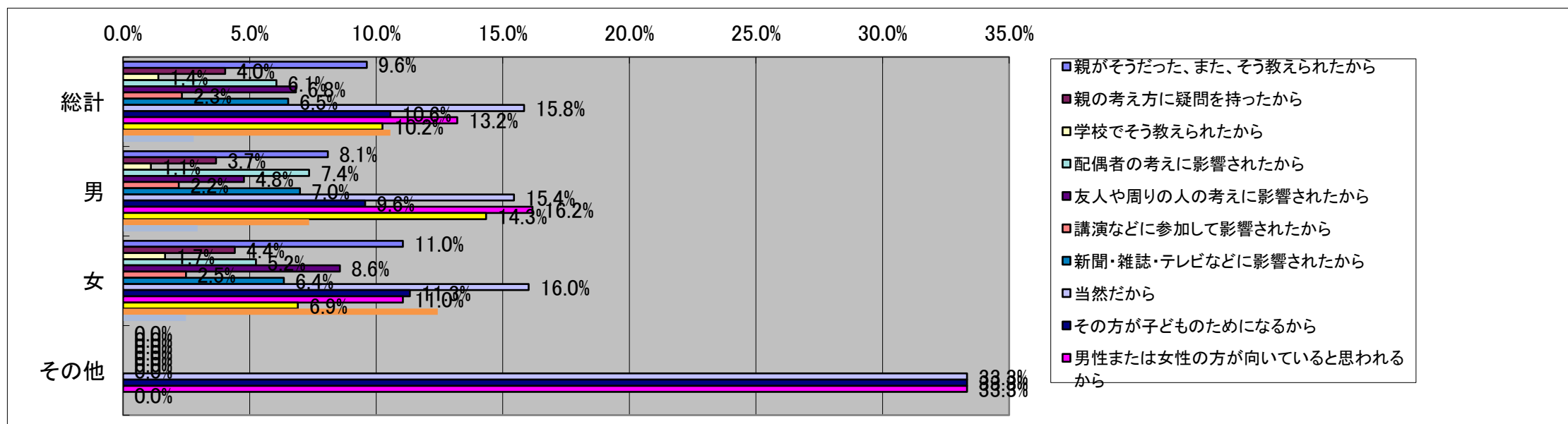
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
賛成である	5	1.4%	1	0.6%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえば賛成である	105	28.5%	55	35.7%	49	23.7%	1	100.0%	0	0.0%
どちらかといえば反対である	114	31.0%	44	28.6%	69	33.3%	0	0.0%	1	16.7%
反対である	97	26.4%	37	24.0%	58	28.0%	0	0.0%	2	33.3%
わからない	45	12.2%	16	10.4%	27	13.0%	0	0.0%	2	33.3%
無回答	2	0.5%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%



(3) (2)のように考えるようになった理由を次の中から3つまで選んでください。

○男女別にみると男性15.4%(2番目に高い)、女性16.0%(女性で最も高い)が「当然だから」という結果でいずれも高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
親がそうだった、また、そう教えられたから	62	9.6%	22	8.1%	40	11.0%	0	0.0%	0	0.0%
親の考え方に疑問を持ったから	26	4.0%	10	3.7%	16	4.4%	0	0.0%	0	0.0%
学校でそう教えられたから	9	1.4%	3	1.1%	6	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
配偶者の考えに影響されたから	39	6.1%	20	7.4%	19	5.2%	0	0.0%	0	0.0%
友人や周りの人の考えに影響されたから	44	6.8%	13	4.8%	31	8.6%	0	0.0%	0	0.0%
講演などに参加して影響されたから	15	2.3%	6	2.2%	9	2.5%	0	0.0%	0	0.0%
新聞・雑誌・テレビなどに影響されたから	42	6.5%	19	7.0%	23	6.4%	0	0.0%	0	0.0%
当然だから	102	15.8%	42	15.4%	58	16.0%	1	33.3%	1	14.3%
その方が子どものためになるから	68	10.6%	26	9.6%	41	11.3%	1	33.3%	0	0.0%
男性または女性の方が向いていると思われるから	85	13.2%	44	16.2%	40	11.0%	1	33.3%	0	0.0%
男性または女性としてその方が望ましいから	66	10.2%	39	14.3%	25	6.9%	0	0.0%	2	28.6%
その他	68	10.6%	20	7.4%	45	12.4%	0	0.0%	3	42.9%
無回答	18	2.8%	8	2.9%	9	2.5%	0	0.0%	1	14.3%
合計	644	100.0%	272	100.0%	362	100.0%	3	100.0%	7	100.0%
回答者数(合計-無回答)	626		264		353		3		6	



3. 仕事全般について

(1)一般的に、女性が職業を持つことについて、次のうちどれが望ましいと思いますか。次の中から1つを選んでください。

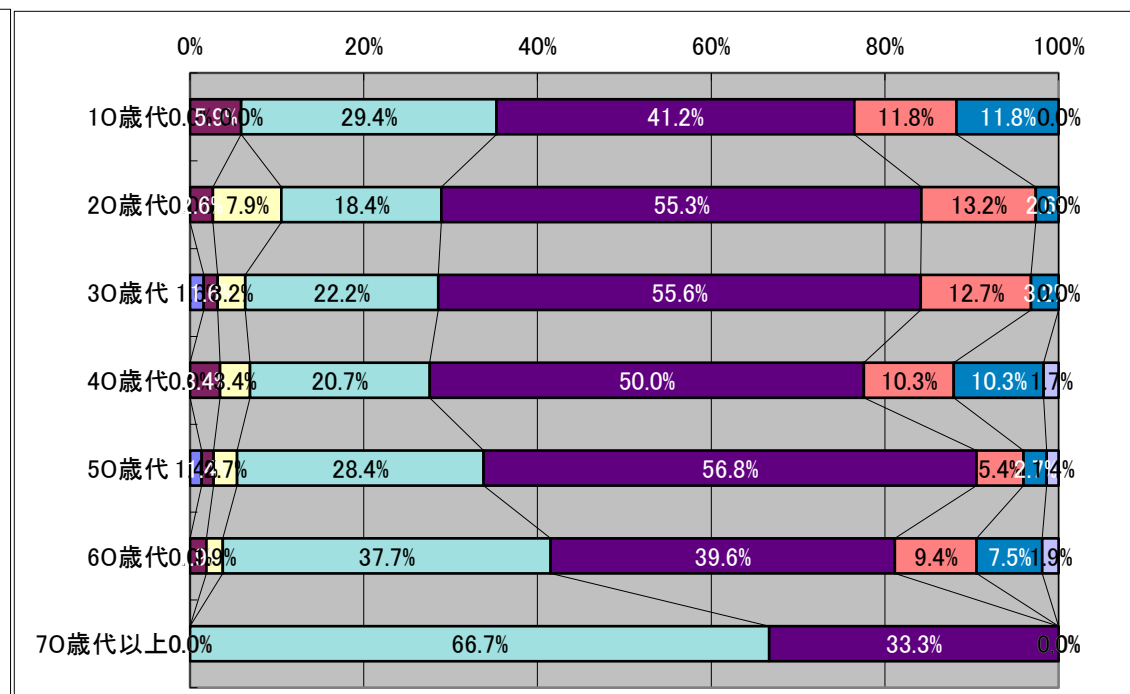
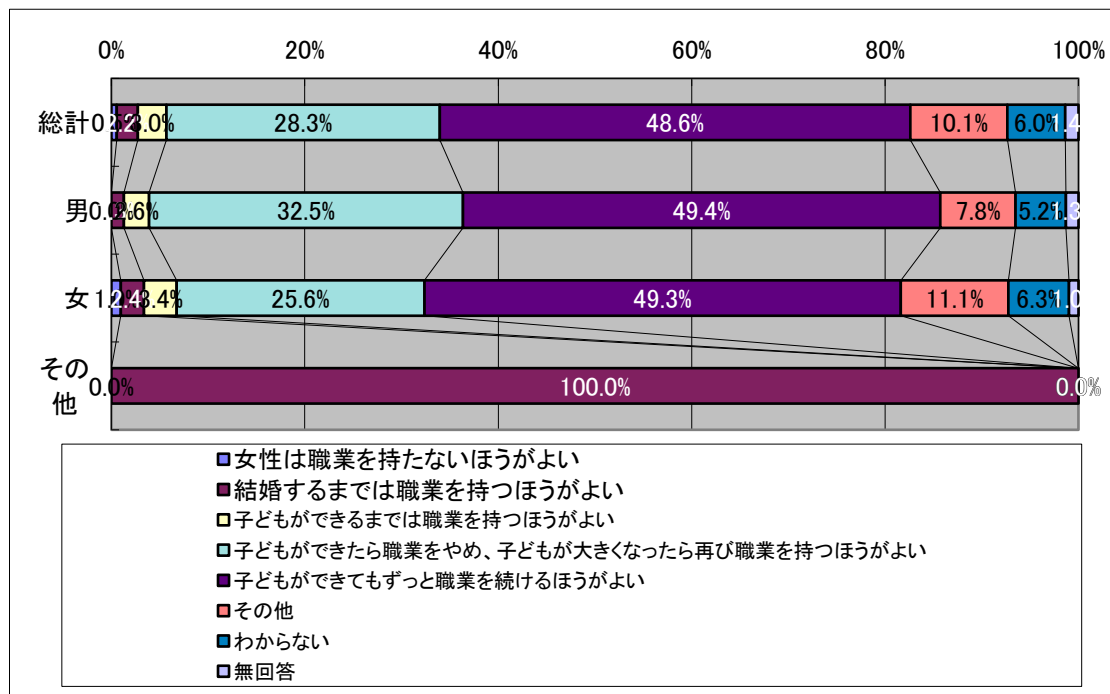
○男女別に見ると、男性女性ともに「子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい」が最も高い。

次いで男女ともに「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が高くなっている。

○年齢別に見ると、20歳代～50歳代では「子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい」が過半数以上となっている。

60歳代～70歳代以上では「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい」の割合が高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
女性は職業を持たないほうがよい	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
結婚するまでは職業を持つほうがよい	8	2.2%	2	1.3%	5	2.4%	1	100.0%	0	0.0%
子どもができるまでは職業を持つほうがよい	11	3.0%	4	2.6%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい	104	28.3%	50	32.5%	53	25.6%	0	0.0%	1	16.7%
子どもができてもずっと職業を続けるほうがよい	179	48.6%	76	49.4%	102	49.3%	0	0.0%	1	16.7%
その他	37	10.1%	12	7.8%	23	11.1%	0	0.0%	2	33.3%
わからない	22	6.0%	8	5.2%	13	6.3%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	5	1.4%	2	1.3%	2	1.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	363		152		205		1		5	



(2) 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。

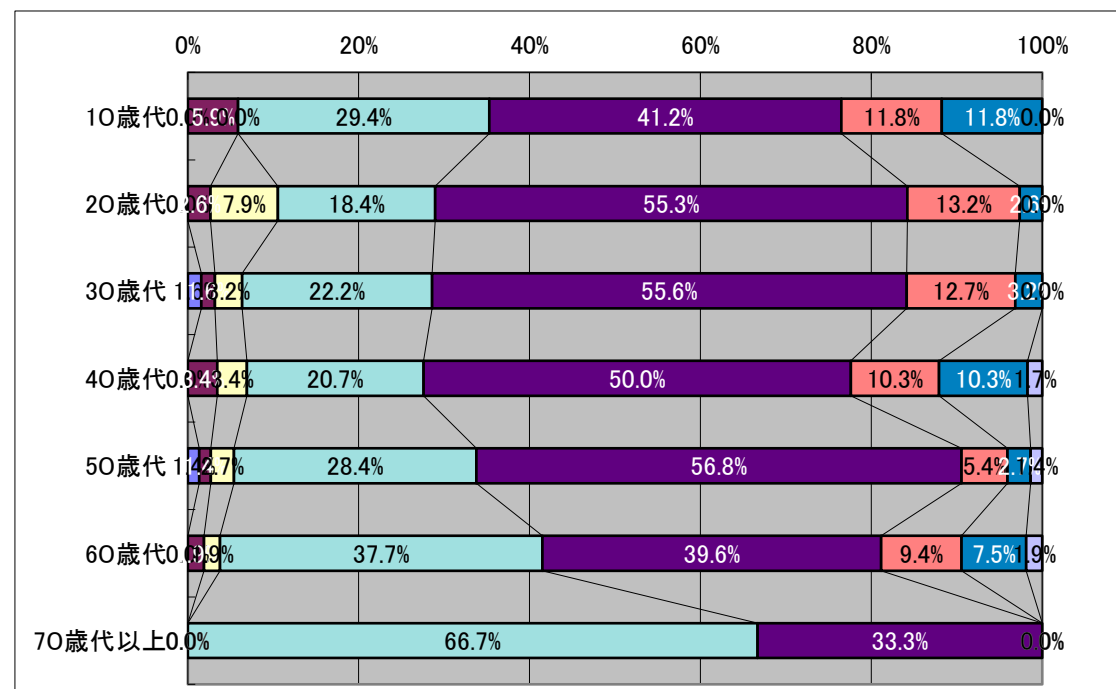
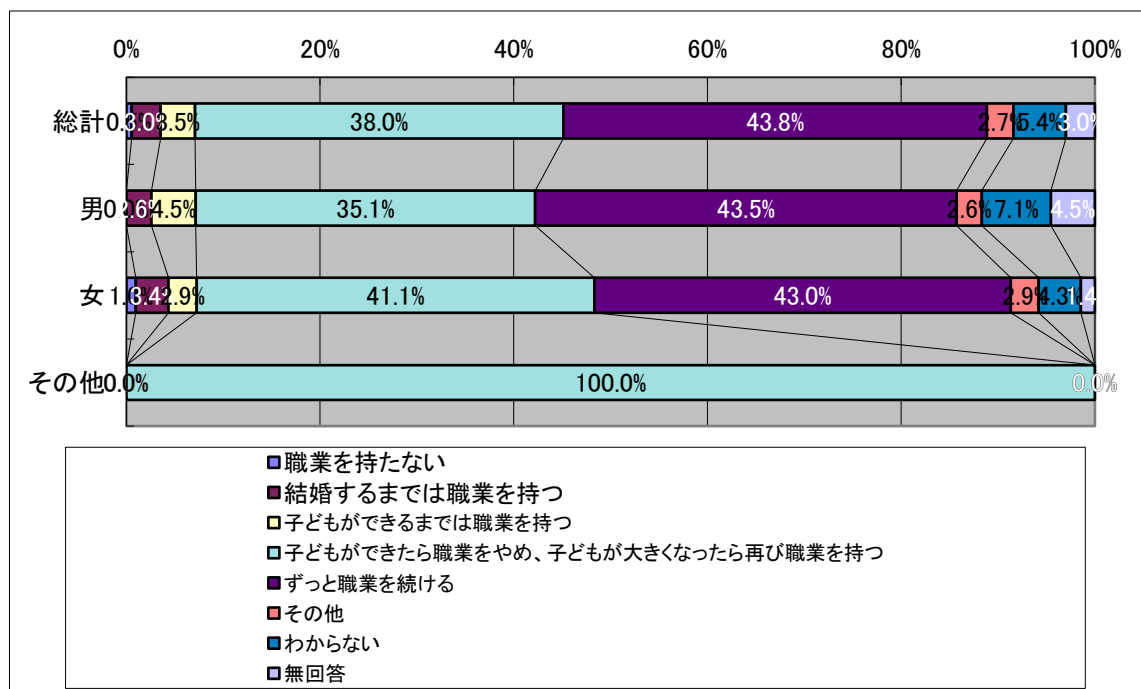
次の中から1つを選んでください。

※男性の方は配偶者の働き方などご家庭での状況で現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)をお答えください。

○男女別に見ると、現実でも男女ともに「ずっと職業を続ける」が最も高い。

○年齢別に見ても、10歳代～60歳代で「ずっと職業を続ける」が「子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ」を上回っている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
職業を持たない	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
結婚するまでは職業を持つ	11	3.0%	4	2.6%	7	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
子どもができるまでは職業を持つ	13	3.5%	7	4.5%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ	140	38.0%	54	35.1%	85	41.1%	1	100.0%	0	0.0%
ずっと職業を続ける	161	43.8%	67	43.5%	89	43.0%	0	0.0%	5	83.3%
その他	10	2.7%	4	2.6%	6	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	20	5.4%	11	7.1%	9	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	3.0%	7	4.5%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	357		147		204		1		5	

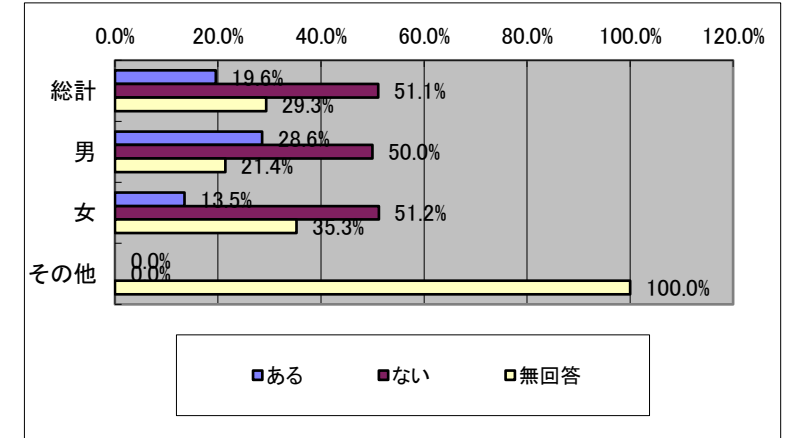


(3) 現在仕事をしている方におたずねします。職場の中で、女性について次のように感じることはありますか。

①責任ある仕事を任せない傾向がある

○男女別にみると男性は「ある」28.6%、「ない」50.0%、女性は「ある」13.5%、「ない」51.2%と男女ともに「ない」が高い。

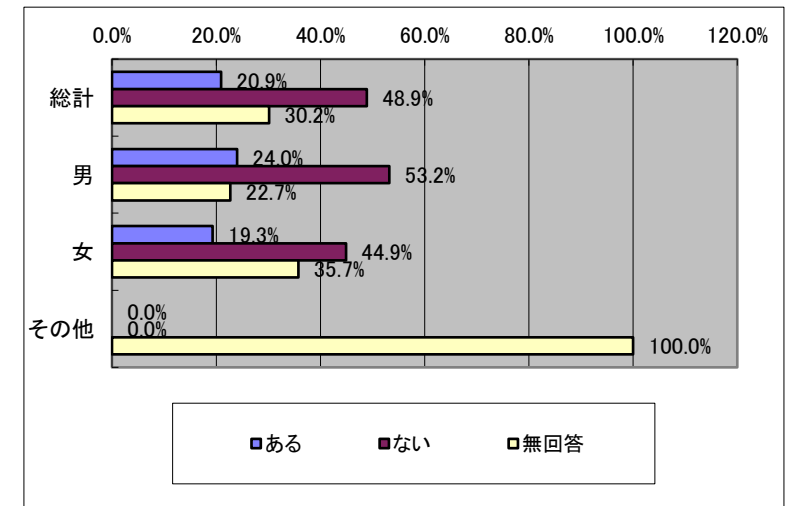
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	72	19.6%	44	28.6%	28	13.5%	0	0.0%	0	0.0%
ない	188	51.1%	77	50.0%	106	51.2%	0	0.0%	5	83.3%
無回答	108	29.3%	33	21.4%	73	35.3%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	260		121		134		0		5	



②教育訓練の機会が少ない、またその内容が異なる

○男女別にみると男性は「ある」24.0%、「ない」53.2%、女性は「ある」19.3%、「ない」44.9%と男女ともに「ない」が高い。

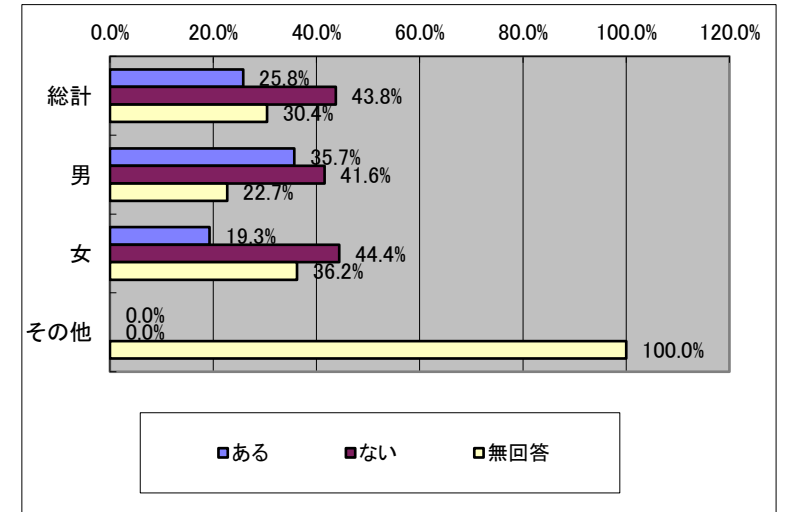
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	77	20.9%	37	24.0%	40	19.3%	0	0.0%	0	0.0%
ない	180	48.9%	82	53.2%	93	44.9%	0	0.0%	5	83.3%
無回答	111	30.2%	35	22.7%	74	35.7%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	257		119		133		0		5	



③能力を生かせる機会や配置転換が少ない

○男女別にみると男性は「ある」35.7%、「ない」41.6%、女性は「ある」19.3%、「ない」44.4%と男女ともに「ない」が高かった。

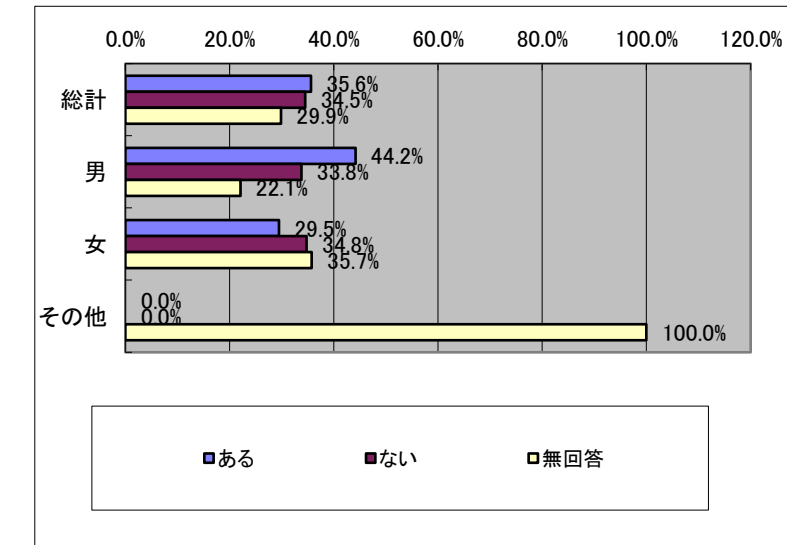
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	95	25.8%	55	35.7%	40	19.3%	0	0.0%	0	0.0%
ない	161	43.8%	64	41.6%	92	44.4%	0	0.0%	5	83.3%
無回答	112	30.4%	35	22.7%	75	36.2%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	256		119		132		0		5	



④男性にくらべ昇進・昇格が遅い

○男女別にみると男性は「ある」44.2%、「ない」33.8%で「ある」が高く、女性は「ある」29.5%、「ない」34.8%と「ない」が高かった。

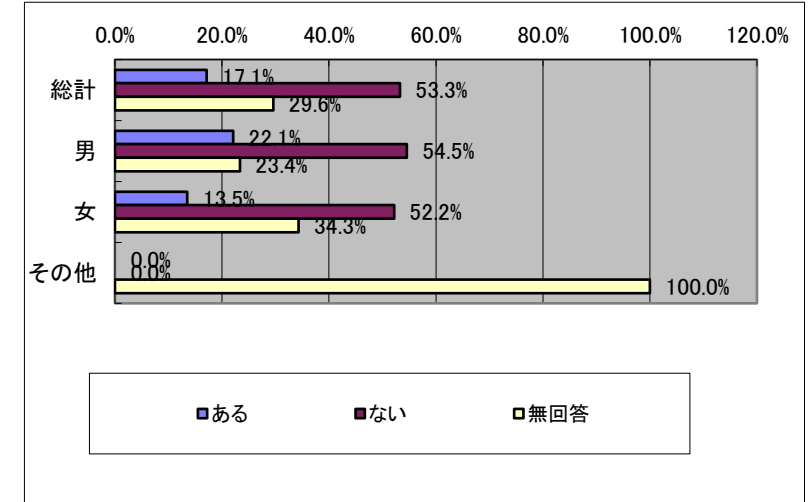
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	131	35.6%	68	44.2%	61	29.5%	0	0.0%	2	33.3%
ない	127	34.5%	52	33.8%	72	34.8%	0	0.0%	3	50.0%
無回答	110	29.9%	34	22.1%	74	35.7%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	258		120		133		0		5	



⑤結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある

○男女別にみると男性は「ある」22.1%、「ない」54.5%、女性は「ある」13.5%、「ない」52.2%と男女ともに「ない」が高い。

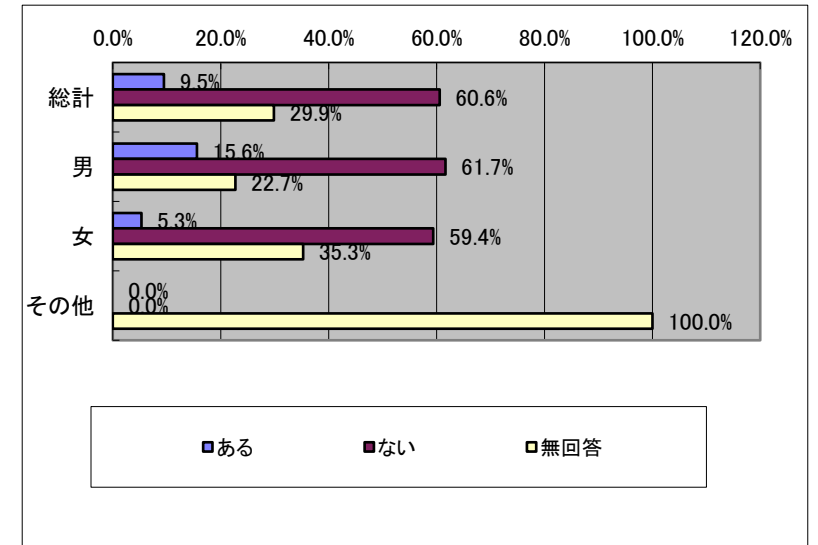
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	63	17.1%	34	22.1%	28	13.5%	0	0.0%	1	16.7%
ない	196	53.3%	84	54.5%	108	52.2%	0	0.0%	4	66.7%
無回答	109	29.6%	36	23.4%	71	34.3%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	259		118		136		0		5	



⑥女性上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある

○男女別にみると男性は「ある」15.6%、「ない」61.7%、女性は「ある」5.3%、「ない」59.4%と男女ともに「ない」が高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	35	9.5%	24	15.6%	11	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
ない	223	60.6%	95	61.7%	123	59.4%	0	0.0%	5	83.3%
無回答	110	29.9%	35	22.7%	73	35.3%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	258		119		134		0		5	



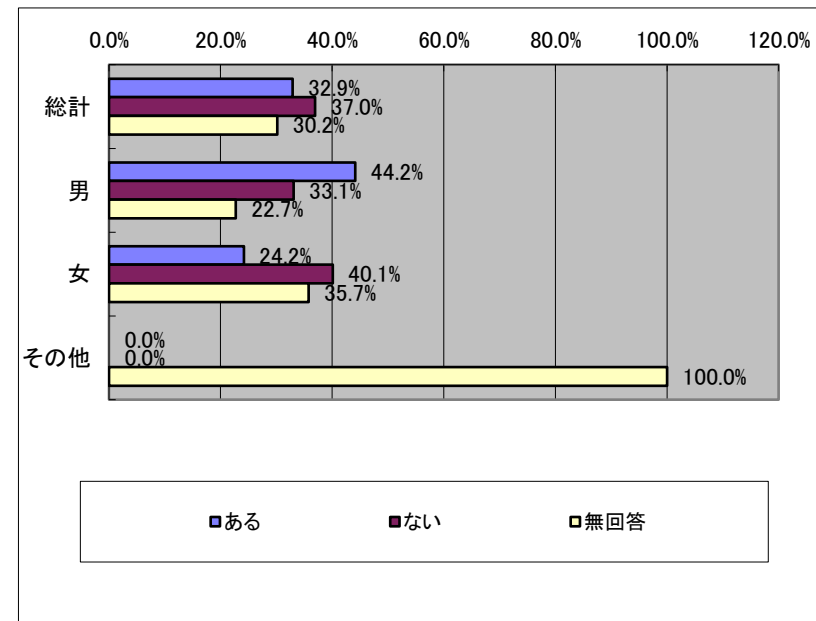
⑦女性に対して身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる

○男女別にみると男性は44.2%と「ある」が高いのに対して、女性は40.1%と「ない」が高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
ある	121	32.9%	68	44.2%	50	24.2%	0	0.0%	3	50.0%
ない	136	37.0%	51	33.1%	83	40.1%	0	0.0%	2	33.3%
無回答	111	30.2%	35	22.7%	74	35.7%	1	100.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%

回答者数(合計-無回答)

257 119 133 0 5



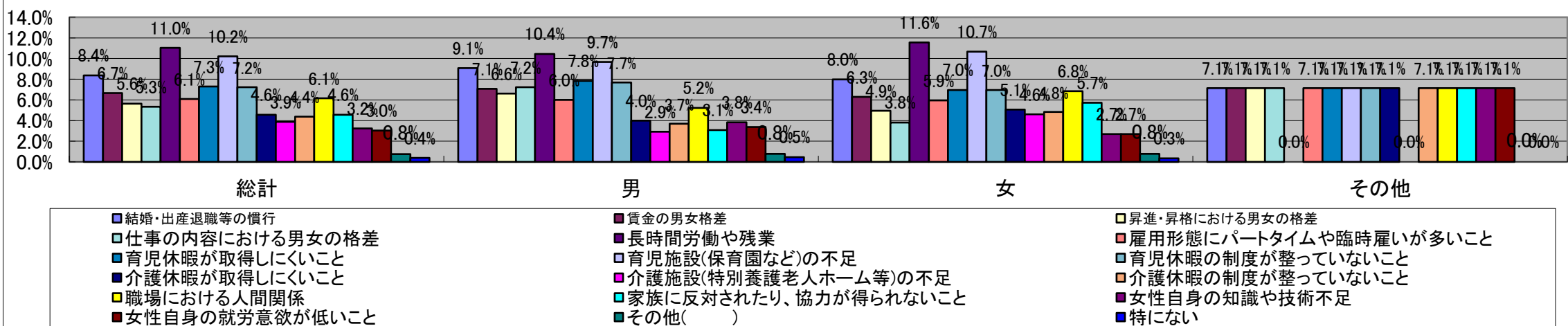
(4)あなたは、女性が働きにくいとすれば、その理由は何だと思いますか。あてはまるものすべて選んでください。

○男女別にみると男女ともに「長時間労働や残業」が最も高く、「育児施設(保育園など)の不足」が次に高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
結婚・出産退職等の慣行	132	8.4%	59	9.1%	71	8.0%	1	7.1%	1	4.5%
賃金の男女格差	105	6.7%	46	7.1%	56	6.3%	1	7.1%	2	9.1%
昇進・昇格における男女の格差	89	5.6%	43	6.6%	44	4.9%	1	7.1%	1	4.5%
仕事の内容における男女の格差	84	5.3%	47	7.2%	34	3.8%	1	7.1%	2	9.1%
長時間労働や残業	174	11.0%	68	10.4%	103	11.6%	0	0.0%	3	13.6%
雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと	96	6.1%	39	6.0%	53	5.9%	1	7.1%	3	13.6%
育児休暇が取得しにくいこと	115	7.3%	51	7.8%	62	7.0%	1	7.1%	1	4.5%
育児施設(保育園など)の不足	161	10.2%	63	9.7%	95	10.7%	1	7.1%	2	9.1%
育児休暇の制度が整っていないこと	114	7.2%	50	7.7%	62	7.0%	1	7.1%	1	4.5%
介護休暇が取得しにくいこと	72	4.6%	26	4.0%	45	5.1%	1	7.1%	0	0.0%
介護施設(特別養護老人ホーム等)の不足	61	3.9%	19	2.9%	41	4.6%	0	0.0%	1	4.5%
介護休暇の制度が整っていないこと	69	4.4%	24	3.7%	43	4.8%	1	7.1%	1	4.5%
職場における人間関係	97	6.1%	34	5.2%	61	6.8%	1	7.1%	1	4.5%
家族に反対されたり、協力が得られないこと	72	4.6%	20	3.1%	51	5.7%	1	7.1%	0	0.0%
女性自身の知識や技術不足	51	3.2%	25	3.8%	24	2.7%	1	7.1%	1	4.5%
女性自身の就労意欲が低いこと	48	3.0%	22	3.4%	24	2.7%	1	7.1%	1	4.5%
その他()	12	0.8%	5	0.8%	7	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
特にない	6	0.4%	3	0.5%	3	0.3%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	12	0.8%	4	0.6%	8	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	0.5%	3	0.5%	4	0.4%	0	0.0%	1	4.5%
合計	1,578	100.0%	651	100.0%	891	100.0%	14	100.0%	22	100.0%

回答者数(合計－無回答)

1,570 648 887 14 21



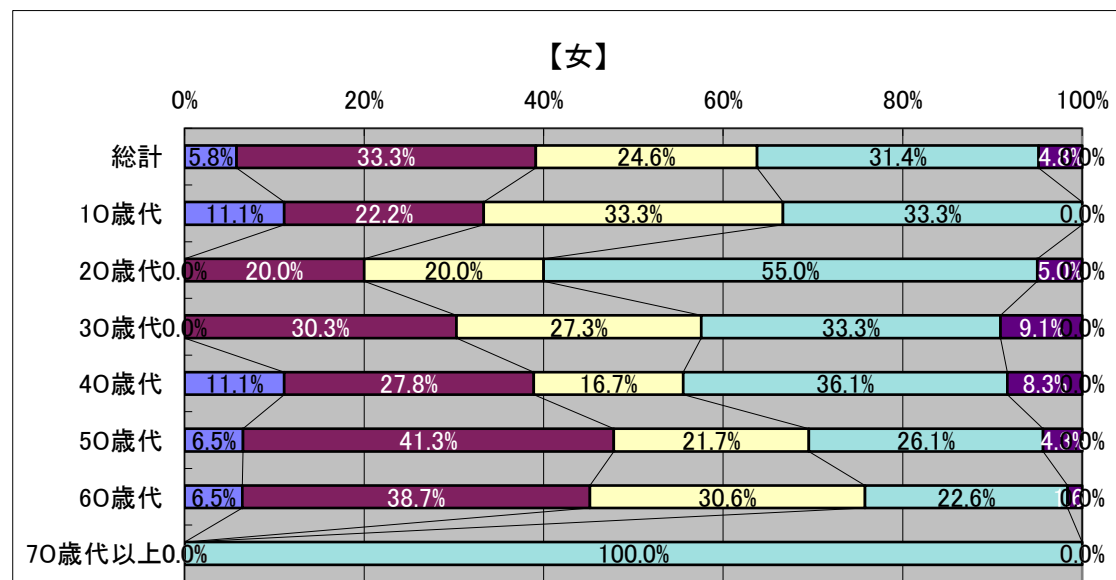
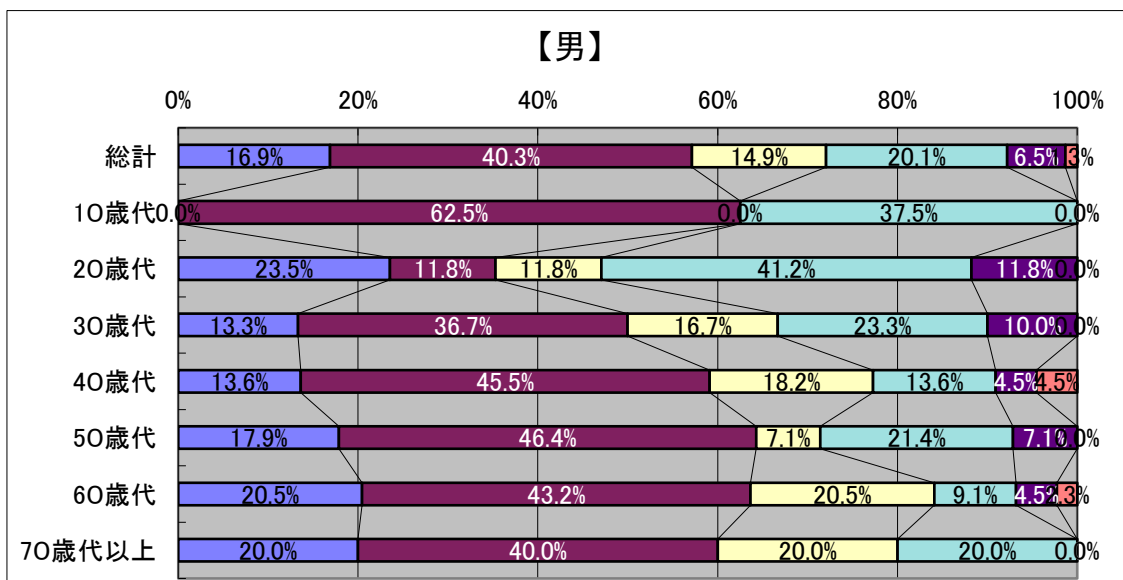
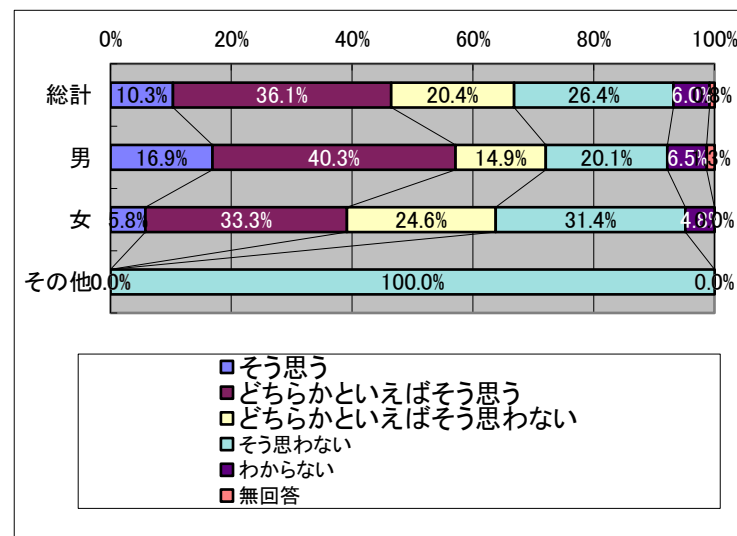
4. 子育て・教育全般

(1)あなたは、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどのように思いますか。次の中から1つを選んでください。

○男女別にみると男性57.2%が賛成(そう思う、どちらかといえばそう思う)に対し、女性56.0%が反対(そう思う、どちらかといえばそう思わない)と結果がわかれた。

○年代別、男女別にみると「男の子は男らしく、女の子は女らしく」(そう思う、どちらかといえばそう思う)の値が、男性の20歳代35.3%と女性の20歳代の20.0%が最も低くなっている。

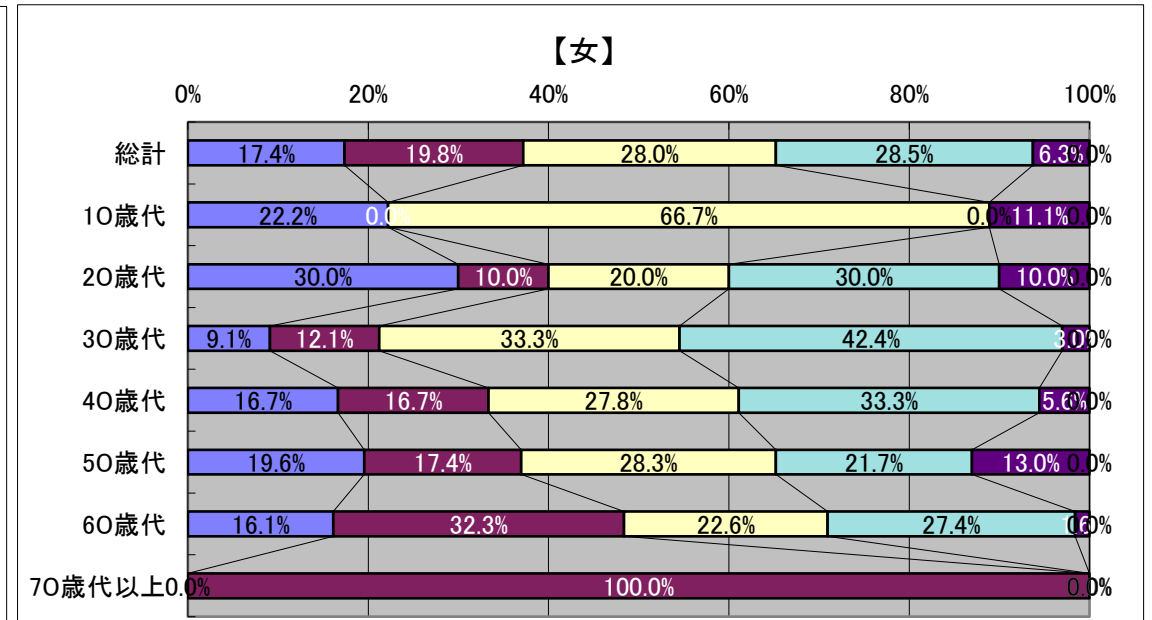
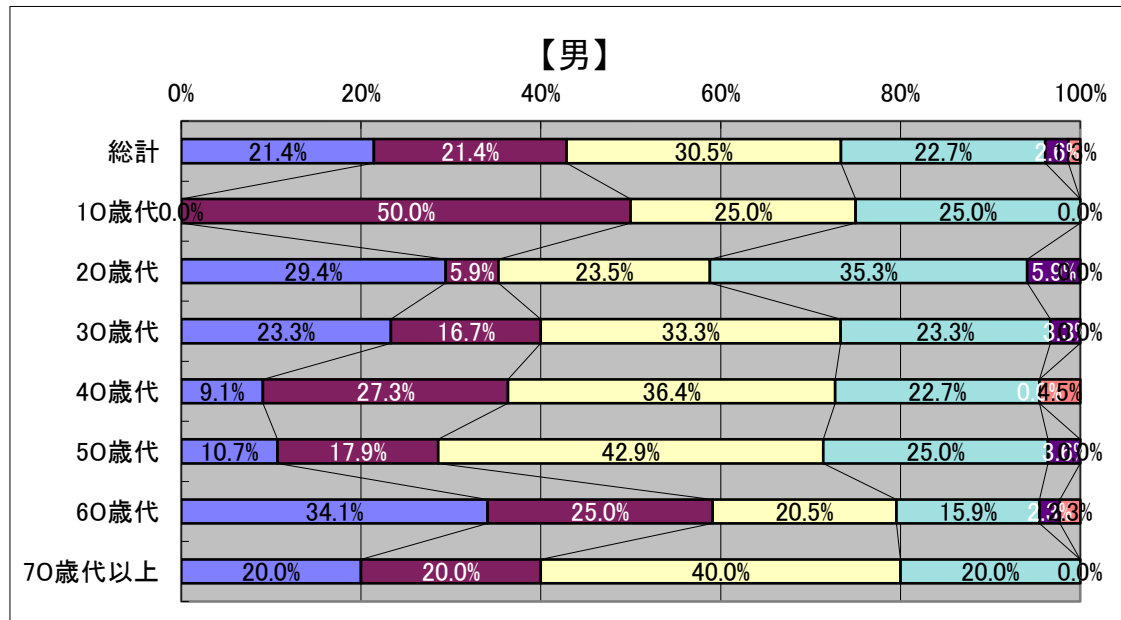
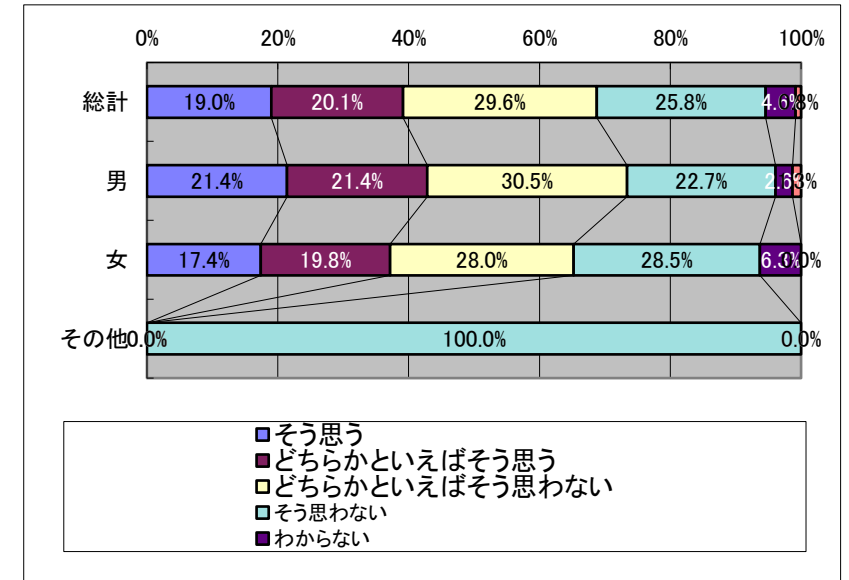
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	38	10.3%	26	16.9%	12	5.8%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえばそう思う	133	36.1%	62	40.3%	69	33.3%	0	0.0%	2	33.3%
どちらかといえばそう思わない	75	20.4%	23	14.9%	51	24.6%	0	0.0%	1	16.7%
そう思わない	97	26.4%	31	20.1%	65	31.4%	1	100.0%	0	0.0%
わからない	22	6.0%	10	6.5%	10	4.8%	0	0.0%	2	33.3%
無回答	3	0.8%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	365		152		207		1		5	



(2)あなたは、子育てにおいて父親と母親の役割は同じであると思いますか。次の中から1つ選んでください。

○男女別にみると男女ともに「子育てにおいて父親と母親の役割」について同じだと思わない(どちらかといえはそう思わないを含む)が過半数を超えている。
○年代別、男女別にみると男性は50歳代のそう思う(どちらかといえはそう思うを含む)率が特に低い。女性は10歳代、30歳代が特に低い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
そう思う	70	19.0%	33	21.4%	36	17.4%	0	0.0%	1	16.7%
どちらかといえはそう思う	74	20.1%	33	21.4%	41	19.8%	0	0.0%	0	0.0%
どちらかといえはそう思わない	109	29.6%	47	30.5%	58	28.0%	0	0.0%	4	66.7%
そう思わない	95	25.8%	35	22.7%	59	28.5%	1	100.0%	0	0.0%
わからない	17	4.6%	4	2.6%	13	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.8%	2	1.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	365		152		207		1		5	



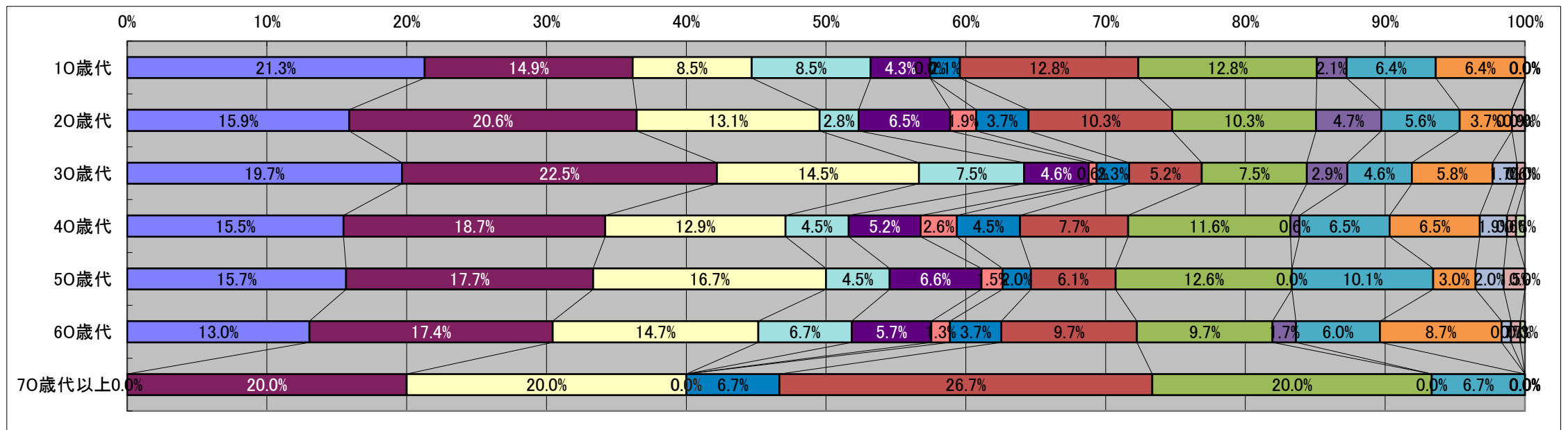
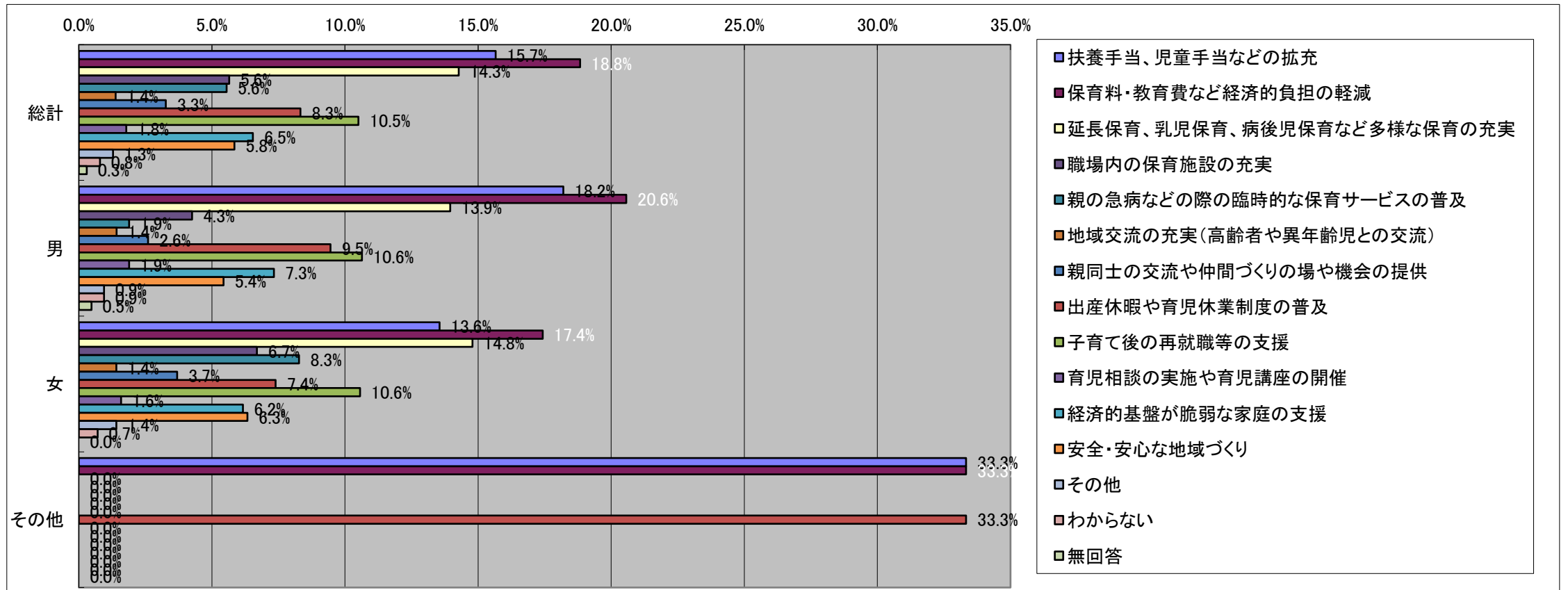
(3) 子どもを育てやすい環境づくりをするには、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○男女別にみると、男女ともに「保育料・教育費など経済的負担の軽減」が男性20.6%、女性17.4%と最も高い。

次いで男性は「扶養手当、児童手当などの拡充」が18.2%、女性は「延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実」が14.8%で高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
扶養手当、児童手当などの拡充	158	15.7%	77	18.2%	77	13.6%	1	33.3%	3	20.0%
保育料・教育費など経済的負担の軽減	190	18.8%	87	20.6%	99	17.4%	1	33.3%	3	20.0%
延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実	144	14.3%	59	13.9%	84	14.8%	0	0.0%	1	6.7%
職場内の保育施設の充実	57	5.6%	18	4.3%	38	6.7%	0	0.0%	1	6.7%
親の急病などの際の臨時的な保育サービスの普及	56	5.6%	8	1.9%	47	8.3%	0	0.0%	1	6.7%
地域交流の充実(高齢者や異年齢児との交流)	14	1.4%	6	1.4%	8	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
親同士の交流や仲間づくりの場や機会の提供	33	3.3%	11	2.6%	21	3.7%	0	0.0%	1	6.7%
出産休暇や育児休業制度の普及	84	8.3%	40	9.5%	42	7.4%	1	33.3%	1	6.7%
子育て後の再就職等の支援	106	10.5%	45	10.6%	60	10.6%	0	0.0%	1	6.7%
育児相談の実施や育児講座の開催	18	1.8%	8	1.9%	9	1.6%	0	0.0%	1	6.7%
経済的基盤が脆弱な家庭の支援	66	6.5%	31	7.3%	35	6.2%	0	0.0%	0	0.0%
安全・安心な地域づくり	59	5.8%	23	5.4%	36	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他	13	1.3%	4	0.9%	8	1.4%	0	0.0%	1	6.7%
わからない	8	0.8%	4	0.9%	4	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.3%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
合計	1,009	100.0%	423	100.0%	568	100.0%	3	100.0%	15	100.0%
回答者数 (合計－無回答)	1,006		421		568		3		14	

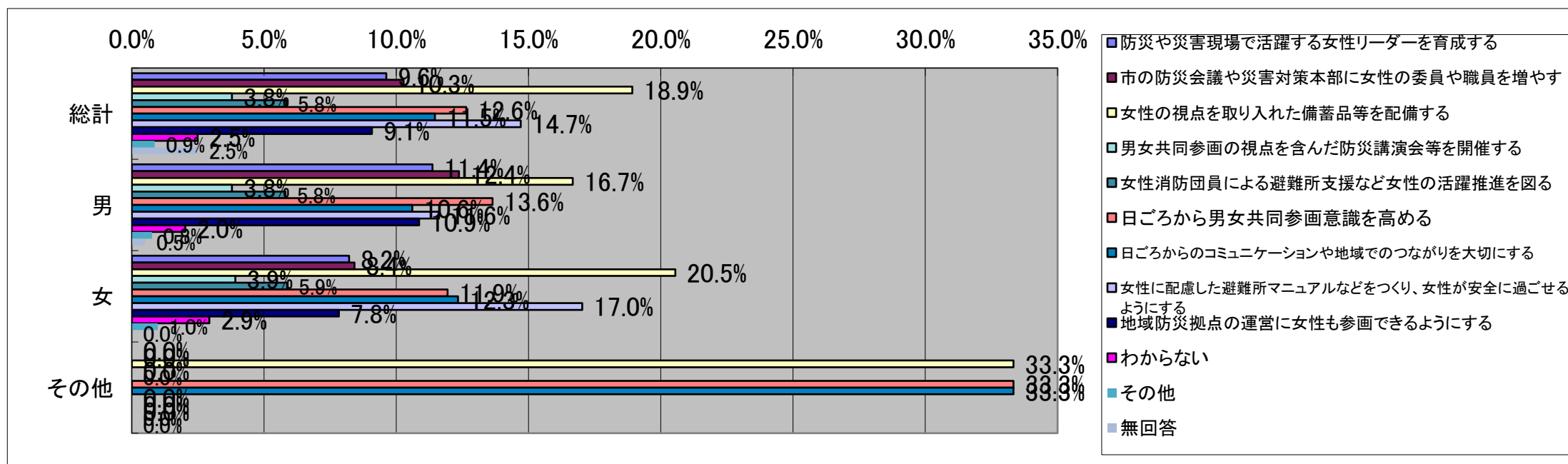


5. 防災

(1) 防災分野に女性が参画するために、どのような施策が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○男性16.7%女性20.5%と「女性の視点を取り入れた備蓄品等を配備する」が最も高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
防災や災害現場で活躍する女性リーダーを育成する	89	9.6%	45	11.4%	42	8.2%	0	0.0%	2	13.3%
市の防災会議や災害対策本部に女性の委員や職員を増やす	95	10.3%	49	12.4%	43	8.4%	0	0.0%	3	20.0%
女性の視点を取り入れた備蓄品等を配備する	175	18.9%	66	16.7%	105	20.5%	1	33.3%	3	20.0%
男女共同参画の視点を含んだ防災講演会等を開催する	35	3.8%	15	3.8%	20	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
女性消防団員による避難所支援など女性の活躍推進を図る	54	5.8%	23	5.8%	30	5.9%	0	0.0%	1	6.7%
日ごろから男女共同参画意識を高める	117	12.6%	54	13.6%	61	11.9%	1	33.3%	1	6.7%
日ごろからのコミュニケーションや地域でのつながりを大切にする	106	11.5%	42	10.6%	63	12.3%	1	33.3%	0	0.0%
女性に配慮した避難所マニュアルなどをつくり、女性が安全に過ごせるようにする	136	14.7%	46	11.6%	87	17.0%	0	0.0%	3	20.0%
地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする	84	9.1%	43	10.9%	40	7.8%	0	0.0%	1	6.7%
その他	8	0.9%	3	0.8%	5	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	23	2.5%	8	2.0%	15	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	3	0.3%	2	0.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	6.7%
合計	925	100.0%	396	100.0%	511	100.0%	3	100.0%	15	100.0%
回答者数(合計-無回答)	922		394		511		3		14	



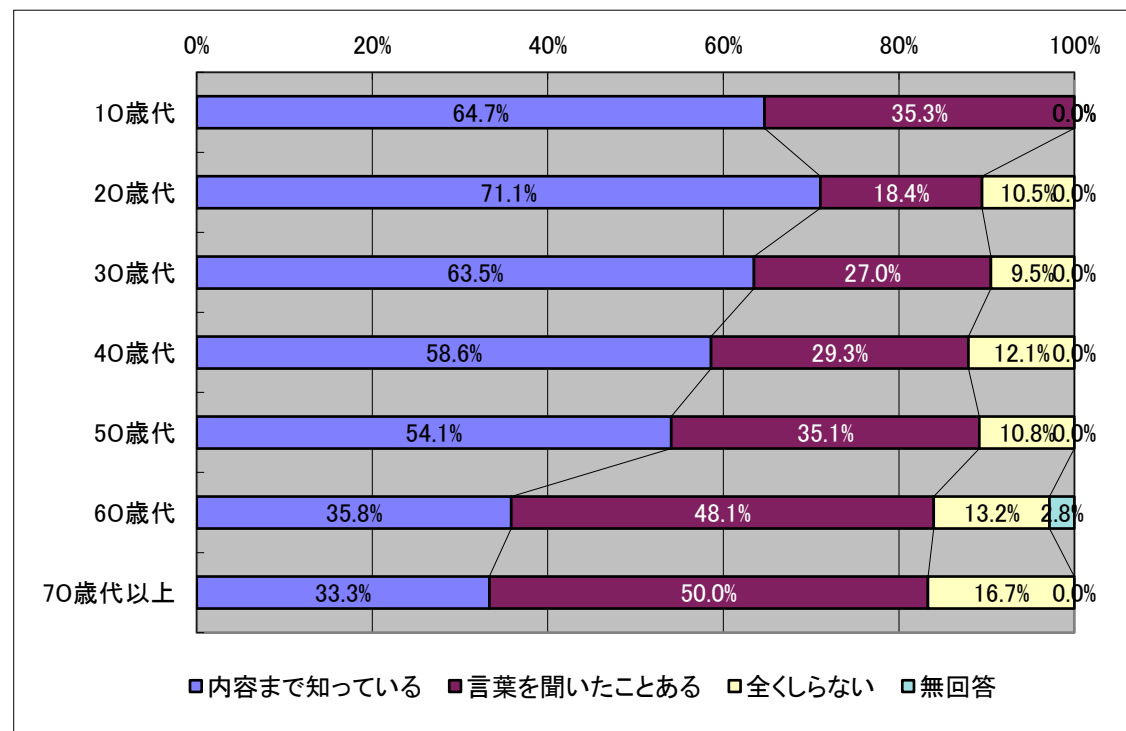
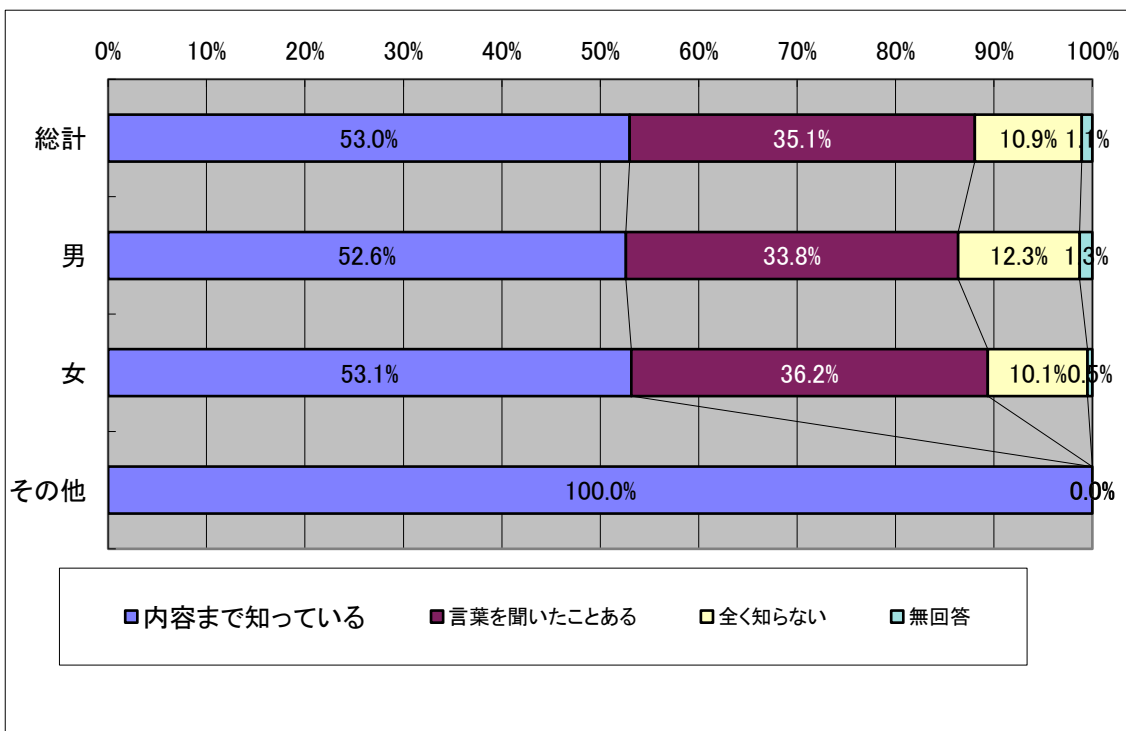
6. 性の多様性

(1) LGBTについて知っていますか。次の中から1つを選んでください。

○男女別にみると男性女性ともに「内容まで知っている」が最も高く、過半数を超えている。

○年齢別にみると10歳代では「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」を合わせ100%となっている。

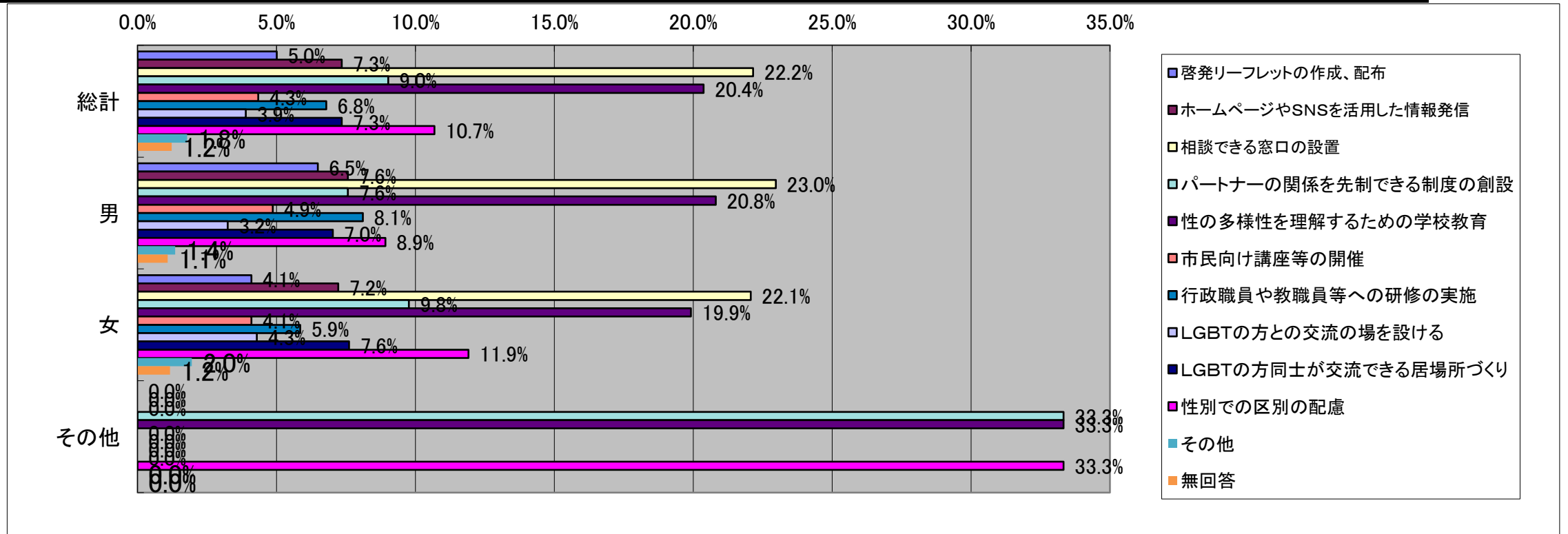
選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	195	53.0%	81	52.6%	110	53.1%	1	100.0%	3	50.0%
言葉を聞いたことがある	129	35.1%	52	33.8%	75	36.2%	0	0.0%	2	33.3%
全く知らない	40	10.9%	19	12.3%	21	10.1%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	4	1.1%	2	1.3%	1	0.5%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	364		152		206		1		5	



(2) 性の多様性への理解を促進するために、行政としてどのような取り組みが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○男女別でみると男女ともに「相談できる窓口の設置」が男性23.0%、女性22.1%で最も高い。女性は19.9%で「性の多様性を理解するための学校教育」が、男性は20.8%の同数で「性の多様性を理解するための学校教育」が次に高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
啓発リーフレットの作成、配布	45	5.0%	24	6.5%	21	4.1%	0	0.0%	0	0.0%
ホームページやSNSを活用した情報発信	66	7.3%	28	7.6%	37	7.2%	0	0.0%	1	7.7%
相談できる窓口の設置	199	22.2%	85	23.0%	113	22.1%	0	0.0%	1	7.7%
パートナーの関係を先制できる制度の創設	81	9.0%	28	7.6%	50	9.8%	1	33.3%	2	15.4%
性の多様性を理解するための学校教育	183	20.4%	77	20.8%	102	19.9%	1	33.3%	3	23.1%
市民向け講座等の開催	39	4.3%	18	4.9%	21	4.1%	0	0.0%	0	0.0%
行政職員や教職員等への研修の実施	61	6.8%	30	8.1%	30	5.9%	0	0.0%	1	7.7%
LGBTの方との交流の場を設ける	35	3.9%	12	3.2%	22	4.3%	0	0.0%	1	7.7%
LGBTの方同士が交流できる居場所づくり	66	7.3%	26	7.0%	39	7.6%	0	0.0%	1	7.7%
性別での区別の配慮	96	10.7%	33	8.9%	61	11.9%	1	33.3%	1	7.7%
その他	16	1.8%	5	1.4%	10	2.0%	0	0.0%	1	7.7%
無回答	11	1.2%	4	1.1%	6	1.2%	0	0.0%	1	7.7%
合計	898	100.0%	370	100.0%	512	100.0%	3	100.0%	13	100.0%



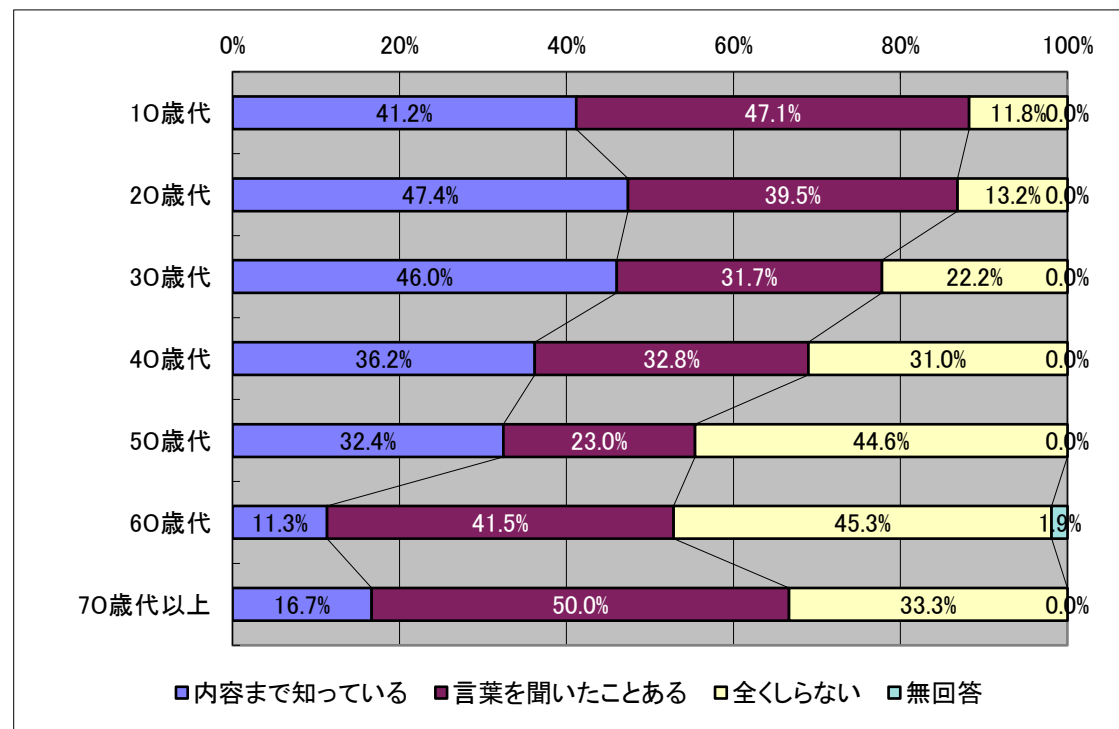
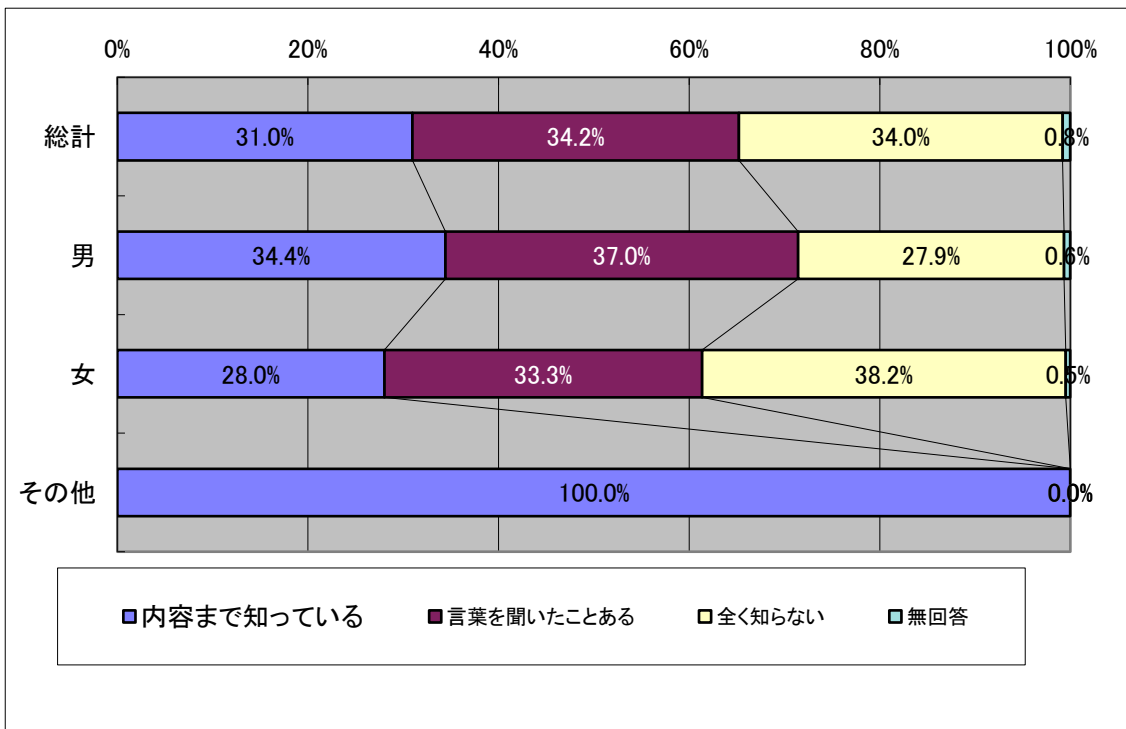
7. ワーク・ライフ・バランス

(1) ワーク・ライフ・バランスについて知っていますか。次の中から1つを選んでください。

○男女別にみると男性は37.0%で「言葉を聞いたことがある」が最も高く、女性は38.2%で「全く知らない」が最も高い。

○年齢別にみると10歳代、20歳代が「内容まで知っている」「言葉を聞いたことがある」を合わせ85%を超えている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
内容まで知っている	114	31.0%	53	34.4%	58	28.0%	1	100.0%	2	33.3%
言葉を聞いたことある	126	34.2%	57	37.0%	69	33.3%	0	0.0%	0	0.0%
全く知らない	125	34.0%	43	27.9%	79	38.2%	0	0.0%	3	50.0%
無回答	3	0.8%	1	0.6%	1	0.5%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	365		153		206		1		5	

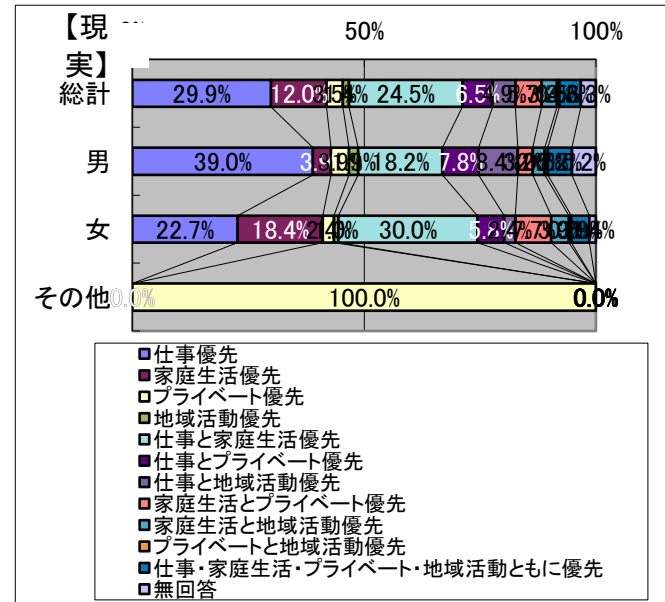
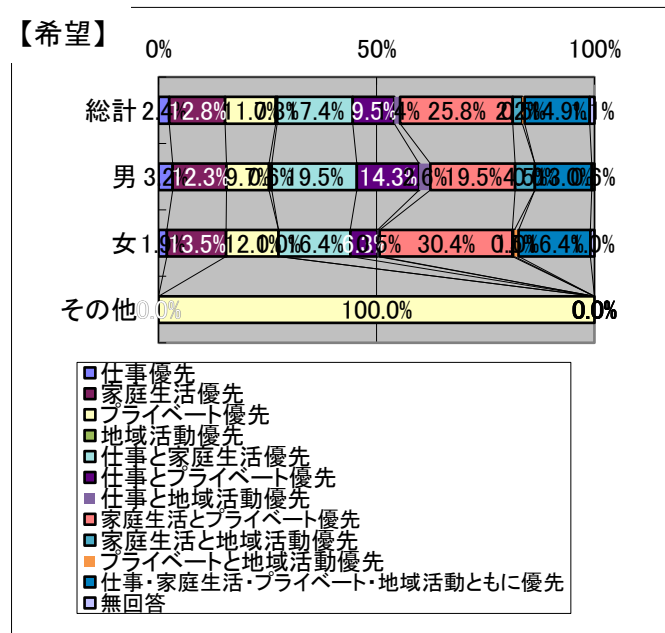


(2) 生活の中で「仕事」・「家庭生活(家事・育児等)」・「プライベートな時間(趣味等)」・「地域活動(自治会等)」の優先度についてお聞きします。「希望」と「現実」の優先度について、あなたの答えや現状に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

○男女別にみると、男性は希望として19.5%で「仕事と家庭生活優先」「家庭生活とプライベート優先」が同数で最も高いが、現実には39.0%で「仕事優先」が最も高い。女性は希望として30.4%で「家庭生活とプライベート優先」が最も高いが、現実には30.0%で「仕事と家庭生活優先」が最も高い。

選択項目	【希望】									
	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事優先	9	2.4%	5	3.2%	4	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
家庭生活優先	47	12.8%	19	12.3%	28	13.5%	0	0.0%	0	0.0%
プライベート優先	43	11.7%	15	9.7%	25	12.1%	1	100.0%	2	33.3%
地域活動優先	1	0.3%	1	0.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事と家庭生活優先	64	17.4%	30	19.5%	34	16.4%	0	0.0%	0	0.0%
仕事とプライベート優先	35	9.5%	22	14.3%	13	6.3%	0	0.0%	0	0.0%
仕事と地域活動優先	5	1.4%	4	2.6%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
家庭生活とプライベート優先	95	25.8%	30	19.5%	63	30.4%	0	0.0%	2	33.3%
家庭生活と地域活動優先	8	2.2%	7	4.5%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
プライベートと地域活動優先	2	0.5%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事・家庭生活・プライベート・地域活動ともに優先	55	14.9%	20	13.0%	34	16.4%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	4	1.1%	1	0.6%	2	1.0%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	364		153		205		1		5	

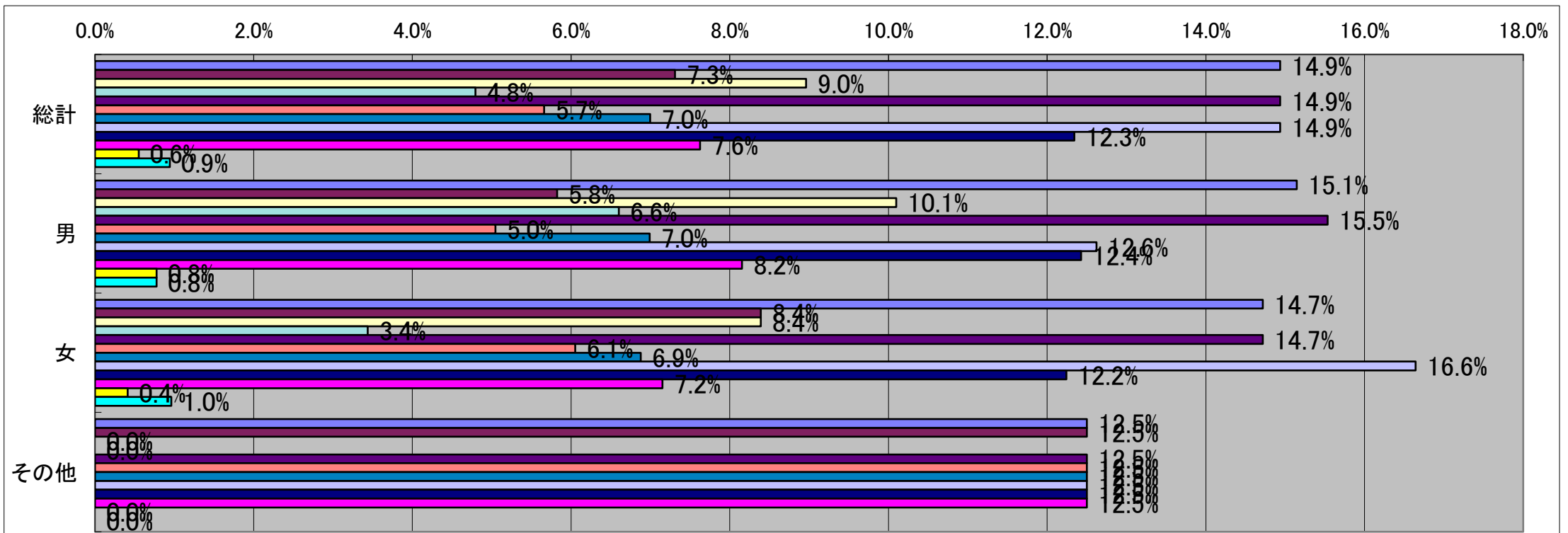
選択項目	【現実】									
	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
仕事優先	110	29.9%	60	39.0%	47	22.7%	0	0.0%	3	50.0%
家庭生活優先	44	12.0%	6	3.9%	38	18.4%	0	0.0%	0	0.0%
プライベート優先	13	3.5%	6	3.9%	5	2.4%	1	100.0%	1	16.7%
地域活動優先	5	1.4%	3	1.9%	2	1.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事と家庭生活優先	90	24.5%	28	18.2%	62	30.0%	0	0.0%	0	0.0%
仕事とプライベート優先	24	6.5%	12	7.8%	12	5.8%	0	0.0%	0	0.0%
仕事と地域活動優先	18	4.9%	13	8.4%	5	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
家庭生活とプライベート優先	21	5.7%	5	3.2%	16	7.7%	0	0.0%	0	0.0%
家庭生活と地域活動優先	12	3.3%	4	2.6%	8	3.9%	0	0.0%	0	0.0%
プライベートと地域活動優先	2	0.5%	1	0.6%	1	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
仕事・家庭生活・プライベート・地域活動ともに優先	17	4.6%	8	5.2%	8	3.9%	0	0.0%	1	16.7%
無回答	12	3.3%	8	5.2%	3	1.4%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	154	100.0%	207	100.0%	1	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計-無回答)	356		146		204		1		5	



(3)ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものすべてを選んでください。

○男女別にみると男性15.5%で「長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす」が最も高く、女性16.6%で「仕事をもつ男女が、子どもとかかわることが出来る時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる」が最も高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる	190	14.9%	78	15.1%	107	14.7%	1	12.5%	4	18.2%
女性の継続就業や希望する働き方の再就職が容易になる	93	7.3%	30	5.8%	61	8.4%	1	12.5%	1	4.5%
自己啓発や趣味の時間が増え、能力もたかめたり、満足度を得たりすることができる	114	9.0%	52	10.1%	61	8.4%	0	0.0%	1	4.5%
働く人々が地域活動にかかわることが出来るようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる	61	4.8%	34	6.6%	25	3.4%	0	0.0%	2	9.1%
長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす	190	14.9%	80	15.5%	107	14.7%	1	12.5%	2	9.1%
人口減少が進行する中、女性や高齢者など様々な人材が活用できようになり、労働力不足の解消になる	72	5.7%	26	5.0%	44	6.1%	1	12.5%	1	4.5%
一人ひとりの日ごとへの満足度が向上し、能力が十分に発揮され、生産性の高い効率的な働き方ができるようになり、日本経済の競争力も高まる	89	7.0%	36	7.0%	50	6.9%	1	12.5%	2	9.1%
仕事をもつ男女が、子どもとかかわることが出来る時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる	190	14.9%	65	12.6%	121	16.6%	1	12.5%	3	13.6%
労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の振興を防ぐことができる	157	12.3%	64	12.4%	89	12.2%	1	12.5%	3	13.6%
企業が個人の様々なニーズ(希望や必要性)に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まるので、優秀な人材を確保・定着させることができる	97	7.6%	42	8.2%	52	7.2%	1	12.5%	2	9.1%
その他	7	0.6%	4	0.8%	3	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	0.9%	4	0.8%	7	1.0%	0	0.0%	1	4.5%
合計	1,272	100.0%	515	100.0%	727	100.0%	8	100.0%	22	100.0%
回答者数(合計-無回答)	1,260		511		720		8		21	



- 家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる
- 女性の継続就業や希望する働き方の再就職が容易になる
- 自己啓発や趣味の時間が増え、能力もたかめたり、満足度を得たりすることができる
- 働く人々が地域活動にかかわることが出来るようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる
- 長時間労働が減り、心身の健康に良い影響を及ぼす
- 人口減少が進行する中、女性や高齢者など様々な人材が活用できようになり、労働力不足の解消になる
- 一人ひとりの日ごとへの満足度が向上し、能力が十分に発揮され、生産性の高い効率的な働き方ができるようになり、日本経済の競争力も高まる
- 仕事をもつ男女が、子どもとかわることが出来る時間が増え、安心して子どもを生み育てることができる
- 労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の振興を防ぐことができる
- 企業が個人の様々なニーズ(希望や必要性)に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まるので、優秀な人材を確保・定着させることができる
- その他
- 無回答

8. 社会参加

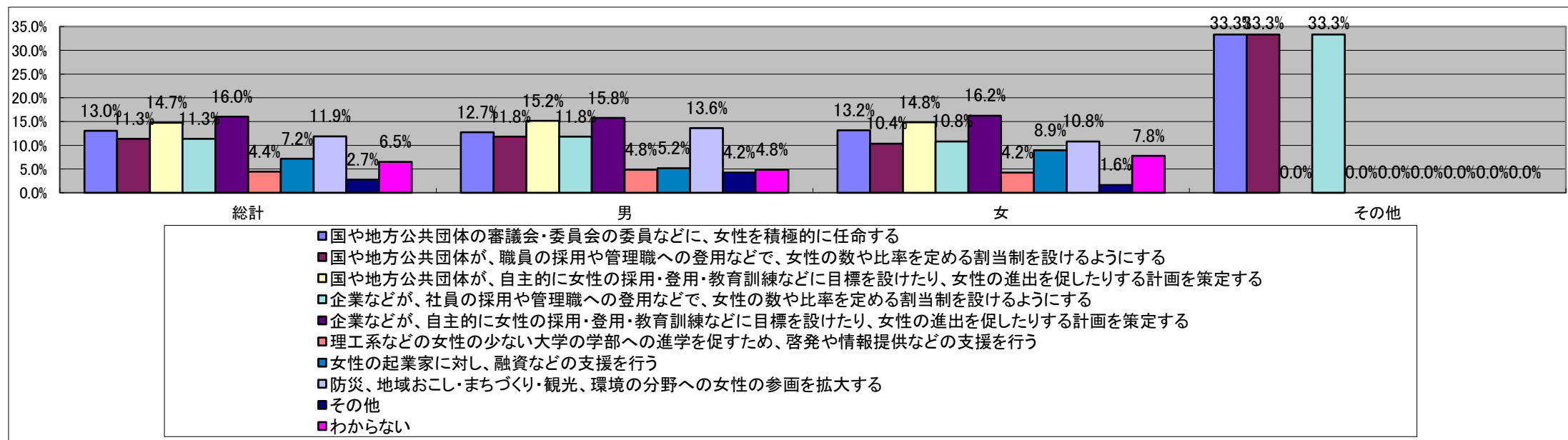
(1)あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出するために、どのような方法をとるのがよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○男性15.8%女性16.2%と「企業などが、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する」が最も高く、「国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり女性進出を促したりする計画を策定する」が次に高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに、女性を積極的に任命する	100	13.0%	42	12.7%	56	13.2%	1	33.3%	1	11.1%
国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする	87	11.3%	39	11.8%	44	10.4%	1	33.3%	3	33.3%
国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する	113	14.7%	50	15.2%	63	14.8%	0	0.0%	0	0.0%
企業などが、社員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする	87	11.3%	39	11.8%	46	10.8%	1	33.3%	1	11.1%
企業などが、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する	123	16.0%	52	15.8%	69	16.2%	0	0.0%	2	22.2%
理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う	34	4.4%	16	4.8%	18	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
女性の起業家に対し、融資などの支援を行う	55	7.2%	17	5.2%	38	8.9%	0	0.0%	0	0.0%
防災、地域おこし・まちづくり・観光、環境の分野への女性の参画を拡大する	91	11.9%	45	13.6%	46	10.8%	0	0.0%	0	0.0%
その他	21	2.7%	14	4.2%	7	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	50	6.5%	16	4.8%	33	7.8%	0	0.0%	1	11.1%
無回答	6	0.8%	0	0.0%	5	1.2%	0	0.0%	1	11.1%
合計	767	100.0%	330	100.0%	425	100.0%	3	100.0%	9	100.0%

回答者数 (合計－無回答)

761 330 420 3 8



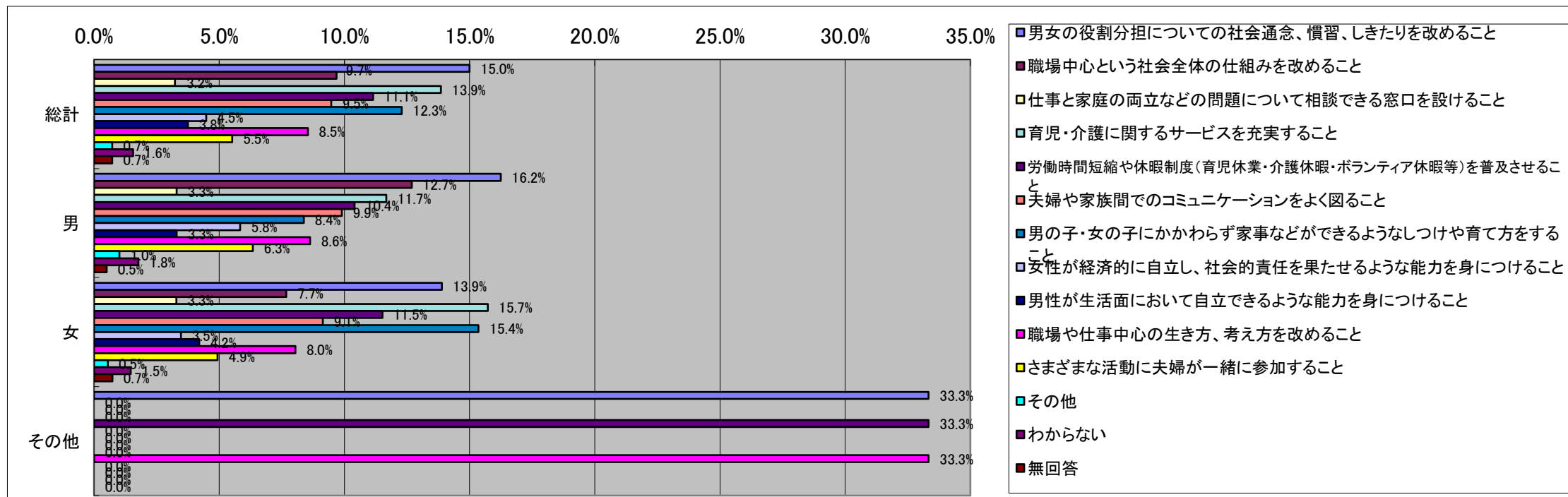
(2)男女がともにあらゆる場面(仕事、家事、育児、介護、地域活動など)に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

○男性は「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が16.2%で最も高く、女性は「育児・介護に関するサービスを充実することが」15.7%で最も高い。次いで男女ともに「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	144	15.0%	64	16.2%	76	13.9%	1	33.3%	3	18.8%
職場中心という社会全体の仕組みを改めること	93	9.7%	50	12.7%	42	7.7%	0	0.0%	1	6.3%
仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	31	3.2%	13	3.3%	18	3.3%	0	0.0%	0	0.0%
育児・介護に関するサービスを充実すること	133	13.9%	46	11.7%	86	15.7%	0	0.0%	1	6.3%
労働時間短縮や休暇制度(育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等)を普及させること	107	11.1%	41	10.4%	63	11.5%	1	33.3%	2	12.5%
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること	91	9.5%	39	9.9%	50	9.1%	0	0.0%	2	12.5%
男の子・女の子にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること	118	12.3%	33	8.4%	84	15.4%	0	0.0%	1	6.3%
女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること	43	4.5%	23	5.8%	19	3.5%	0	0.0%	1	6.3%
男性が生活面において自立できるような能力を身につけること	36	3.8%	13	3.3%	23	4.2%	0	0.0%	0	0.0%
職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること	82	8.5%	34	8.6%	44	8.0%	1	33.3%	3	18.8%
さまざまな活動に夫婦と一緒に参加すること	53	5.5%	25	6.3%	27	4.9%	0	0.0%	1	6.3%
その他	7	0.7%	4	1.0%	3	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
わからない	15	1.6%	7	1.8%	8	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	7	0.7%	2	0.5%	4	0.7%	0	0.0%	1	6.3%
合計	960	100.0%	394	100.0%	547	100.0%	3	100.0%	16	100.0%

回答者数 (合計-無回答)

953 392 543 3 15



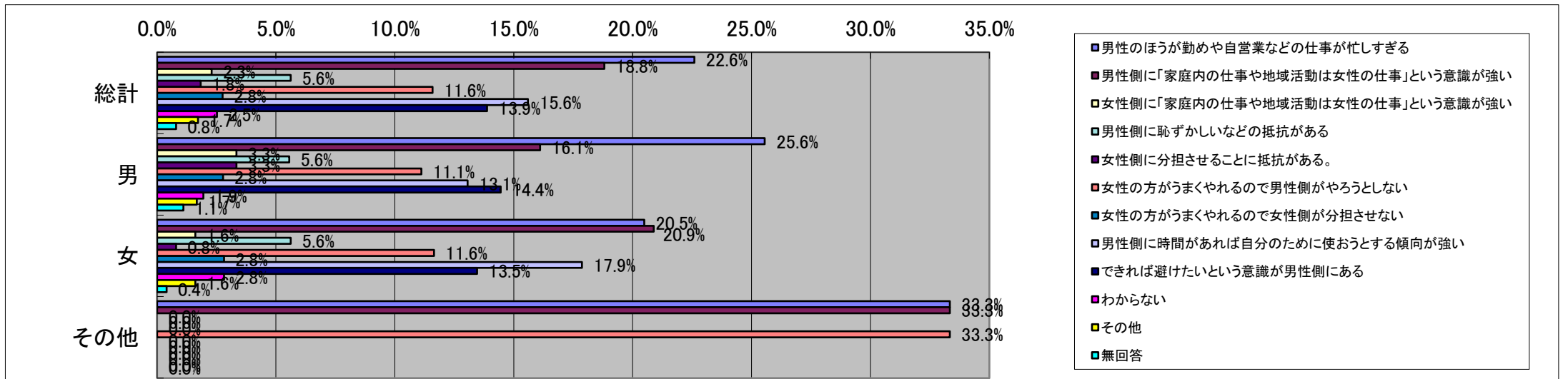
(3) 家事、育児、介護、地域活動へ男性が参加することに、妨げとなっているものは何だと思えますか。次の中から大きな理由と思うものを3つまで選んでください。

○男性は25.6%で「男性のほうが勤めや自営業などの仕事が忙しすぎる」が最も高く、女性は20.9%で「男性側に「家庭内の仕事や地域活動は女性の仕事」という意識が強い」が最も高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
男性のほうが勤めや自営業などの仕事が忙しすぎる	197	22.6%	92	25.6%	102	20.5%	1	33.3%	2	18.2%
男性側に「家庭内の仕事や地域活動は女性の仕事」という意識が強い	164	18.8%	58	16.1%	104	20.9%	1	33.3%	1	9.1%
女性側に「家庭内の仕事や地域活動は女性の仕事」という意識が強い	20	2.3%	12	3.3%	8	1.6%	0	0.0%	0	0.0%
男性側に恥ずかしいなどの抵抗がある	49	5.6%	20	5.6%	28	5.6%	0	0.0%	1	9.1%
女性側に分担させることに抵抗がある。	16	1.8%	12	3.3%	4	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
女性の方がうまくやれるので男性側がやろうとしない	101	11.6%	40	11.1%	58	11.6%	1	33.3%	2	18.2%
女性の方がうまくやれるので女性側が分担させない	24	2.8%	10	2.8%	14	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
男性側に時間があれば自分のために使おうとする傾向が強い	136	15.6%	47	13.1%	89	17.9%	0	0.0%	0	0.0%
できれば避けたいという意識が男性側にある	121	13.9%	52	14.4%	67	13.5%	0	0.0%	2	18.2%
わからない	22	2.5%	7	1.9%	14	2.8%	0	0.0%	1	9.1%
その他	15	1.7%	6	1.7%	8	1.6%	0	0.0%	1	9.1%
無回答	7	0.8%	4	1.1%	2	0.4%	0	0.0%	1	9.1%
合計	872	100.0%	360	100.0%	498	100.0%	3	100.0%	11	100.0%

回答者数 (合計-無回答)

865 356 496 3 10

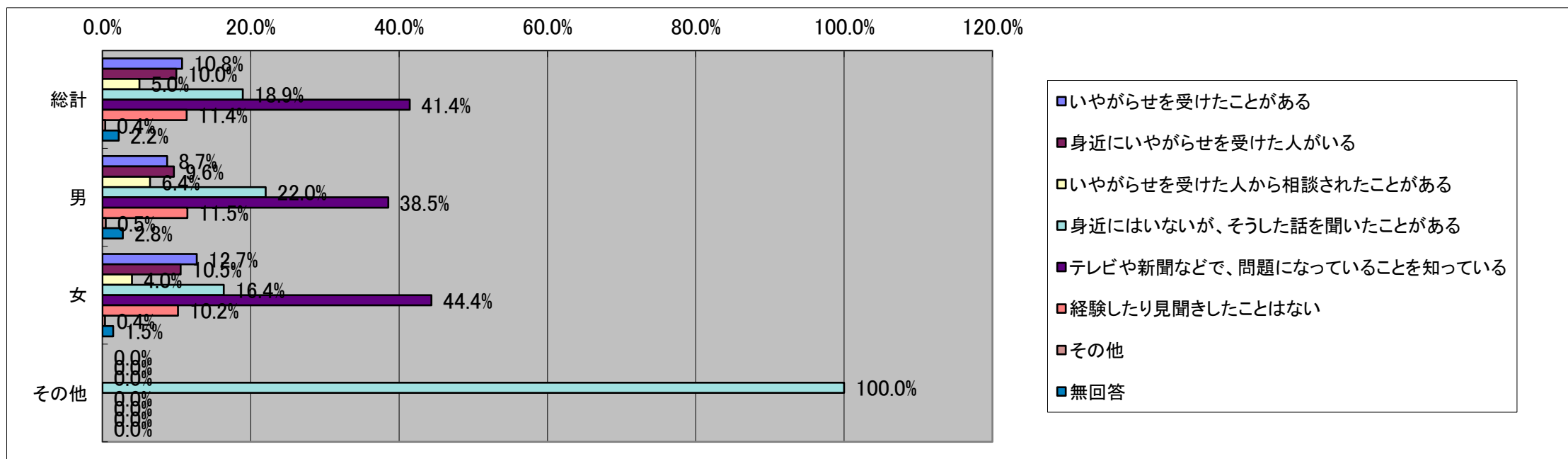


9. セクシャルハラスメント、パワーハラスメント

(1)あなたは、セクシャルハラスメント(性的いやがらせ)・パワーハラスメント(職権を濫用したいやがらせ)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

○男女別にみると男性38.5%女性44.4%で「テレビや新聞などで問題になっていることを知っている」が最も高い。また、男性8.7%女性12.7%で「いやがらせを受けたことがある」は男性より女性の方が高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
いやがらせを受けたことがある	54	10.8%	19	8.7%	35	12.7%	0	0.0%	0	0.0%
身近にいやがらせを受けた人がいる	50	10.0%	21	9.6%	29	10.5%	0	0.0%	0	0.0%
いやがらせを受けた人から相談されたことがある	25	5.0%	14	6.4%	11	4.0%	0	0.0%	0	0.0%
身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	95	18.9%	48	22.0%	45	16.4%	1	100.0%	1	12.5%
テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている	208	41.4%	84	38.5%	122	44.4%	0	0.0%	2	25.0%
経験したり見聞きしたことはない	57	11.4%	25	11.5%	28	10.2%	0	0.0%	4	50.0%
その他	2	0.4%	1	0.5%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	11	2.2%	6	2.8%	4	1.5%	0	0.0%	1	12.5%
合計	502	100.0%	218	100.0%	275	100.0%	1	100.0%	8	100.0%
回答者数 (合計-無回答)	491		212		271		1		7	

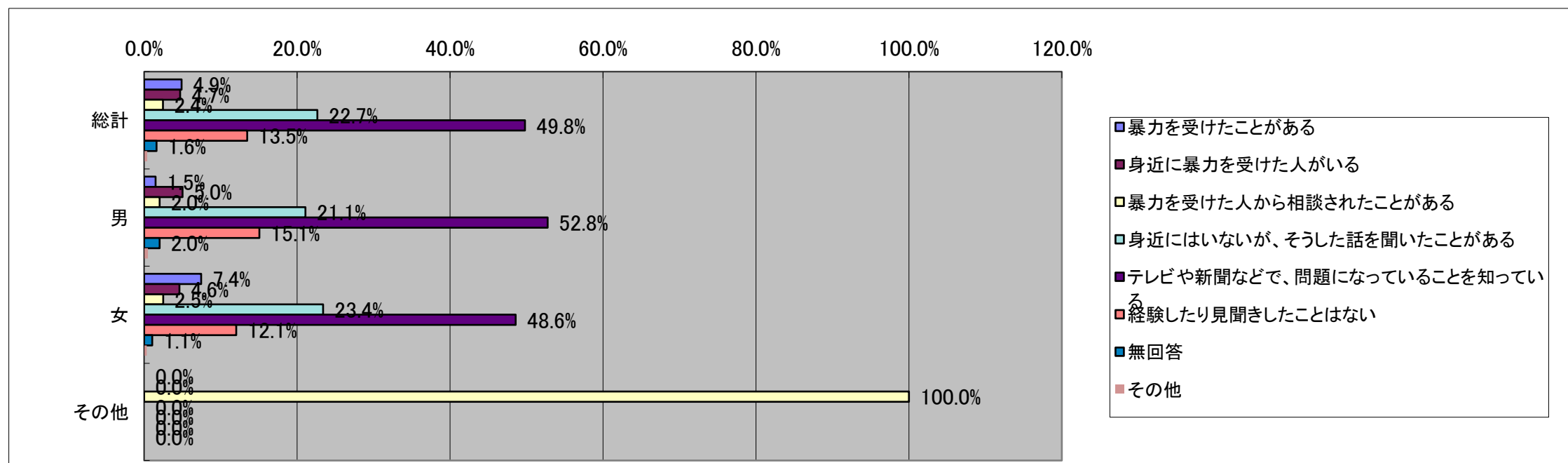


10. ドメスティック・バイオレンス(DV)

(1)あなたは、ドメスティック・バイオレンス(夫婦、恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること)を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

○男女別にみると男性52.8%女性48.6%で「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」が最も高い。また、男性1.5%女性7.4%で「暴力を受けたことがある」は男性より女性の方が高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
暴力を受けたことがある	24	4.9%	3	1.5%	21	7.4%	0	0.0%	0	0.0%
身近に暴力を受けた人がある	23	4.7%	10	5.0%	13	4.6%	0	0.0%	0	0.0%
暴力を受けた人から相談されたことがある	12	2.4%	4	2.0%	7	2.5%	1	100.0%	0	0.0%
身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある	111	22.7%	42	21.1%	66	23.4%	0	0.0%	3	37.5%
テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている	244	49.8%	105	52.8%	137	48.6%	0	0.0%	2	25.0%
経験したり見聞きしたことはない	66	13.5%	30	15.1%	34	12.1%	0	0.0%	2	25.0%
その他	2	0.4%	1	0.5%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	8	1.6%	4	2.0%	3	1.1%	0	0.0%	1	12.5%
合計	490	100.0%	199	100.0%	282	100.0%	1	100.0%	8	100.0%
回答者数(合計－無回答)	482		195		279		1		7	

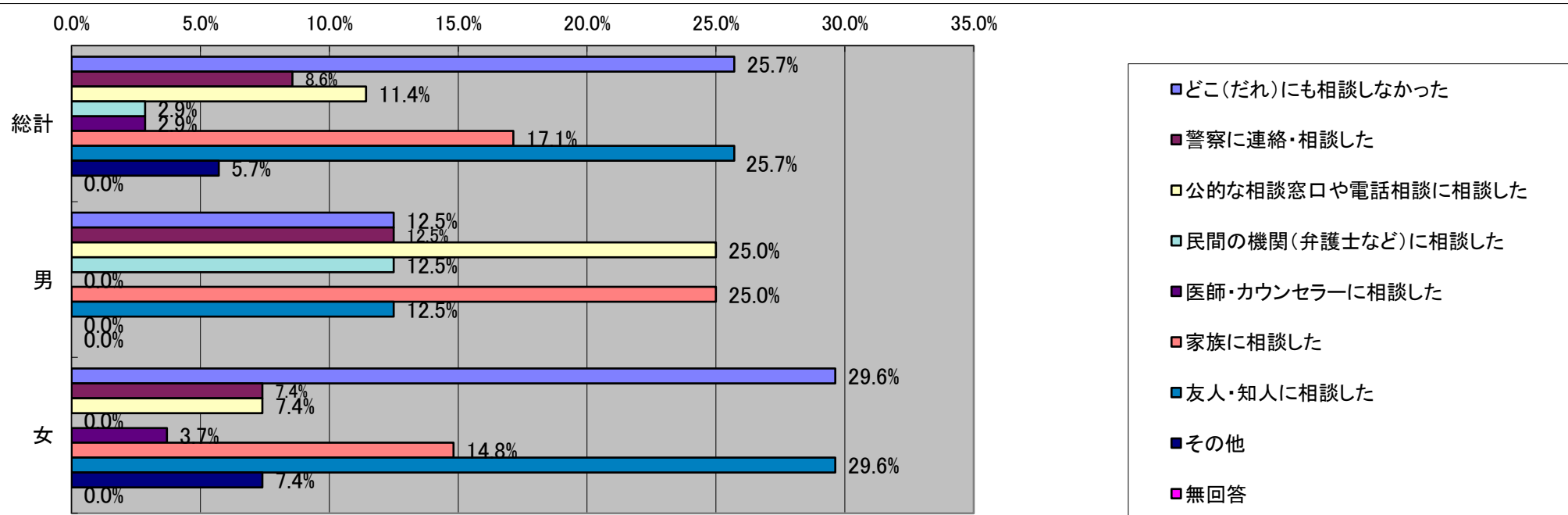


(2)これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。次の中から当てはまるものすべてを選んでください。

○男女別にみると男性は同数25.0%で「公的な相談窓口や電話相談に相談した」「家族に相談した」が最も高く、女性は同数29.6%で「どこ(だれ)にも相談しなかった」「友人・知人に相談した」が最も高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
どこ(だれ)にも相談しなかった	9	25.7%	1	12.5%	8	29.6%	0		0	
警察に連絡・相談した	3	8.6%	1	12.5%	2	7.4%	0		0	
公的な相談窓口や電話相談に相談した	4	11.4%	2	25.0%	2	7.4%	0		0	
民間の機関(弁護士など)に相談した	1	2.9%	1	12.5%	0	0.0%	0		0	
医師・カウンセラーに相談した	1	2.9%	0	0.0%	1	3.7%	0		0	
家族に相談した	6	17.1%	2	25.0%	4	14.8%	0		0	
友人・知人に相談した	9	25.7%	1	12.5%	8	29.6%	0		0	
その他	2	5.7%	0	0.0%	2	7.4%	0		0	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
合計	35	100.0%	8	100.0%	27	100.0%	0		0	

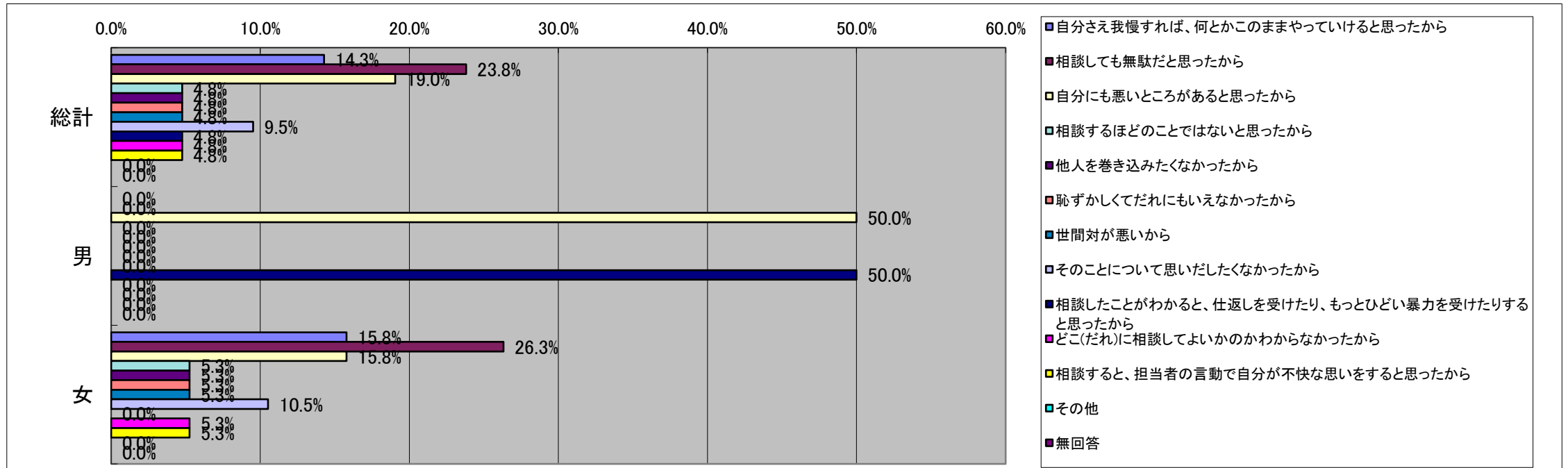
回答者数（合計－無回答） 35 8 27 0 0



(3) 相談しなかったのはなぜですか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

○男女別にみると男性は同数50.0%で「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから」が最も高いのに対して、女性は26.3%で「相談しても無駄だと思ったから」が最も高い。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから	3	14.3%	0	0.0%	3	15.8%	0		0	
相談しても無駄だと思ったから	5	23.8%	0	0.0%	5	26.3%	0		0	
自分にも悪いところがあると思ったから	4	19.0%	1	50.0%	3	15.8%	0		0	
相談するほどのことではないと思ったから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
他人を巻き込みたくなかったから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
恥ずかしくてだれにもいえなかったから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
世間対が悪いから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
そのことについて思いだしたくなかったから	2	9.5%	0	0.0%	2	10.5%	0		0	
相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから	1	4.8%	1	50.0%	0	0.0%	0		0	
どこ(だれ)に相談してよいかのわからなかったから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから	1	4.8%	0	0.0%	1	5.3%	0		0	
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0		0	
合計	21	100.0%	2	100.0%	19	100.0%	0		0	
回答者数(合計－無回答)	21		2		19		0		0	



11. 男女共同参画社会実現について

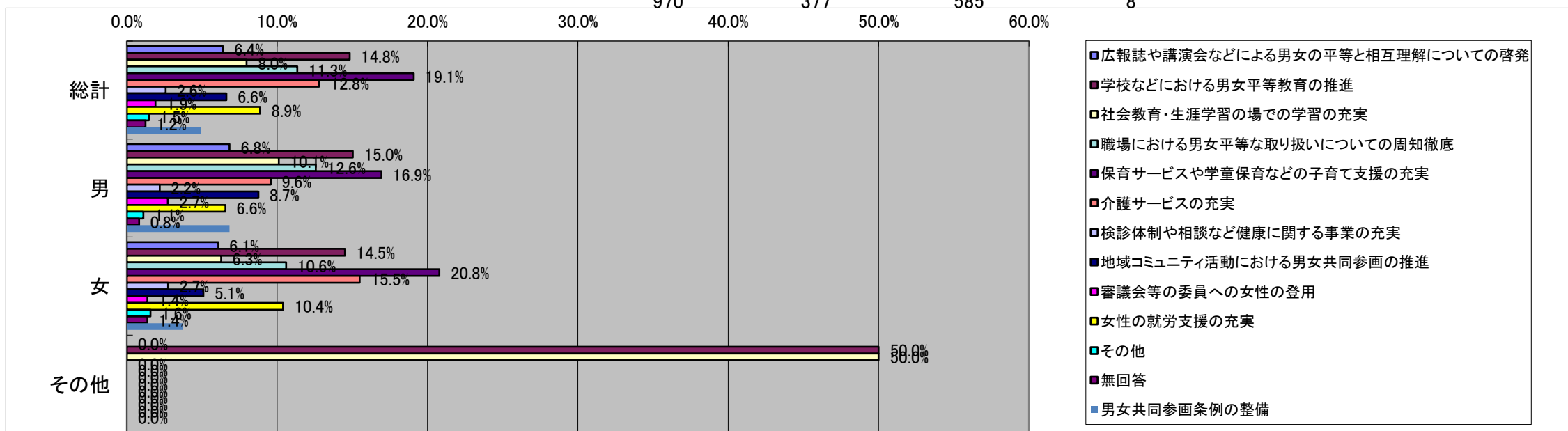
(1)「男女共同参画社会」を実現するために、菊川市の施策に望むことは何ですか。次の中からあてはまるものを3つ選んでください。

○男女別にみると男性16.9%、女性20.8%で「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が最も高く、次いで男性15.0%で「学校などにおける男女平等教育の推進」が、女性15.5%で「介護サービスの充実」が高くなっている。

選択項目	総計		男		女		その他		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	57	6.4%	25	6.8%	31	6.1%	0	0.0%	1	7.7%
学校などにおける男女平等教育の推進	132	14.8%	55	15.0%	74	14.5%	1	50.0%	2	15.4%
社会教育・生涯学習の場での学習の充実	71	8.0%	37	10.1%	32	6.3%	1	50.0%	1	7.7%
職場における男女平等な取り扱いについての周知徹底	101	11.3%	46	12.6%	54	10.6%	0	0.0%	1	7.7%
保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実	170	19.1%	62	16.9%	106	20.8%	0	0.0%	2	15.4%
介護サービスの充実	114	12.8%	35	9.6%	79	15.5%	0	0.0%	0	0.0%
検診体制や相談など健康に関する事業の充実	23	2.6%	8	2.2%	14	2.7%	0	0.0%	1	7.7%
地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進	59	6.6%	32	8.7%	26	5.1%	0	0.0%	1	7.7%
審議会等の委員への女性の登用	17	1.9%	10	2.7%	7	1.4%	0	0.0%	0	0.0%
女性の就労支援の充実	79	8.9%	24	6.6%	53	10.4%	0	0.0%	2	15.4%
男女共同参画条例の整備	44	4.9%	25	6.8%	19	3.7%	0	0.0%	0	0.0%
その他	13	1.5%	4	1.1%	8	1.6%	0	0.0%	1	7.7%
無回答	11	1.2%	3	0.8%	7	1.4%	0	0.0%	1	7.7%
合計	891	100.0%	366	100.0%	510	100.0%	2	100.0%	13	100.0%

回答者数(合計－無回答)

880	363	503	2	12
970	377	585	8	



12. 男女共同参画に対する ご意見、ご要望

○現在、幼児を育児中です。求職中で保育園入園の申請を出していますが、求職中だと入園が難しいのが現状です。仕事が決まっても保育園の空きがなく働くのを断念した人もいます。認可外のところは評判も良くなく、できれば預けたくないです。また育児中であることで就ける仕事、働ける時間が限られてきたり、職場の理解が女性同士でも得られないことがあります。求職中であっても保育園入園できること、通園通学中の長期休暇等で仕事を休めない場合のサービスや施設の充実、育児中や介護中の社員への職場の理解や協力者が得られると、もう少し働きやすくなると思います。また、男性の方が残業・休日出勤が多く、地域活動(祭りや消防等)への半強制的な集まりが多く、どうしても女性が家庭を守らなければならない、男女平等に家庭を守ることが難しいように感じます。こういった悩みや不安を聞いてアドバイスをくれる場があると、もう少し生きやすくなると思います。

○家庭があり子の教育、仕事と女性の時間が少ない。まず女性の必要時間を増やす対策が大切と思う。

○働く気があっても女性のスキル向上のための訓練機関が少なく、経済的支援及び育休、介護休中においてスキルアップのチャンスがあるのにできないため、再就職つながると思う。

○今、月に1度開かれている「なでしこワーク」に興味はあるのですが、今の時間帯だと行くことができません。毎回でなくても良いので、午後や夕方に開設されたらのでいてみたいです。

○男性は育休など休めない。男女平等ではない。

○不勉強で取り組みを存じ上げませんでした。市民の意識向上が必要ではないでしょうか。

○人類はマンモスを獲って暮らしていた頃から男性が外で獲物を取り、女性は家で子どもたちを世話すると定着してしまっている。今の世の中でも戦前の教育を受けた人達は男尊女卑の考えが強い。しかし30~40歳代の家庭を持っている男性はわりと家庭のことをやっているように感じる。少しずつ世の中が男女平等になるのを待つしかない。

○男女共同参画社会をすることが大事なのは分かるが、目的をもって行ってほしい。それをすることによって、本当のメリットは何なのか、お互いがwin winの状態にならなければ長続きしないので、形だけで終わってほしくないです。

○男女の差別がなく、全ての人が平等な機会を得て、仕事や育児、地域活動に参加ができるような取り組みが菊川市で多く行われることを期待しています。

○男女共同参画社会というより、これから持続可能な社会にしていくためには、子ども、高齢者、障がい者などが総力を上げて参画するという視点が重要だと思います。具体的には、環境問題について子どもが行政に意見したり、高齢者が意志がある限りできるだけ長く働いたりすることです。その一つとして、女性の社会への参画があると思います。

○性差の違いを理解し、差別しない。

○女性も自立して生活できるように、社会勉強を小学校から中学生にかけて行っていくべきだと思います。お金を稼ぐって具体的にどうということなのか、税金のしくみとか社会に出て働く上で必要な知識を中学校を卒業するまでに身につけるようにできればいいと思います。

○昭和まで今迄、当然であった夫は外、妻は内(主婦)というのは、もはや夢です。年輩の人の意識を変える事も大切。何より共働きでなければ満足な生活が送れないと若い子も認識する事が大切です。男女共、働いていれば視野も広がり、おのずと地域社会に参加せざるを得なくなる。

○女性に様々な判断や責任がとれない時がある。そんな時はやはり男性に頼ってしまう。どちらかという家庭での分担から子育て介護など取り組めたら嬉しい。

○男性の料理教室(レンジでチン、湯を注ぐ)開催 ・女性の日曜大工教室(ちょっとしたリフォーム術、ネジ、ドライバー、のこぎりなど使い方の)開催

○例えば、子どもが熱を出した時、女性が仕事を休むと決めず、男性が休んでもいい。どちらが休むか話し合うのが当たり前の社会にしたい。それが女性が仕事に打ち込め、力を発揮できる社会になる。子育て、介護をみんなで行う自覚を人みなが持ってほしい。「男女」でなく「人」として尊重される社会に。男女と言わなくていい社会に意識改革を。戦後母性の参選権が認められ、女性が大学へ行くことが花嫁修業となり、こしかけ就職という言葉があり、「ニューファミリー」と男性が家族を大切に作る型が言われ(でも今の若い子達はこの言葉知らない)、少しずつ(50年はかかっていると思う)男女共同参画になっている。今の若い人が声を上げ続けてつないでいくことで、共同参画が進むと思う。そのために年上の方が若い人の思いを否定しないで支えていく役割があると思う。

○基本 金があればなんとかなる。

○子どもの頃から参加できるといいですね。

○女性は出産がある点が一番の根源。出産、その後一定期間の支援サポートを受けられる行政(民間)サービスがないといかにしようもない。今後は男女共に職業、生活での公平を計っていくには、上記がないと出来ない。

○女性が参加しやすい環境を作る。

○男女共同参画社会を実現する為には、大きな障害がたくさんあると思う。理想と現実はあまりにもかけ離れていて、実際は難しいと思う。女性がある程度の地位につけば、責任がのしかかり、育児、家庭生活に支障が出てくる。その支障を取り除くのは、職場、地域、行政が一体となって進めていかなければ問題は解決していかないと思う。

○個人一人ひとりが認識する事が大切。その上で自分がすべきことを一つずつ行っていくことだと思います。

○男女平等とかではなく、家庭の自由 が良いと思う。男女とかではなく、個人でそれぞれ違う。男女とか性別ではなく、個人って考えた方がLGBTとかの方にも優しい世界になる。今の社会から考えて、男でも育休を取ることができる会社がほとんどという状態になるのが第一歩だと思う。

○話がずれてるかもしれませんが、会社では、班長などかんむり女性班長はいます。ですが、それ以上はいません。女性も昔から人をまとめあげて仕事している場、またはその機会はありません。ですが、自分よりランクの上の女性でも自分よりも働かず定時で帰ります。結局女性に対してイメージは出来ても、ずるまではいなくても、全く男も女も同じ仕事量をこなすことはありません。育った時代もありますが、男の仕事が女性にでき、女性の仕事が男にできて当たり前の世の中になった時、やっとアメリカと同じぐらいになっていくのかな?のイメージしかない。

○本件に限らず、市役所内における横の連携、情報共有をしっかりと行い、各課等の孤立した計画にならないようにお願いします。

○講演会など近所の場所で話し合える時間

○パチンコ店の出入口に「家のお手伝いをしてから楽しみましょう」みたいなポスターを貼る。(働く女性に休日がない。男性はパチンコに行ったりしてるけど、女性は休日にたまった家事をして、食事、洗濯掃除と忙しい。

○女性側に、男性が主で女性は従で、重要なことは男性が行うべきという意識があり、自立出来てない。女性は一人では行動出来ない人が多く、積極性に欠ける。女性の意識を変える必要があります。

○平等ばかりでなく、共助を求めるべき。場面場合での共助を考えて男女の役割を決める力を

○収入を増して、時間を作って、講習会・指導する。

○勉強会を開いてほしい

○海外の様に男女共に働けるのは、海外には安く雇えるベビーシッターがいるから。結局誰かの犠牲があると考えます。アンケートでは、夫婦ともに家のことを、子育てをすべきと理想を述べたが、無理だと思う。共働き、親元を離れた自分達では、とても円満に子育てを、結婚は出来ないと思う。出ていく金は増えるのに、入る金は減っている。若者は子どもを産まないのではなく産めない。理想と現実が乖離している。

○地域コミュニティの活動を広報で知らせる事をお願いします。

○これからの日本を作る若者達に男女平等の教育などを設け、古い年代の方とのギャップを埋めていく必要があると感じている。

○ホームセンターに勤めています。年をとられた男性のお客様に「あんたじゃわからんから男の人呼んで！」と言われたことがあります。担当者は休みで私しか説明のできないことなのに、女だからというだけで決め付けるのはやめてほしい。多様な年齢の人がいるので皆が皆納得するとは思いませんが、それなりの知識は修得して仕事に臨んでいる人は私以外にもたくさんいると思います。

○偏見や差別ではないが、向き、不向きがあるので選べる必要があると思う。

○男女共同参画社会が本当に必要なのか？各々の意識や環境は異なる。個人を大切に！強制環境を作らないこと！必要な人に必要な施策を！不要な人をまき込むな！実現のための活動、役員etcに強制従事にならないように。

○「古い考えかもしれませんが、家事も育児も立派な仕事だと思っています。育児の援助とか介護など充実するといいと思います。

○保育園、学童保育を希望している人が利用できるようにしてほしいです。すでに仕事をしている人しかこのままの状況では(仕事をしていない人)申込みしても利用できない。でも利用できるとわからないと仕事できない。家計を考えると働きたいのに子供を預けられないと負の連鎖で

○性別という枠組みにとらわれずに、個人の能力や特長に着目していく必要があると思う。

○先ずは家制度があった時代から続いている「嫁」「主人」「父母」「入籍」などという言葉が日常生活から無くす事から始めたらどうでしょうか？→(「妻」「夫」「保護者」「婚姻」)

○僕はまだ学生なのでよくわかりませんが、学校生活は男女平等だったと思います。

○無理に男女を一緒にするのではなく、一人ひとりが息のしやすい場所を作ればいいと思います。大切なのは男女ではなくて人間ということだと思います。

○男子、女子という性別で分けるのではなく、その個人の能力で社会に参画できることが大切だと思う。ただ、男性の方が向いていること、女性の方が向いていることという男女の性別の違いによる強み弱みはあると思うので、それには配慮した政策を考えたい。単に女性が社会進出すればよいという問題ではない。

○外国のように家族との時間を大事にする国、社会にしないといけないと思います。労働時間、有休など環境が良くなれば働きやすく休みやすい社会になると思います。

○職場では、子供の体調不良による突発な休暇者がよくいるが、その分負荷が掛かる(残業対応など)。また、休んだ本人も休みづらい気持ちを持っている。なので体調不良の子供を預けられる施設があると助かる。

○女性が育休を利用して長期に休みたがる。これでは、責任をもった仕事を任せられない。女性の意識も変えてもらわないと困る。

○少子化を防ぐために、もっと子育て支援の待遇を良くしてほしい。(お金)
○良い悪いの判断なしに自分はこう思っていると素直に言えて、聞いてもらえる環境作り。少しづつ歩みよって分かち合う。
○職場や高齢者、年配の方に、男性も育児、子育て、家事をする時代だと考えをあらためてもらう。昔と違って男は外で女は家でいいという社会ではないことを理解してもらわない限り、平等になることはないと思います。
○女性が社会で中心的役割を果たしてもらいたいとは思いますが、政治家など見てもあきらかな人材不足と思うので、割合だけ増えても駄目な気がします。自分の利益だけではない人が出てきてくれれば良いのですが。
○田舎なので難しいと思う。とりあえず若い夫婦の間で休みの日は夫が妻に協力をする姿を見せていけば、子供に伝わっていくと思う。その環境で育った子は(男の子は特に)大人になって家事ができるようになったり、結婚しても妻を手伝うようになると思う。共働きになれば、手伝うレベルではなく、しっかり家事ができる人になると思う。まずは、身近な家庭や学校教育からかと思
○施策をとにかく数をうつことが重要と思っています。
○子供の時から、男、女、差別のない生活をする。小学校からの家庭科は、必ず中学、高校へ行ってもやるべきだと思う。料理を作ったりすることをずっとした方が良い。
○男だからできる、女だからできるということもあるだろうが、男だからやってはいけない、女だからやってはいけないというところの意識を変えていくことが必要と思う。
○性別に「こだわりすぎ」と感じる。能力は個々に違うと捉える。行政企業個人にこだわらず、それぞれ良い策を取れば良い。ステージを上げていくには、その時々に応じて一番良い策を取り入れる。経済的にゆとりがあれば多少は解決することが多いと考えます。
○あまり行事を増やさないで、家族で取り組みできる環境の場を増やしていけばよいかなあとと思います。
○男同士、女同士でも結婚できるようにするべき。
○まず市議会議員さんの割合や市の職員の割合を50:50にすることから始めたらどうですか？
○きつい仕事内容ばかり、人が少ないので負担が多い。
○父親が家事をやる事はトレーニング不足である。食事、洗濯等を直接ふれてやる事が必要です。そこで、福井県の取組している「家事チャレンジ検定等」の取組みはおもしろいかと思う。参考
○今の大人を変えるのではなく、子どもに伝え、男女ともすすんで参画する社会を作ってほしい。女性参画を無理にすすめても、それも女性差別になるのではないか？
○企業の努力
○市独自の取組もそうですが、国全体で制度も考え方も変えていかないと理想には届かないと思います。

○実際に仕事は男性、家庭は女性という人が多いと思います。そういった分担は各家庭毎に決めばよいので、昔ながらの役割分担でも悪くはないと思いますが、例えば、女性が「働きたい」と思った時に、その機会は性別に関わらず平等であるように期待します。

○核家族が増えている中ですべて平等は無理だと思う。多少の強制も必要なのかもしれない。

○女性は出産後に必ず休暇が必要ですが、男性は必ずしも育児休暇を取らなくても可能です。そういった男女の差から雇用の差に繋がっていると思う。一世帯で子どもが生まれたら男性も必ず休暇を取る制度にすれば男女の雇用の差は小さくなり、女性が活躍する機会が増えると思う。

○結局変わっていかないというイメージがある。

○女性が、私は女性だからここまでで良いと思っている限りは前を出てこないと思うので、その能力を発揮したいと普通に思い行動できる社会に菊川市を近づけていくことがよいのではと思います

○企業、職場において男女共同参画について整備すべきだと思う。また、女性のパート賃金を上げることで、仕事への責任、意欲も出てくると思う。行政は、もう少し賃金に対して関心をもってほしい。

○昔からの 男性は仕事で女性は家事という考え方ではなく、男性も女性もあらゆる分野で活躍できることを目標にしておくことが良いと思います。

○行政が施策として取組むということに抵抗を感じる。そもそも男・女とはっきり区別するのが難しくなっているご時世に(LGBT問題等)こういうことに意味があるのだろうかと思う。

○いくら共働きでも、子どもが熱を出したり風邪をひくと、女が仕事を休むことが当たり前となっている。そのせいで、どうしても正社員になることは不可能となってしまう。軽い発熱や風邪の時の預かり施設がほとんどない。コロナのせいで園や学校でも少々の鼻水や咳だけでも欠席させることが望ましいとしているため、女性はますます働きにくくなっている。

○職場における実態として男性側に負担を強いすぎている。女性もこれに甘んじている現状がある。

○男女共同参画社会という言葉がそもそも男女間の不平等を意味していると思いました。人口減少、経済が不安定(コロナ禍含)先行き不透明の時代になっている今、人として何が出来るか、何をしていかなければいけないかにシフトしていかなければいけないし、私達自身の考え方を変えていく必要があると考えます。

○まずは女性の負担低減が必要では。

○男女による向き不向きが職業毎にあるとは個人的に思う。私は工場で修理など行う仕事をしていますが、女性の部下は力がなく、腕力の差は仕方がないと思い補佐しています。力を抜きに考えると他の面では男女差はなく、むしろ女性の感性が生きる面もあります。私の会社ではその女性が活躍しているおかげで女性への偏見は少ない感じがしますので、女性の活躍次第という気がしま

○職場や家庭内において、男女が同等の生活ができるような社会を望んでいます。

○現状では家庭生活においては、子育て等共働き世帯では女性の負担が大きいと思います。でも、若いご夫婦は保育園の送り迎え等協力しあって自分達の生活を作っていて…。入れてもらえる保育園がない、という声を聞きますが、現在菊川市は、待機児童に関してはどのような状況なのでしょう？

○そもそも時代はすごい速いスピードで変化しています。現在在籍されている方々の年齢を考えると、相当考えが古いのではないかと思われます。今や宇宙時代でAIが我々人類を統制する時代がもう目の前です。子供達への教育内容や歴史認識や未来への考え方、どんどん新しく学んでいかないときっとついていけないと確信しています。アメリカ大統領選挙の全容を知れば、いかに日本人が遅れているかを思い知るでしょう。もうまもなくです。1/20を過ぎると、世界の常識が全てひっくり返ります。その時に、次世代への考え方を柔軟にしていけないと生き残れないと思います

○3の間6「男は仕事、女は家庭」という考えをまずは打破しなければ始まらないと思います。またなぜ実現が必要なのかを訴える必要があると思います。

○私共は女性は家庭で子どもを育てるという時代でしたが、現在は女性も働かないと生活が苦しいという時代です。なので娘たちも共働きです。家事を分担し生活しています。行政、職場での推進・理解が深まればより生活がしやすくなると思います。

○まずは、こういった取り組みがあるということを発信していくのが望ましいと思います。言葉を聞いたことがあっても、内容までは知らないという方たちが大多数でしょう。こういった取り組みがあるということをまわりに周知させていくことが一番大切だと思います。ネットを活用するでもいいですし、様々な方法があると思います。

○家庭ではコロナの影響で平日の休みを夫がとれるようになり、育児への時間も増えました。以前から家事、育児には積極的に夫も分担してくれています。子どもへの教育は「男の子だから王子様をやる、お姫様ごっこでお姫様をやってはダメ」とは言わず、特に口を出さず楽しんでいる様子を見えています。男だから、女だからと可能性や好きなことを否定せず、自分で気が付いたり、思ったりすることができるように見守っています。妻よりも夫の方が掃除、料理上手のわが家では、休日は家族そろって家事や買い物をしていました。スーパーでも夫の知人(男)同士で一人に来ている人と良く会うそうです。そういう家庭も増えてきていると感じています。園の送迎や公園での遊びにも父の姿が増えました。

○河城地区に女性部があります。内容はもともと班長の仕事だったものが女性にやってもらえるように女性部を立ち上げたようです。しかし、今は、班長が女性、女性部も女性で兼任してやります。女性しかできないものでなく、とても差別を感じます。まず性別が入っている職務を自治会からなくすべき。自治会役員としての仕事内容の把握に務め、差別をしない教育が必要だと思います。・女性部から助勢部(じょせいぶ)等の名称変更 ・自治会での各委員の仕事内容の簡略化(余分な仕事が多い) ・市として自治会役員等の方に事務仕事等の手助けが必要

○このアンケートは実に男女対立をあおるような内容になっており、とても残念でならない。加茂においては実際に危険な連中がいる(ブラジル人、フィリピン人)。日本人が差別される環境を作るべきではない。

○なんか理想が高いですね。皆さん生活のために働いていると思うし、カッコいい仕事じゃなく、誰かがやらなければならない地味な仕事は山ほどあると思うし。仕事が好きな人、家にいるのが好きな人それぞれだと思うので、ピンときません。

○男女に対しての考え方は、教育の場で子供の頃から形成されていくと思う。職場に現在あるものを整備するのも大事だが、なにより先に教育の場で男女の正しい知識を広めるべきである。なぜなら、例えば私は19歳ですが、私達は「タバコはいけないものだ」という教育をのけてきたため、周りで吸っている人は少ないです。このように小さい頃からの教育には大きな影響があると考えられます。

13. 多文化共生について

(1)あなたは外国に住んだことがありますか。外国での居住経験がある人は通算何年外国に住んでいましたか。次の中から1つを選んでください。

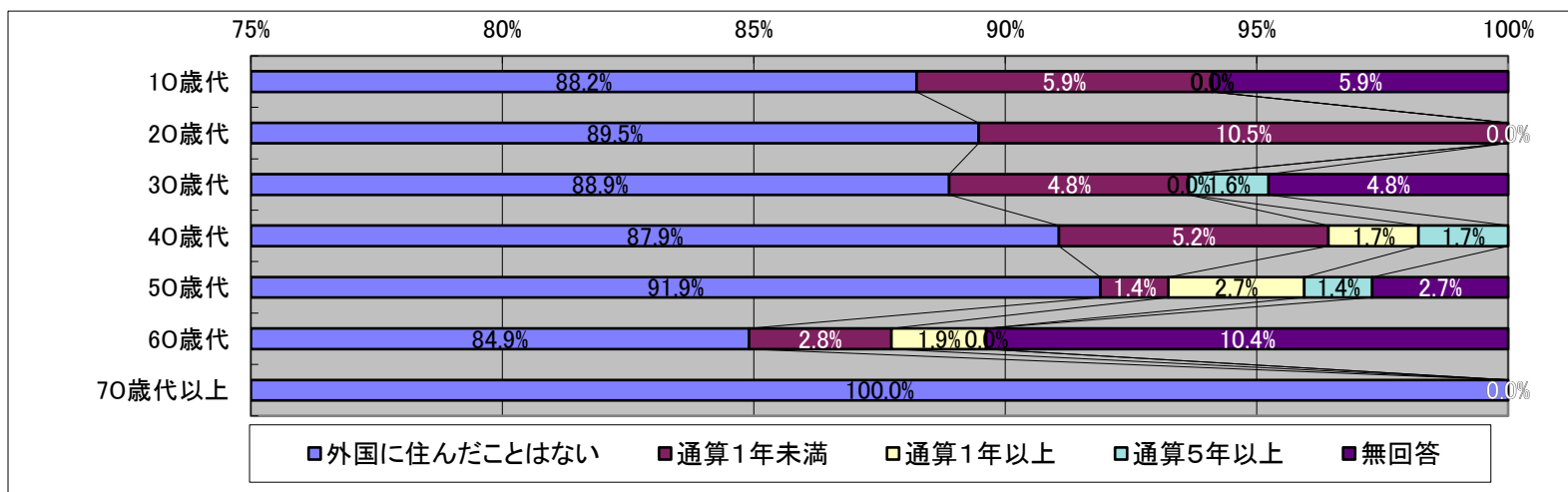
○すべての年代において、80%以上の方が「外国に住んだことはない」と回答しており、70歳代では回答者全員が外国に住んだ経験がない。

○「外国に住んだことがある」と回答した人の居住年数はどの年代でも「通算1年未満」が最も高くなっている。

選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
外国に住んだことはない	325	88.3%	15	88.2%	34	89.5%	56	88.9%	51	87.9%	68	91.9%	90	84.9%	6	100.0%	5	83.3%
通算1年未満	15	4.1%	1	5.9%	4	10.5%	3	4.8%	3	5.2%	1	1.4%	3	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
通算1年以上	5	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	2	2.7%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
通算5年以上	3	0.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	1.7%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	20	5.4%	1	5.9%	0	0.0%	3	4.8%	2	3.4%	2	2.7%	11	10.4%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	17	100.0%	38	100.0%	63	100.0%	58	100.0%	74	100.0%	106	100.0%	6	100.0%	6	100.0%

回答者数（合計－無回答）

348 16 38 60 56 72 95 6 5



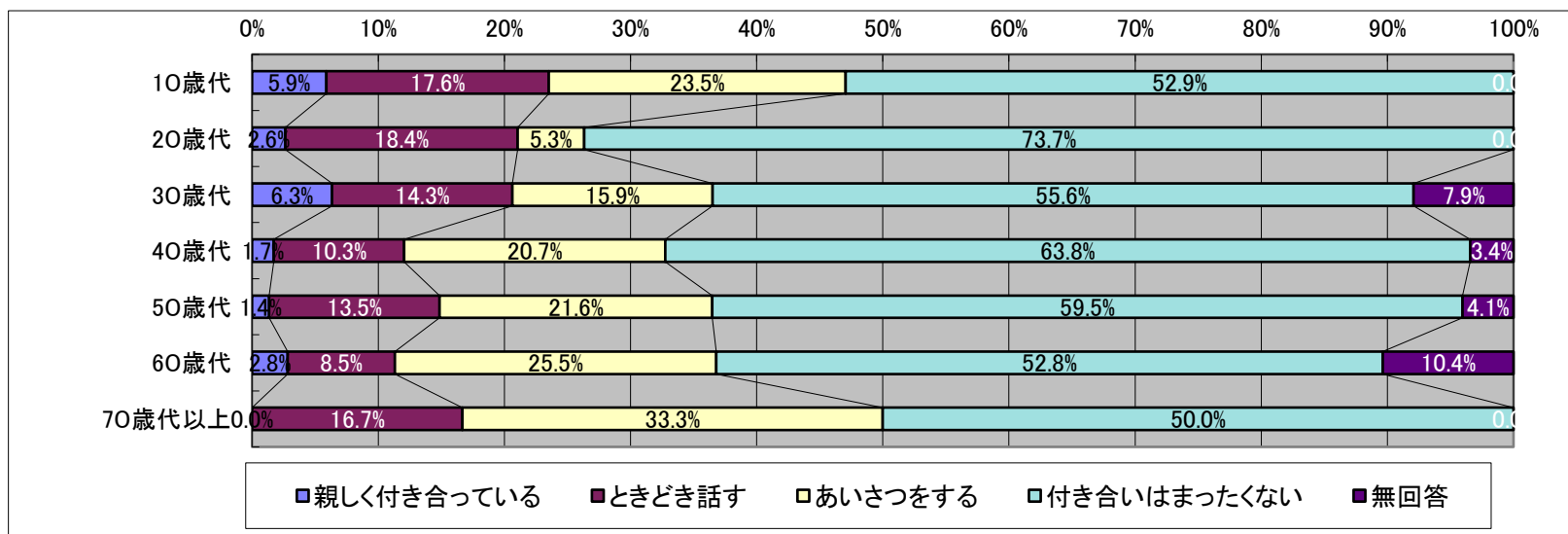
(2)あなたは近所の外国人と付き合いはありますか。次の中から1つを選んでください。

○すべての年代において、50%以上の人「付き合いはまったくない」と回答しており、70歳代で「親しく付き合っている」と回答した人はいなかった。

選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
親しく付き合っている	11	3.0%	1	5.9%	1	2.6%	4	6.3%	1	1.7%	1	1.4%	3	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
ときどき話す	45	12.2%	3	17.6%	7	18.4%	9	14.3%	6	10.3%	10	13.5%	9	8.5%	1	16.7%	0	0.0%
あいさつをする	73	19.8%	4	23.5%	2	5.3%	10	15.9%	12	20.7%	16	21.6%	27	25.5%	2	33.3%	0	0.0%
付き合いはまったくない	217	59.0%	9	52.9%	28	73.7%	35	55.6%	37	63.8%	44	59.5%	56	52.8%	3	50.0%	5	83.3%
無回答	22	6.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	7.9%	2	3.4%	3	4.1%	11	10.4%	0	0.0%	1	16.7%
合計	368	100.0%	17	100.0%	38	100.0%	63	100.0%	58	100.0%	74	100.0%	106	100.0%	6	100.0%	6	100.0%

回答者数(合計-無回答)

346 17 38 58 56 71 95 6 5

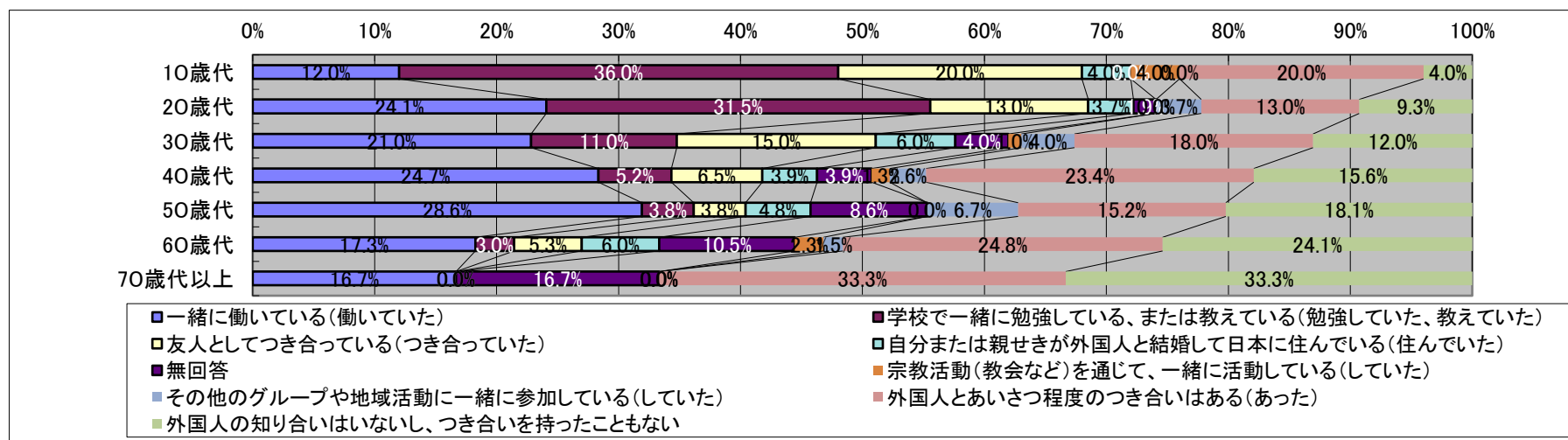


(3)あなたは外国人とどのような付き合いがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

○10歳、20歳代では「学校で一緒に勉強している、または教えている(勉強していた、教えていた)」割合が最も高く、30歳～70歳代では「一緒に働いている(働いていた)」割合が最も高くなっている。

○年代が上がるにつれて「外国人の知り合いはいないし、つき合いをもったこともない」と回答した人の割合が増加している。

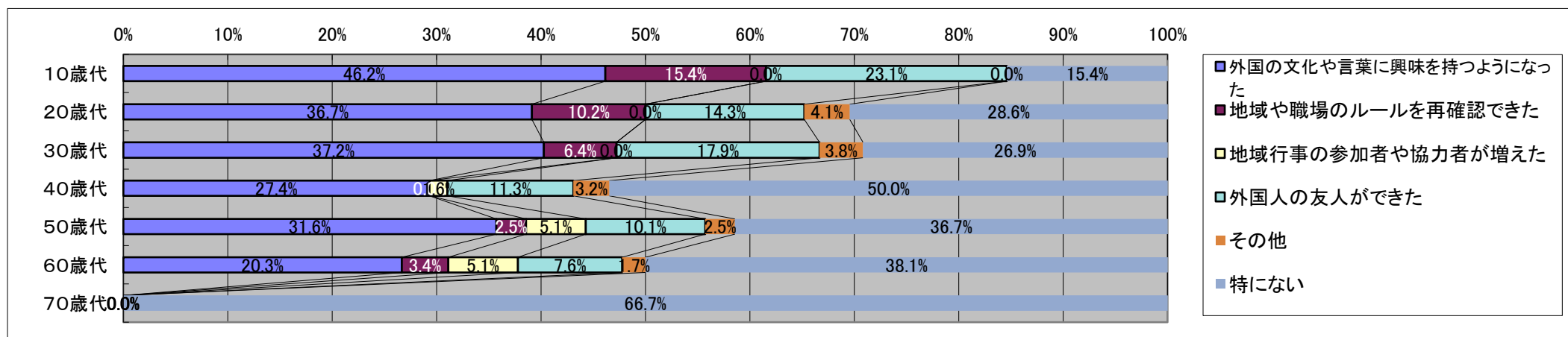
選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
一緒に働いている	114	22.4%	3	12.0%	13	24.1%	21	21.0%	19	24.7%	30	28.6%	23	17.3%	1	16.7%	4	50.0%
学校で一緒に勉強している、または教えている(勉強していた、教えていた)	50	9.8%	9	36.0%	17	31.5%	11	11.0%	4	5.2%	4	3.8%	4	3.0%	0	0.0%	1	12.5%
友人としてつき合っている(つき合っていた)	43	8.5%	5	20.0%	7	13.0%	15	15.0%	5	6.5%	4	3.8%	7	5.3%	0	0.0%	0	0.0%
自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)	25	4.9%	1	4.0%	2	3.7%	6	6.0%	3	3.9%	5	4.8%	8	6.0%	0	0.0%	0	0.0%
国際交流グループで一緒に活動している(していた)	2	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.8%	0	0.0%	0	0.0%
子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、遺書に活動している(していた)	34	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	7	7.0%	10	13.0%	11	10.5%	6	4.5%	0	0.0%	0	0.0%
宗教活動(教会など)を通じて、一緒に活動している(していた)	6	1.2%	1	4.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.3%	0	0.0%	3	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
その他のグループや地域活動と一緒に参加している(していた)	17	3.3%	0	0.0%	2	3.7%	4	4.0%	2	2.6%	7	6.7%	2	1.5%	0	0.0%	0	0.0%
外国人とあいさつ程度の付き合いはある(あった)	100	19.7%	5	20.0%	7	13.0%	18	18.0%	18	23.4%	16	15.2%	33	24.8%	2	33.3%	1	12.5%
外国人の知り合いはいないし、つき合いをもったこともない	84	16.5%	1	4.0%	5	9.3%	12	12.0%	12	15.6%	19	18.1%	32	24.1%	2	33.3%	1	12.5%
無回答	33	6.5%	0	0.0%	1	1.9%	4	4.0%	3	3.9%	9	8.6%	14	10.5%	1	16.7%	1	12.5%
合計	508	100.0%	25	100.0%	54	100.0%	100	100.0%	77	100.0%	105	100.0%	133	100.0%	6	100.0%	8	100.0%
回答者数(合計-無回答)	475		25		53		96		74		96		119		5		7	



(4)あなたは外国人と関わる中で良かったことはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

○若い年代ほど「外国の文化や言葉に興味を持つようになった」「地域や職場のルールを再確認できた」「外国人の友人ができた」の割合が高く、「特にない」の割合が低くなっている。

選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
外国の文化や言葉に興味を持つようになった	127	30.0%	12	46.2%	18	36.7%	29	37.2%	17	27.4%	25	31.6%	24	20.3%	0	0.0%	2	33.3%
地域や職場のルールを再確認できた	20	4.7%	4	15.4%	5	10.2%	5	6.4%	0	0.0%	2	2.5%	4	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
地域行事の参加者や協力者が増えた	11	2.6%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	4	5.1%	6	5.1%	0	0.0%	0	0.0%
外国人の友人ができた	51	12.0%	6	23.1%	7	14.3%	14	17.9%	7	11.3%	8	10.1%	9	7.6%	0	0.0%	0	0.0%
その他	11	2.6%	0	0.0%	2	4.1%	3	3.8%	2	3.2%	2	2.5%	2	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
特にない	151	35.6%	4	15.4%	14	28.6%	21	26.9%	31	50.0%	29	36.7%	45	38.1%	4	66.7%	3	50.0%
無回答	53	12.5%	0	0.0%	3	6.1%	6	7.7%	4	6.5%	9	11.4%	28	23.7%	2	33.3%	1	16.7%
合計	424	100.0%	26	100.0%	49	100.0%	78	100.0%	62	100.0%	79	100.0%	118	100.0%	6	100.0%	6	100.0%
回答者数(合計－無回答)	371		26		46		72		58		70		90		4		5	

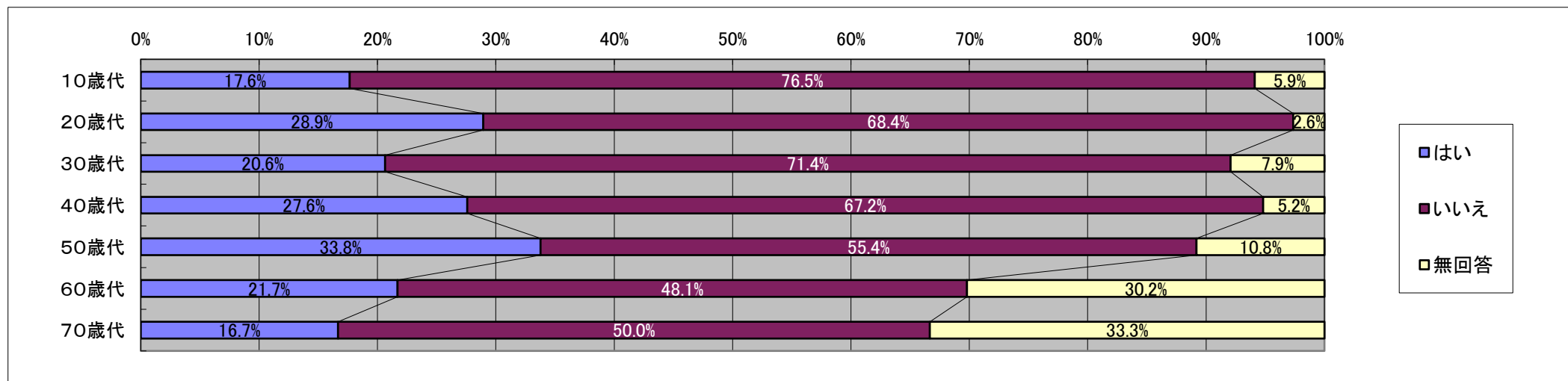


(5)あなたは外国人と関わる中で良かったことはありますか。どちらか1つを選んでください。

○どの年代においても「はい」と回答する割合よりも「いいえ」と回答する割合が高くなっている。

選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
はい	94	25.5%	3	17.6%	11	28.9%	13	20.6%	16	27.6%	25	33.8%	23	21.7%	1	16.7%	2	33.3%
いいえ	221	60.1%	13	76.5%	26	68.4%	45	71.4%	39	67.2%	41	55.4%	51	48.1%	3	50.0%	3	50.0%
無回答	53	14.4%	1	5.9%	1	2.6%	5	7.9%	3	5.2%	8	10.8%	32	30.2%	2	33.3%	1	16.7%
合計	368	100.0%	17	100.0%	38	100.0%	63	100.0%	58	100.0%	74	100.0%	106	100.0%	6	100.0%	6	100.0%

回答者数(合計－無回答) 315 16 37 58 55 66 74 4 5



(6)外国人と付き合う際に困ったこと

言葉が通じない。考え方がわからないので、相手の反応を確認しながら話を進めるようにした。

難しい日本語が通じない

言葉の理解

言葉

考え方の違い。言葉がわからない。

ルールを守らない。ごみを放置する。騒ぐ(昼夜気にせず)。においがきつい。

言葉が通じない

言葉が通じないこと

生活の違い。考え方の違い。アメリカの様に、日本に住む為には日本のルールに従いますという申請書を出させたいかが？

地区でのルールを理解してもらえない。掃除やごみ捨てが特に。

言葉が通じない

文化、習慣

言語がお互いに通じない

言葉

言語の壁が大きく感じた。日本の英語の教え方が変だと思った。日本は海外の言葉を特別扱いしすぎていると感じる。子供が言葉を教えるのと同じように教えれば良いと思う。学校が教えるやり方からそう感じた。

決まり事などなかなか理解してもらえない。

ルールを守ってくれなかったこと。自分勝手にわがままで、勝手に休むところ(仕事での話)

言葉も多様でコミュニケーションをどうとるか。相手側がこちらに心を開いてくれる方法の模索。

言葉が通じない。ごみの出し方、ごみ袋に名前も書かない。

生活習慣の違い

簡単な言葉はわかるが、心の内は理解できない。理解してもらえない。

言葉

言葉が通じない。ルールを守らない。

伝えたい事もちゃんと伝える事ができない(言葉の違いで)

言葉、習慣の違い

言葉 細かいニュアンスが通じない

言葉が通じない

言葉

会話するときに英語が話せない。

LINEを送る時に漢字を使っても大丈夫なのかわからなかった。全部ひらがなで送ったが失礼にならないか心配だった。

語学のなさ、言葉が通じないこと。

言葉が通じない

言葉がわからなかったこと

言葉が伝わらない

言葉

介護職で中国人女性と働いたことがあったが、自分勝手に仕事のルールは無視。注意しても聞いてくれず…。コミュニケーション的にギクシャクした。

○言葉が通じなかったり、相手が漢字を読めない事があった。
○都合が悪くなった時に日本語がわからないと、悪いことを認めない。
○言葉が通じないときがある。
○地域の行事での伝言がどこまで伝わったか心配になる。
○言葉
○言葉、コミュニケーション
○相手は日本語をしゃべれるが、細かな意味、ニュアンスが伝わらない。
○多分言葉が通じないのが大きな問題では？
○言語、習慣
○言語が通じ合わないため、コミュニケーションがとりにくい。お互いの文化を分かり合わなければならない。
○仕事での会話ができない。
○言葉の違い
○文化が違うせいか、自治会に参加しないし、会費も払いたがらない(一応払ってくれるが)。班長もやらないと思う。同じ班の班長は困る。連絡がそもそもつかない。自治会というもの自体を何とも思っていない。
○言葉がわからない
○言葉、会話
○言葉の問題で上手く伝えられない。
○言葉、文化の違い
○言葉がわからない
○理解していないのに返事は「はい！」しか言わない。わからないならわからないと言ってくれないから困る。

言葉が上手く伝わらない。文化の違いに戸惑った。

近所にコンビニがあるが、2~3時間大きな声で話をしていて、そこが彼らの集会所みたいで大迷惑です。そのコンビニに言ってもと思い我慢しています。すごいストレスです。なぜ彼らは声が大きいのでしょうか。

生活習慣、考え方の違いから、近所に住む人には迷惑を感じる人が多い。

「はい」と答えても実際はわかってないことがよくある。

相互の言葉の理解

日本語が伝わらない

言葉、特に漢字

生活習慣の違い。考え方が違う。

会話

言葉

言葉、文化の壁

コミュニケーションがとれない(言葉など)

文化の違い

食文化の違い

言葉が通じない

自分の意見は絶対！という感じで意見を聞かないところ。

言語の問題

言語の問題、しかし伝えたい思いがあれば伝わることも多かった。

言葉(相手に求めるのではなく、自分に能力がない事)

言葉が通じない

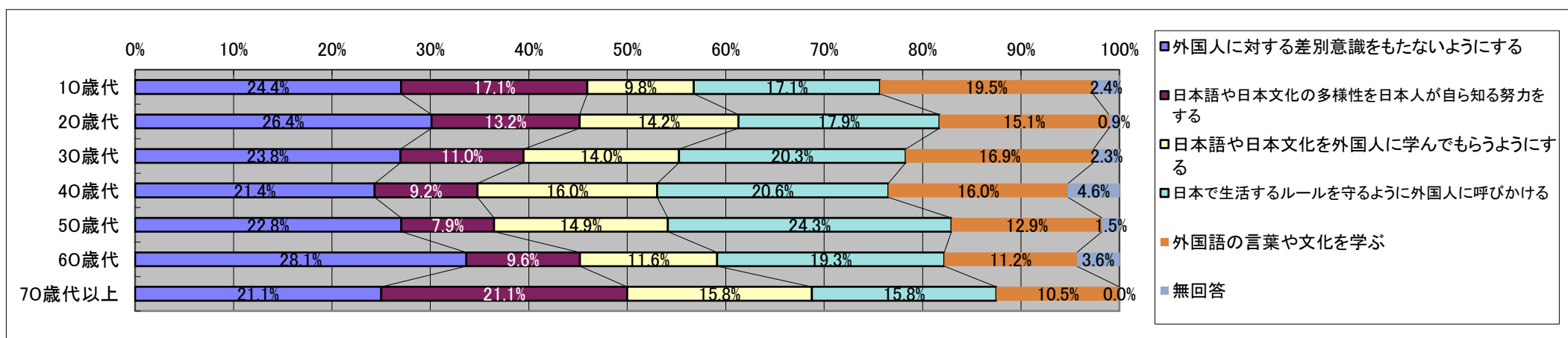
コミュニケーションがうまくとれない。文化の違い。

○生活習慣の違い(食事等)
○日本のルールを守れない外国人は困る。日本のルールを守れないのなら日本に来るべきではないと考える。
○意思疎通ができていないのか不安になりました。
○言語、言葉が通じない
○中国人。日本人では当たり前のルールを守れず、注意すると感情的になり、手が付けられない。
○仕事面において事務的で割り切りすぎる。細かなルールを守らない。
○言葉が通じない。時間に対する考え方が違う(集合時間厳守など)
○言語、習慣の違い
○言葉が通じない。考え方が違いすぎて、自分のもつ常識とかけ離れた話か行動に戸惑う。
○言葉が通じず、意思疎通が難しいことがあり困りました。
○三密なところ
○外国の言葉がわからない。何を考えているかわからない。においが気になる。
○日本の慣習や考え方、捉え方が先方と違うので、なぜ? どうして? の質問にはっきりと答えられない時もある。
○言葉の問題で上手く伝えられない。
○対話。話をしている言葉が通じないことがあった。文化の違い。食事を誘った際割り勘にしましたがブラジルでは誘った方が支払うと言われた。
○犯罪などの強要や黙認(不法滞在など)等の要求を求められる。こうした外人を指摘すると「差別」扱いになる。ブラジル人やフィリピン人からの殺人予告、壁や窓などをたたき脅迫され、菊川警察を呼び対応をしてもらおうにも、「差別だから対応できない」と言われた。証拠映像を見せても対応しない地区。外人の犯罪が野放し状態。
○言葉が上手く通じない
○宗教の勧誘

(7)あなたは外国人と関わる中で良かったことはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

○10歳代～60歳代では「外国人に対する差別意識をもたないようにする」と回答する割合が最も高くなっており、70歳代では「外国人に対する差別意識をもたないようにする」「日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする」の割合が同数で最も高くなっている。

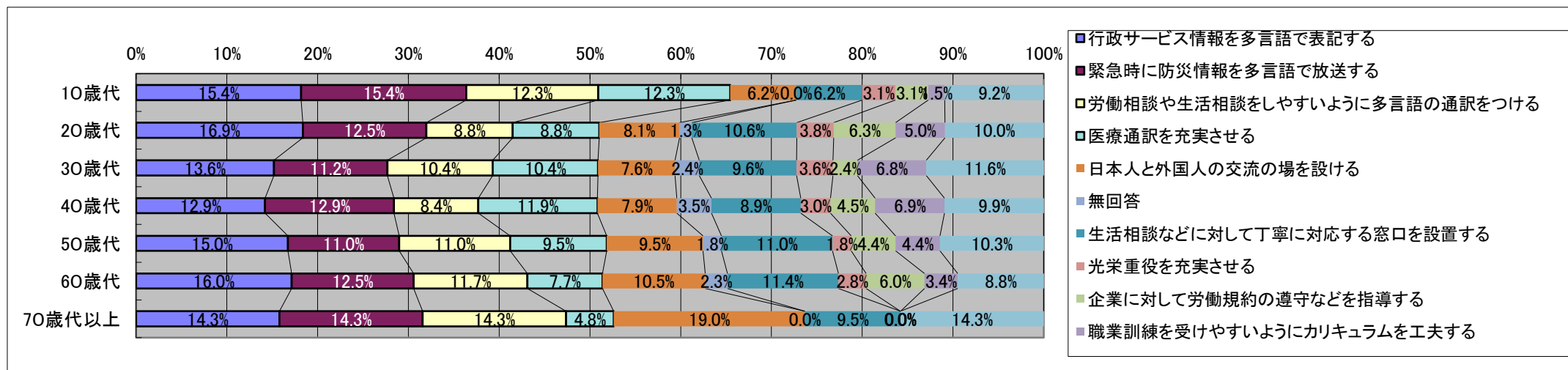
選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
外国人に対する差別意識をもたないようにする	230	24.7%	10	24.4%	28	26.4%	41	23.8%	28	21.4%	46	22.8%	70	28.1%	4	21.1%	3	25.0%
日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする	97	10.4%	7	17.1%	14	13.2%	19	11.0%	12	9.2%	16	7.9%	24	9.6%	4	21.1%	1	8.3%
日本語や日本文化を外国人に学んでもらうようにする	126	13.5%	4	9.8%	15	14.2%	24	14.0%	21	16.0%	30	14.9%	29	11.6%	3	15.8%	0	0.0%
日本で生活するルールを守るように外国人に呼びかける	191	20.5%	7	17.1%	19	17.9%	35	20.3%	27	20.6%	49	24.3%	48	19.3%	3	15.8%	3	25.0%
地域住民との交流や地域の活動に外国人に参加を呼びかける	130	13.9%	4	9.8%	13	12.3%	20	11.6%	16	12.2%	32	15.8%	41	16.5%	3	15.8%	1	8.3%
外国語の言葉や文化を学ぶ	133	14.3%	8	19.5%	16	15.1%	29	16.9%	21	16.0%	26	12.9%	28	11.2%	2	10.5%	3	25.0%
無回答	25	2.7%	1	2.4%	1	0.9%	4	2.3%	6	4.6%	3	1.5%	9	3.6%	0	0.0%	1	8.3%
合計	932	100.0%	41	100.0%	106	100.0%	172	100.0%	131	100.0%	202	100.0%	249	100.0%	19	100.0%	12	100.0%
回答者数(合計－無回答)	907		40		105		168		125		199		240		19		11	



(8)日本人と外国人がともにしやすい社会にしていくために、行政はどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。当てはまるものすべてを選んでください。

○10歳代、40歳代、70歳代では同数で「行政サービス情報を多言語で表記する」「緊急時に防災情報を多言語で放送する」と回答する割合が最も高くなっており、「特になし」の割合が高くなっている。

選択項目	総計		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		無回答	
	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
行政サービス情報を多言語で表記する	199	14.9%	10	15.4%	27	16.9%	34	13.6%	26	12.9%	41	15.0%	56	16.0%	3	14.3%	2	16.7%
緊急時に防災情報を多言語で放送する	163	12.2%	10	15.4%	20	12.5%	28	11.2%	26	12.9%	30	11.0%	44	12.5%	3	14.3%	2	16.7%
労働相談や生活相談をしやすいように多言語の通訳をつける	139	10.4%	8	12.3%	14	8.8%	26	10.4%	17	8.4%	30	11.0%	41	11.7%	3	14.3%	0	0.0%
医療通訳を充実させる	128	9.6%	8	12.3%	14	8.8%	26	10.4%	24	11.9%	26	9.5%	27	7.7%	1	4.8%	2	16.7%
無料の日本語教室を開く	117	8.8%	10	15.4%	13	8.1%	21	8.4%	19	9.4%	28	10.3%	24	6.8%	2	9.5%	0	0.0%
日本人と外国人の交流の場を設ける	119	8.9%	4	6.2%	13	8.1%	19	7.6%	16	7.9%	26	9.5%	37	10.5%	4	19.0%	0	0.0%
生活相談などに対して丁寧に対応する窓口を設置する	136	10.2%	4	6.2%	17	10.6%	24	9.6%	18	8.9%	30	11.0%	40	11.4%	2	9.5%	1	8.3%
光栄重役を充実させる	38	2.8%	2	3.1%	6	3.8%	9	3.6%	6	3.0%	5	1.8%	10	2.8%	0	0.0%	0	0.0%
企業に対して労働規約の遵守などを指導する	68	5.1%	2	3.1%	10	6.3%	11	4.4%	9	4.5%	12	4.4%	21	6.0%	0	0.0%	3	25.0%
職業訓練を受けやすいようにカリキュラムを工夫する	64	4.8%	1	1.5%	8	5.0%	17	6.8%	14	6.9%	12	4.4%	12	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
外国人に対して差別がなくなるように外国文化などを理解する機会を設ける	134	10.0%	6	9.2%	16	10.0%	29	11.6%	20	9.9%	28	10.3%	31	8.8%	3	14.3%	1	8.3%
無回答	29	2.2%	0	0.0%	2	1.3%	6	2.4%	7	3.5%	5	1.8%	8	2.3%	0	0.0%	1	8.3%
合計	1,334	100.0%	65	100.0%	160	100.0%	250	100.0%	202	100.0%	273	100.0%	351	100.0%	21	100.0%	12	100.0%
回答者数(合計－無回答)	1,305		65		158		244		195		268		343		21		11	



(9) 多文化共生に対する ご意見、ご要望

○外国人への偏見はあまりないですが、税制面で日本人の税金で外国人の人は優遇されすぎではないか？という話を聞きました。実態はわかりませんが、家族で帰国できるほど控除を受けて、一度帰国する人もいたと聞きました、私たちはそんなに控除を受けられないですし、税金も多く払っているので、納得できない気持ちがあるのは無理ないと感じた出来事でした。多文化共生であればその辺も課題となると思います。

○高齢化、国際化が進んでいる世の中では、外国籍市民の力を必要とせざるを得ないと感じています。特に公共施設等での多言語に対応できる機器や窓口を充実させていただきたいと思います。

○何より人間としての優しさをもって外国人に接することが大切だと思います。

○日本は英語教育の始まりが遅い気がする。外国の文化ももっと勉強し、特に韓国など朝鮮に対する差別がひどいため、理解しあえるような環境を望む。

○日本に来る前に、日常生活で困らないレベルの日本語を覚える。または、通訳を雇う等してコミュニケーションを取ってほしい。

○問37 は差別が生じていると感じました。3.「学んでもらうようにする」→「学びやすい環境を整える」にした方がいいと思いました。

○共通言語に触れる機会が多ければ多いほど、多文化理解が(英語、中国語)増えると思います。

○全て反対です。日本に好んで来ているにもかかわらず、なぜ税金を使って上記の様な事もする必要があるのですか？行政サービス等全て日本語と英語でいいのでは？アメリカやフランスではその国の言葉が話せないと生活するのは難しい。だから現地の言葉を覚えるのです。日本人が海外で生活する時に相手国は上記の様なサービスはしません。日本人がそこにあわせています。

○外国人の方も自己主張できる場があるといい。私達が外国人が何を考えているか、考え方等知り、理解しあうことができる。とにかく学校、会社等日常での交流を大切にしている外国人が、日本で暮らす時困っている事を知りたいです。

○全体的に問の内容が差別的な質問になっていて、これを作成した人々の方が差別意識をもっているのではと感じる。

○多文化共生は良いと思う。でも強制とかは良くないと思う。やりたい人はSNSとかあるから勝手にやると思うから、そういう人がいたらサポートできるようなサービスや制度があったら良いと思う。留学とかお金がないとできないから、こういうのをサポートするとか。

○自分の仕事では、人材さん(日本人は今はいなくて、フィリピン人が多数、ブラジル人が少数)は、同じ仕事をして正社員になった人はありません。部署を異動させるから、日本政府は忙しい時に外国人を入れ、バブルだ、リーマンだ、コロナだ、外国人の職をなくしている。保護をしていないでしょ。菊川は外国人いっぱいいるのだから、仲良くもっと助けてやらないと、国にも会社にも言ってください(同一労働、同一賃金と正社員のこと)。そして、仲良しになる企画いっぱい作ってください。外国と外国人と仲良しになるのが平和だと思います。男も女も同じことできる社会が男女平等だと思います。先進国の中で、コロナ禍で一番あいまいでヤバイジャッジになっているので、チシット菊川市役所お願いします。

○今もやっていると思いますが、中・英・ポルトガル語は曜日を決めて相談窓口を開く。

○犯罪する外国人の通報が毎日のようにあるが、犯罪をしなければならないほど追い込んだのは日本人では？文化の理解は重要だが、そんなことよりもっとお金をあげてほしい。衣食足りて礼節を知るように、まずは最低を目指すべき。今は最低下にある気がしてならない。菊川に来て2年目だが、怖い外国人に絡まれる機会が多い。浜松ではなかった。

○近所に外国人が住んでいる場合は、積極的に話しかけ、地域になじめるように努力することが大事だと考えます。

○アンケートを住民全員に配布し、実情を広報誌などで結果を報告してほしい。子供も大人も考え方はそれぞれだと思う。形だけのアンケートは必要ないと考えます。この中にも、意味わからない質問が多々あったように思います。形式にとられないアンケートをお願いします。

○外国人はこわいという意識があります。気を付けなくてはいけないと思っています。

○国や性別など関係なく、人間は一人ひとり違って当たり前という考えに、一人ひとりが理解していくことが大切だと思います。

○あぶない外国人もいるのでそこが心配

○日本語の定着努力

○今は外国人との交流がほぼないので、逆に交流したいと思います。

○外国人の賃金上昇がない限りは解決は絶対に無理です。

○あまり興味ない

○長い歴史から見て、柔軟な日本人は外国の文化を取り入れるのが上手いので、このままで良いと思う。自然にまかせて！

○行政は、モデルとなる都市（浜松等）に担当する方を外向させ、トレーニングを受け、問題点又菊川市に受け入れる事を勉強させる。それからの展開とする。まず、行政は学習が必要！

○差別以前に、日本人の生活を壊さないでほしい。好き放題されて迷惑しか感じない人もいる。できればいなくなってほしい。

○今の子どもは周りに外国人が多く差別意識がない。お互いが尊重している。行政としては、困っている人をフォローしてほしい。

○理解の無い外国人は不用。

○今の子どもは周りに外国人が多く差別意識がない。お互いが尊重している。行政としては、困っている人をフォローしてほしい。

○学校では、日本語のわからない子、金銭的に厳しく様々な費用が払えない家庭、日本の生活に適應していない人など、企業が受け入れるだけ受け入れ、学校、教育が乱れている。しっかりと適應するように対応願いたい。

○近所に外国の方がいるが、言葉の細かいニュアンス等はどうしても難しい部分がある。受け入れる側も「自分が外国で生活することになった場合」をイメージし、もう少し外国の方にやさしい受け入れ態勢をとるべき。（意識の問題なので、すぐには変わらないと思うが）

○お互いが文化や宗教の違いを認識する。
○外国人の方に本音の部分聞き出させていただくのがいいと思います。住みやすい街について など。
○多様性を認めていくべきだと思う。
○外国人に日本語を覚えてもらうばかりではなく、日本人も英語以外、地域に合った言葉を学ぶ気持ちと機会を増やす。
○日本で暮らす以上、日本語を理解し、ルールを守ることが必須であると思う。私は、真面目に働き日本のルールを守る外国人は好きだが、そうでない外国人は嫌いである。これは人種差別ではないと思っている。やたら優しくしたがる日本人が理解できない。
○日本人の住民も外国人の方々に対しての苦手意識などを持たないように、偏見が減るように努力できる場があればと思う。特に、年代が上だとより偏見が強くなるので、その気持ちが少しでも和らぐような活動があれば良いのかもしれない。
○お互いの文化の違いを認め合い、理解しながら生きていけたら良いと思います。
○地域のルールを理解し守ってもらうことができるように、注意事項等にできるだけ外国の住人の理解できる言葉を添えること必要だと思う。(ゴミ出し、ペットなど)
○お互いの文化をよく学び、話し合う場を積極的に持つ方が良い。まず、ここは日本です。自国ファーストです。相手ファーストではありません。そこをはき違えるから、中国や韓国になめられ、侵略されるのです。自国ファーストに考えなければ、いつまでたっても外交はおろか健全な地域社会が築けないと私は思います。
○外国人と共生する上で、日本に住む以上外国人は日本語を学び、日本のルールを理解し守る必要があると思います。
○家族のものが職場でイスラムの人と食事をする際、豚肉、牛肉が食べることができないと言い、非常に困ったと言っていました。
○日本の文化だけに着目するのではなく、外国の文化にも着目し、理解を得ることが必要かと思います。「自国の文化が当たり前」という考え方では、日本人と外国人が共に暮らしやすい、生活しやすい環境というのは生まれないかと思います。両国の文化を尊重しあうことが共に生活しやすい場を作り出すのではないかと思います。
○同じ日本でも市外、県外などでも習慣やしきたりの違いはあります。外国の文化や感覚も戸惑いますが、興味もあります。子ども同士が公園で一緒に遊んでいることもあるので、大人も笑顔で楽しんでいました。昔の友人に外国の方がいましたが、文化を教わったり、おいしい食事をごちそうになり、より一層仲良くなれた気がしました。
○毎年アンケートをやっている気がします。同じ人ではなく、異なる人にやってください。送付する人の記録はないのですか？結果はどのように公表しているのですか？アンケートは役に立っているのですか？疑問です。毎年やるたびに思います。
○外国人の方が日本に住むには、各地方公共団体などで「住むための研修」を受けることが必要だと思う。その国の地域性もあるため、日本に外国人を入国させるのなら、日本の生活マナーやルール等の教育が必要。日本人の連れ去り事件等のリスクを避ける犯罪を防ぐ努力も必要。常に平和ではない。危機感を持つこと。
○日本人に対する人権がまるで感じられない最悪なものでした。最後に、私はハーフであり、日本人愛しています。
○自分の勤める工場では、外国の方がたくさんいらして真面目に働いてくれ助かっています。差別なく感謝の気持ちを持ちたいと思います。
○一軒家に住んでいると地域の付き合いが多く、日本人でも理解に苦しむことや不思議なことがあります。今までの習慣の押し付けもありますが、そこに意見を言うのは至難です。同調圧力が半端ないです。多文化共生の前に、この同調圧力や村意識をなくすことでは？と思うけど、地元愛や地域コミュニケーションと表裏一体なのでなんとも難しい。

Ⅲ 調査票

男女共同参画・多文化共生に関する市民アンケート

＜調査の趣旨とご協力のお願い＞

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

本市では、平成29年3月に「第3次菊川市男女共同参画プラン」を策定し、女と男がお互いを認め合い、協働して、自分らしく暮らすことができるまちを目指し、「男女共同参画社会」の実現に向けた取組みを進めています。

この調査は、基本計画に掲げた目標の達成状況の確認や、今後の施策の実施にあたって、市民の皆さんのお考えをお聞きするため、市内に在住する16歳以上の男女の方から1,000人を無作為に選ばせていただき、実施するものです。

また、菊川市では、「国籍を超えて、誰もが安心して暮らせる多文化共生社会」の実現を目指し、様々な取組を進めています。多文化共生に関するアンケート調査につきましても、併せて回答をお願いいたします。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和2年12月23日 菊川市

調査票記入にあたってのお願い

- 記入にあたっては、原則としてあて名のご本人がお答えください。
- このアンケート調査は無記名回答方式ですので、名前を記入する必要はありません。また、調査結果は統計的に処理し、個人に関わる情報を公表することはありませんので、ご迷惑をおかけすることは決してありません。ありのままを回答していただくようお願いいたします。
- ボールペンまたはえんぴつなどではっきりと記入してください。
- 質問ごとに当てはまる回答の番号を選び、その番号を○で囲んでください。
○をつける数は、質問中の指示にしたがってください。
- 回答していただく方が限られる質問もありますので、質問の前の指示にしたがってお答えください。指示のない質問については全員がお答えください。
- 回答が「その他」に当てはまる場合は、()内になるべく具体的にその内容を記入してください。

記入していただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、1月22日(金)までにポストに投函してください。その際、封筒への記名や切手を貼る必要はありません。

- 不明な点や調査についてのお問合せ

菊川市総務部地域支援課 市民協働係 (担当 松下)
TEL:0537-35-0925 FAX:0537-35-0977

1 回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについておたずねします。

問1 次の(1)～(8)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

(1)あなたの性別は

1. 男 2. 女 3.その他

(2)あなたの年齢は

1. 10歳代 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代
5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代以上

(3)あなたのお住まいの地区はどちらですか

1. 西方 2. 町部 3. 加茂 4. 内田 5. 横地
6. 六郷 7. 河城 8. 平川 9. 嶺田 10. 小笠南
11. 小笠東

(4)あなたは結婚していらっしゃいますか。

1. 未婚 2. 既婚(事実婚を含む) 3. 離別又は死別

(5)(4)で 2. 既婚と回答した方に、就業の形態についてお聞きます。(パート、アルバイト等含む)

1. 共働き 2. 共働きでない 3. 無職

(6)あなたの世帯構成はどれですか。

1. 一人暮らし 2. 夫婦のみ 3. 2世代家族(子どもと) 4. 2世代家族(親と)
5. 3世代家族 6. その他()

(7)あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、一番下のお子さんは、この中ではどれにあたりますか。

1. 乳幼児 2. 小学生 3. 中学生 4. 高校生
5. 大学生等 6. 学校は卒業した 7. 子どもはいない

(8)あなたの職業についてお聞きます。

1. 農業の自営業主 2. 農業の家族従事者 3. 商工サービス業の自営業主
4. 商工サービス業の家族従事者 5. 1～4以外の自由業 6. 会社員・公務員
7. パート・アルバイト 8. その他の職業() 9. 専業主婦・専業主夫
10. 学生 11. 無職

男女共同参画社会とは

女性も男性もすべての個人が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会のことです。

2 男女のあり方などについておたずねします。

問2 現在の社会において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

(1)～(8)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

	男性が非常に優遇	男性が優遇 どちらかといえば	平等	女性が優遇 どちらかといえば	女性が非常に優遇	わからない
(1)家庭生活では	1	2	3	4	5	6
(2)自治会などの地域では	1	2	3	4	5	6
(3)慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6
(4)学校教育では	1	2	3	4	5	6
(5)職場では	1	2	3	4	5	6
(6)政治や行政では	1	2	3	4	5	6
(7)法律や制度では	1	2	3	4	5	6
(8)社会全体として	1	2	3	4	5	6

問3 今後、男女が不平等を感じないようにするために、重要なことは何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 法律や制度の上で見直しを行い、女性差別につながるものを改める
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習やしきたりを改める
3. 女性自身が経済力をつけたり、知識・技能を修得したりするなど、積極的に力を向上させる
4. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
5. 行政や企業などの重要な役割に、一定の割合で女性を登用する制度を採用する
6. 子どもの時から家庭や学校で男女の平等について教える
7. その他()
8. わからない

3 家庭生活全般についておたずねします。

問4 あなたは、次にあげる家事は、誰が分担するのが望ましいと思いますか。

(1)～(11)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

	主に妻	主に妻だが 夫も分担	夫と妻が 同程度	主に夫だが 妻も分担	主に夫	その他	わからない
(1) 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6	7
(2) 食事づくり	1	2	3	4	5	6	7
(3) 食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6	7
(4) 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6	7
(5) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
(6) 掃除	1	2	3	4	5	6	7
(7) 家の修繕	1	2	3	4	5	6	7
(8) ゴミだし	1	2	3	4	5	6	7
(9) 子どものしつけや家庭教育	1	2	3	4	5	6	7
(10) 家族の介護	1	2	3	4	5	6	7
(11) 地域行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7

問5 結婚している方にお聞きします。

あなたの家庭では、日常の家事の分担をどのようにされていますか。

(1)～(11)の項目について、それぞれ1つを選んでください。

	主に妻	主に妻だが 夫も分担	夫と妻が 同程度	主に夫だが 妻も分担	主に夫	その他	わからない
(1) 日常の家計管理	1	2	3	4	5	6	7
(2) 食事づくり	1	2	3	4	5	6	7
(3) 食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6	7
(4) 食料品・日用品の買い物	1	2	3	4	5	6	7
(5) 洗濯	1	2	3	4	5	6	7
(6) 掃除	1	2	3	4	5	6	7
(7) 家の修繕	1	2	3	4	5	6	7
(8) ゴミだし	1	2	3	4	5	6	7
(9) 子どものしつけや家庭教育	1	2	3	4	5	6	7
(10) 家族の介護	1	2	3	4	5	6	7
(11) 地域行事等への参加	1	2	3	4	5	6	7

問6 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのようにお考えですか。
次の中から1つを選んでください。

1. 賛成である
2. どちらかといえば賛成である
3. どちらかといえば反対である
4. 反対である
5. わからない

問7 問6のように考えるようになった理由を次の中から3つまで選んでください。

1. 親がそうだった、また、そう教えられたから
2. 親の考え方に疑問を持ったから
3. 学校でそう教えられたから
4. 配偶者の考えに影響されたから
5. 友人や周りの人の考えに影響されたから
6. 講演などに参加して影響されたから
7. 新聞・雑誌・テレビなどに影響されたから
8. 当然だから
9. その方が子どものためになるから
10. 男性または女性の方が向いていると思われるから
11. 男性または女性としてその方が望ましいから
12. その他()

問8 仕事、家事、育児、介護について男女がどのようにかかわるべきであると思いますか。
次の中から1つを選んでください。

1. 男性が外で働き、女性が家事・育児・介護を行う
2. 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は女性が主に行う
3. 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男女で分担する
4. 男女ともに職業を持ち、家事・育児・介護は男性が主に行う
5. 女性が外で働き、男性が家事・育児・介護を行う
6. その他()

4 仕事についておたずねします。

問9 一般的に、女性が職業を持つことについて、次のうちどれが望ましいと思いますか。
次の中から1つを選んでください。

1. 女性は職業を持たないほうがよい
2. 結婚するまでは職業を持つほうがよい
3. 子どもができるまでは職業を持つほうがよい
4. 子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つほうがよい
5. 子どもができてずっと職業を続けるほうがよい
6. その他()
7. わからない

問10 女性が職業を持つことについて、あなたの現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。次の中から1つを選んでください。

※男性の方は配偶者の働き方など、ご家庭での状況で現実に当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)をお答えください。

1. 職業を持たない
2. 結婚するまでは職業を持つ
3. 子どもができるまでは職業を持つ
4. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ
5. ずっと職業を続ける
6. その他()
7. わからない

問11 現在仕事をしている方におたずねします。

あなたは職場の中で、女性について次のように感じることはありますか。

以下それぞれの質問についてお答えください。

	ある	ない
(1) 責任ある仕事を任せない傾向がある	1	2
(2) 教育訓練の機会が少ない、またその内容が異なる	1	2
(3) 能力を生かせる機会や配置転換が少ない	1	2
(4) 男性にくらべ昇進・昇格が遅い	1	2
(5) 結婚・出産を機に退職する習慣や圧力がある	1	2
(6) 女性上司の下で仕事をするには、正直抵抗感がある	1	2
(7) 女性に対して身構えたり、甘やかしたりする上司や同僚がいる	1	2

問12 あなたは、女性が働きにくいとすれば、その理由は何だと思えますか。

あてはまるものすべてを選んでください。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. 結婚・出産退職等の慣行 | 2. 賃金の男女格差 |
| 3. 昇進・昇格における男女の格差 | 4. 仕事内容における男女の格差 |
| 5. 長時間労働や残業 | 6. 雇用形態にパートタイムや臨時雇いが多いこと |
| 7. 育児休暇が取得しにくいこと | 8. 育児施設(保育園など)の不足 |
| 9. 育児休暇の制度が整っていないこと | 10. 介護休暇が取得しにくいこと |
| 11. 介護施設(特別養護老人ホーム等)の不足 | 12. 介護休暇の制度が整っていないこと |
| 13. 職場における人間関係 | 14. 家族に反対されたり、協力が得られないこと |
| 15. 女性自身の知識や技術不足 | 16. 女性自身の就労意欲が低いこと |
| 17. その他() | 18. 特になし |
| 19. わからない | |

5 子育て・教育についておたずねします。

問13 あなたは、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」という育て方についてどのように思えますか。

次の中から1つを選んでください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問14 あなたは、子育てにおいて父親と母親の役割は同じであると思えますか。

次の中から1つを選んでください。

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. どちらかといえばそう思わない
4. そう思わない
5. わからない

問15 子どもを育てやすい環境づくりをするには、行政としてどのような取組が必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 扶養手当、児童手当などの拡充
2. 保育料・教育費など経済的負担の軽減
3. 延長保育、乳児保育、病後児保育など多様な保育の充実
4. 職場内の保育施設の充実
5. 親の急病などの際の臨時的な保育サービスの普及
6. 地域交流の充実(高齢者や異年齢児との交流)
7. 親同士の交流や仲間づくりの場や機会の提供
8. 出産休暇や育児休業制度の普及
9. 子育て後の再就職等の支援
10. 育児相談の実施や育児講座の開催
11. 経済的基盤が脆弱な家庭の支援
12. 安全・安心な地域づくり
13. その他()
14. わからない

6 防災についておたずねします

問16 防災分野に女性が参画するために、どのような施策が必要だと思いますか。
次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 防災や災害現場で活躍する女性リーダーを育成する
2. 市の防災会議や災害対策本部に女性の委員や職員を増やす
3. 女性の視点を取り入れた備蓄品等を配備する
4. 男女共同参画の視点を含んだ防災講演会等を開催する
5. 女性消防団員による避難所支援など女性の活躍推進を図る
6. 日ごろから男女共同参画意識を高める
7. 日ごろからのコミュニケーションや地域でのつながりを大切にする
8. 女性に配慮した避難所マニュアルなどをつくり、女性が安全に過ごせるようにする
9. 地域防災拠点の運営に女性も参画できるようにする
10. その他()
11. わからない

7 性の多様性についておたずねします。

問17 LGBT※について知っていますか。次の中から1つを選んでください。

1. 内容まで知っている
2. 言葉を聞いたことがある
3. 全く知らない

※「LGBT」とは・・・レズビアン（女性として女性が好きな人）、ゲイ（男性として男性が好きな人）、バイセクシュアル（男性も女性も好きになる人）、トランスジェンダー（生まれたときの性別とは異なる姓を自認する人）の英語の頭文字をとった言葉。「性的少数者」には、LGBT以外にも、誰に対しても性愛感情を抱かない人や、自分自身の姓を決められない・わからない、などさまざまな人がいます。

問18 性の多様性への理解を促進するために、行政としてどのような取組が必要だと思えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 啓発リーフレットの作成、配布
2. ホームページやSNSを活用した情報発信
3. 相談できる窓口の設置
4. パートナーの関係を先制できる制度の創設
5. 性の多様性を理解するための学校教育
6. 市民向け講座等の開催
7. 行政職員や教職員等への研修の実施
8. LGBTの方との交流の場を設ける
9. LGBTの方同士が交流できる居場所づくり
10. 性別での区別の配慮
11. その他()

8 ワーク・ライフ・バランスについておたずねします

問19 ワーク・ライフ・バランス※について知っていますか。次の中から1つを選んでください。

1. 内容まで知っている
2. 言葉を聞いたことがある
3. 全く知らない

※ワーク・ライフ・バランスとは・・・働くすべての人々が、仕事と仕事以外の生活（育児や介護、趣味や学習、休養、地域活動等）との調和をとり、その両方を充実させる働き方・生き方のこと。

問20 生活の中で「仕事」「家庭生活(家事・育児等)」「プライベートな時間(趣味等)」「地域活動(自治会等)」の優先度についてお聞きします。「希望」と「現実」の優先度について、あなたの答えや現状に最も近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。

【希望】

1. 仕事優先
2. 家庭生活優先
3. プライベート優先
4. 地域活動優先
5. 仕事と家庭生活優先
6. 仕事とプライベート優先
7. 仕事と地域活動優先
8. 家庭生活とプライベート優先
9. 家庭生活と地域活動優先
10. プライベートと地域活動優先
11. 仕事・家庭生活・プライベート・地域活動ともに優先

【現実】

1. 仕事優先
2. 家庭生活優先
3. プライベート優先
4. 地域活動優先
5. 仕事と家庭生活優先
6. 仕事とプライベート優先
7. 仕事と地域活動優先
8. 家庭生活とプライベート優先
9. 家庭生活と地域活動優先
10. プライベートと地域活動優先
11. 仕事・家庭生活・プライベート・地域活動ともに優先

問21 ワーク・ライフ・バランスを推進することのプラスの効果として考えられるものすべてを選んでください。

1. 家事・育児・介護などの家庭責任を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる
2. 女性の継続就業や希望する働き方の再就職が容易になる
3. 自己啓発や趣味の時間が増え、能力を高めたり、満足度を得たりすることができる
4. 働く人々が地域活動にかかわることができるようになり、地域の活性化と安全性の向上につながる
5. 長時間労働が減り、心身の健康によい影響を及ぼす
6. 人口減少が進行する中、女性や高齢者など多様な人材が活用できるようになり、労働力不足の解消になる
7. 一人ひとりの仕事への満足度が向上し、能力が十分に発揮され、生産性の高い効率的な働き方ができるようになり、日本経済の競争力も高まる
8. 仕事をもつ男女が、子どもとかかわることができる時間が増え、安心して子どもを産み育てることができる
9. 労働時間や働き方の柔軟性などの仕事と家庭の両立環境や、子育て環境が整い、ひいては少子化の進行を防ぐことができる
10. 企業が個々の様々なニーズ(希望や必要性)に対応した就業環境を提供することで、従業員の意欲や満足度が高まるので、優秀な人材を確保・定着させることができる
11. その他()

9 社会参加についておたずねします。

問22 あなたは、女性があまり進出していない分野に女性が進出するために、どのような方法をとるのがよいと思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 国や地方公共団体の審議会・委員会の委員などに、女性を積極的に任命する
2. 国や地方公共団体が、職員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする
3. 国や地方公共団体が、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する
4. 企業などが、社員の採用や管理職への登用などで、女性の数や比率を定める割当制を設けるようにする
5. 企業などが、自主的に女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促したりする計画を策定する
6. 理工系などの女性の少ない大学の学部への進学を促すため、啓発や情報提供などの支援を行う
7. 女性の起業家に対し、融資などの支援を行う
8. 防災、地域おこし・まちづくり・観光、環境の分野への女性の参画を拡大する
9. その他()
10. わからない

問23 男女がともにあらゆる場面(仕事、家事、育児、介護、地域活動など)に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 職場中心という社会全体の仕組みを改めること
3. 仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること
4. 育児・介護に関するサービスを充実すること
5. 労働時間短縮や休暇制度(育児休業・介護休暇・ボランティア休暇等)を普及させること
6. 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図ること
7. 男の子・女の子にかかわらず家事などができるようなしつけや育て方をすること
8. 女性が経済的に自立し、社会的責任を果たせるような能力を身につけること
9. 男性が生活面において自立できるような能力を身につけること
10. 職場や仕事中心の生き方、考え方を改めること
11. さまざまな活動に夫婦が一緒に参加すること
12. その他()
13. わからない

問24 家事、育児、介護、地域活動へ男性が参加することに、妨げとなるものは何だと思いますか。次の中から大きな理由と思うものを3つまで選んでください。

1. 男性のほうが進めや自営業などの仕事が忙しすぎる
2. 男性側に「家庭内の仕事や地域活動は女性の仕事」という意識が強い
3. 女性側に「家庭内の仕事や地域活動は女性の仕事」という意識が強い
4. 男性側に恥ずかしいなどの抵抗がある
5. 女性側に分擔させることに抵抗がある
6. 女性のほうがうまくやれるので男性側がやろうとしない
7. 女性のほうがうまくやれるので女性側が分擔させない
8. 男性側に時間があれば自分のために使おうとする傾向が強い
9. できれば避けたいという意識が男性側にある
10. わからない
11. その他()

10 ドメスティック・バイオレンス(DV)についておたずねします。

問25 あなたは、ドメスティック・バイオレンス(夫婦、恋人同士などの親しい間で、身体的・心理的な暴力を受けること)を経験したり、身近で見聞きしたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. 暴力を受けたことがある
2. 身近に暴力を受けた人がいる
3. 暴力を受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたことはない
7. その他()

■ 問25で1. と回答した方におたずねします

問26 これまでに暴力について誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. どこ(だれ)にも相談しなかった
2. 警察に連絡・相談した
3. 公的な相談窓口や電話相談に相談した
4. 民間の機関(弁護士など)に相談した
5. 医師・カウンセラーに相談した
6. 家族に相談した
7. 友人・知人に相談した
8. その他()

■ 問26で1. と回答した方におたずねします

問27 相談しなかったのはなぜですか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

1. 自分さえ我慢すれば、何とかこのままやっていけると思ったから
2. 相談しても無駄だと思ったから
3. 自分にも悪いところがあると思ったから
4. 相談するほどのことではないと思ったから
5. 他人を巻き込みたくなかったから
6. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
7. 世間体が悪いから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思ったから
10. どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
11. 相談すると、担当者の言動で自分が不快な思いをすと思ったから
12. その他()

11 セクシュアルハラスメント、パワーハラスメントについておたずねします。

問28 あなたは、セクシュアルハラスメント(性的いやがらせ)・パワーハラスメント(職権を濫用したいやがらせ)を受けたり、身近で見聞きしたことがありますか。

次の中からあてはまるものすべてを選んでください。

1. いやがらせを受けたことがある
2. 身近にいやがらせを受けた人がいる
3. いやがらせを受けた人から相談されたことがある
4. 身近にはいないが、そうした話を聞いたことがある
5. テレビや新聞などで、問題になっていることを知っている
6. 経験したり見聞きしたりしたことはない
7. その他()

12 男女共同参画社会実現に向けての取組みについておたずねします。

問29 「男女共同参画社会」を実現するために、菊川市の施策に望むことは何ですか。
次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。

- 1 広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発
- 2 学校などにおける男女平等教育の推進
- 3 社会教育・生涯学習の場での学習の充実
- 4 職場における男女平等な取り扱いについての周知徹底
- 5 保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実
- 6 介護サービスの充実
- 7 検診体制や相談など健康に関する事業の充実
- 8 地域コミュニティ活動における男女共同参画の推進
- 9 審議会等の委員への女性の登用
- 10 女性の就労支援の充実
- 11 男女共同参画条例の整備
- 12 その他()

13 あなたからのご意見、ご要望等についておたずねします。

問30 「男女共同参画社会」を実現していくまちづくりについて、ご意見、ご要望、あなたが経験されたこと、感じていることなど、何でも結構ですので、自由に記入してください。

13 多文化共生についておたずねします。

問31 あなたは外国に住んだことがありますか？外国での居住経験がある人は通算何年外国に住んでいましたか。次の中から1つを選んでください。

1. 外国に住んだことはない 2. 通算1年未満 3. 通算1年以上 4. 通算5年以上

問32 あなたは近所の外国人と付き合いはありますか。次の中から1つを選んでください。

1. 親しく付き合っている 2. ときどき話す 3. あいさつをする 4. 付き合いはまったくない

問33 あなたは外国人とどのような付き合いがありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

1. 一緒に働いている(働いていた)
2. 学校で一緒に勉強している、または教えている(勉強していた、教えていた)
3. 友人としてつき合っている(つき合っていた)
4. 自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる(住んでいた)
5. 国際交流グループで一緒に活動している(していた)
6. 子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している(していた)
7. 宗教活動(教会など)を通じて、一緒に活動している(していた)
8. その他のグループや地域活動に一緒に参加している(していた)
9. 外国人とあいさつ程度のつき合いはある(あった)
10. 外国人の知り合いはいないし、つき合いを持ったこともない

問34 あなたは外国人と関わる中で良かったことはありますか。あてはまるものすべてを選んでください。

1. 外国の文化や言葉に興味を持つようになった
2. 地域や職場のルールを再確認できた
3. 地域行事の参加者や協力者が増えた
4. 外国人の友人ができた
5. その他()
6. 特にない

問35 外国人と付き合う際に、困ったことはありますか。どちらか1つを選んでください。

1. はい 2. いいえ

〈問35の質問で1. はいと答えた方に伺います〉

問36 どのような場面でどのようなことに困りましたか。ご自由にお書きください。

問37 地域を外国人とともに暮らしやすい社会にするため、日本人は何をするべきだと思いますか。
あてはまるものすべてを選んでください。

1. 外国人に対する差別意識をもたないようにする
2. 日本語や日本文化の多様性を日本人が自ら知る努力をする
3. 日本語や日本文化を外国人に学んでもらうようにする
4. 日本で生活するルールを守るように外国人に呼びかける
5. 地域住民との交流や地域の活動に外国人に参加を呼びかける
6. 外国語の言葉や文化を学ぶ

問38 日本人と外国人がともに暮らしやすい社会にしていくために、行政はどのような取り組みに力を入れるべきだと思いますか。あてはまるものすべてを選んでください。

1. 行政サービス情報を多言語で表記する
2. 緊急時に防災情報を多言語で放送する
3. 労働相談や生活 相談をしやすいように多言語の通訳をつける
4. 医療通訳を充実させる
5. 無料の日本語教室を開く
6. 日本人と外国人の交流の場を設ける
7. 生活相談などに対して丁寧に対応する窓口を設ける
8. 公営住宅を充実させる
9. 企業に対して労働規約の遵守などを指導する
10. 職業訓練を受けやすいようにカリキュラムを工夫する
11. 外国人に対して差別がなくなるように外国文化などを理解する機会を設ける

多文化共生についてご意見等ありましたら自由お書きください。

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

この調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストに投函してください。